

学術発表

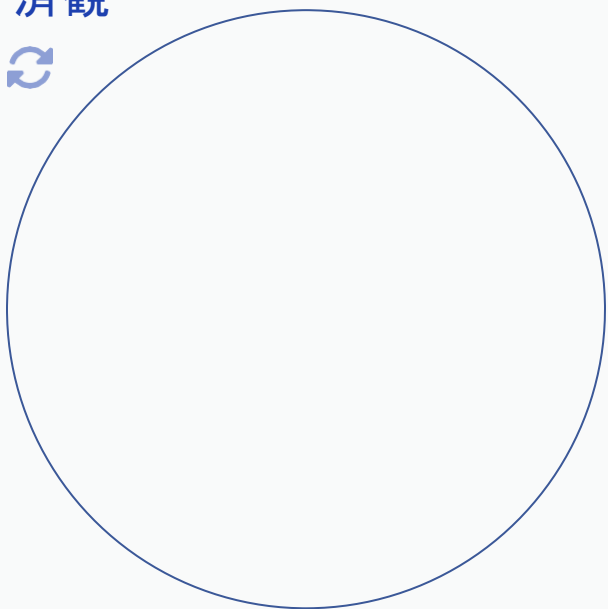
大巡思想の循環的経済観

大巡思想が捉える経済観とポストモダンの経済思想に関する研究



序論

「巡（巡）」の意味と経済観



- 「巡（巡）」とは何か

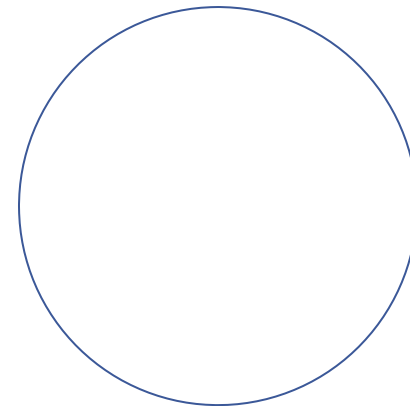
全員を一等にする「循環」の意味

- 大巡思想における経済観の重要性 経済循環の原理を通じた現代経済問題の解決

- 『典経』引用

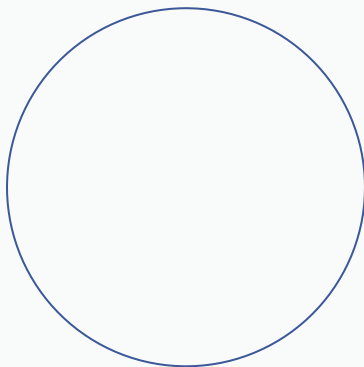
「わが業は、他人が死ぬときに善く生きようとする業であり、他人が善く生きるときに栄華と福祿を享受しようとする業である。」

『典経』教法一章六節



背景

宗教と経済思想の関 係



- **近代以降の経済思想の起源**

経済思想は宗教の循環的経済思想に由来するが、現代に至ってその起源が忘却された

- **マックス・ウェーバーの研究**

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』において、現代資本主義がキリスト教プロテスタントの禁欲主義に起源することを明らかにした

- **東洋宗教と経済発展**

儒仏道と西教は経済発展の原動力としての役割を果たす 宗教思想と経済思想は歴史的に密接に連携している

- **宗教的価値観と経済倫理**

宗教が倫理を発展させ、倫理が経済を発展させる好循環構造



現代における意味

日中韓の経済成長と儒仏道

韓国

中国

日本



- **日中韓の経済成長の背景**

東アジアの卓越した経済成長と文化的基盤の関連性

- **儒仏道の循環的経済思想の再照明**

西洋中心の経済思想から脱却し、東アジア伝統思想の新たな価値を発見

- **東アジア近代化過程と宗教・経済思想**

かつては障害と見なされていた儒仏道が、今日新たな経済動力として再解釈される

- **ポストモダン経済思想への転換**

直線的成長中心の西洋経済観から、循環的調和の東洋的思考へのパラダイム転換

循環と経済

大巡思想の循環的経済観



「金は循環の理により生じて用いる物である」

大巡思想では、四季の循環のように経済も循環すると捉えます。



冬 — 財富観（道教）

資源の蓄積と備蓄の時期、自由至上主義的な経済原理



春 — 労働観（儒教）

生産と労働の価値創出の時期、功利主義的な経済原理



夏 — 財貨観（西教）

豊穡と成長の時期、共同体主義的な経済原理



秋 — 分配観（仏教）

収穫と分配の時期、社会契約主義的な経済原理

● 現代的意味

直線的経済観ではなく循環的経済観により、現代経済問題解決の糸口を提供

宗教間 循環体系



● 儒仏道と西教の相互循環

宗教間の相互補完的關係を通じた経済問題解決の新たなパラダイム

● 4つの経済倫理

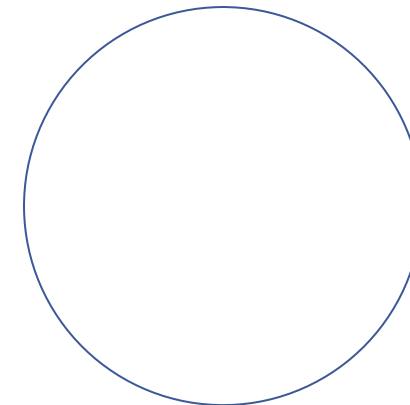
- 自由至上主義：財富観（道）－ 経済的自由と豊かさを追求
- 功利主義：労働観（儒）－ 労働の価値と実用的アプローチ
- 社会契約主義：分配観（仏）－ 公正な分配と社会的合意

● 東洋と西洋の思想の融合

「マテオ・リッチ（利瑪竇）が東洋の文明神を率いて西洋で文運を開いた」

● 大巡思想の循環原理の適用

4つの経済倫理の調和を通じた現代経済問題の解決



ポストモダンの 循環による解法

- **直線的近代思想の克服のための循環原理**

線形的発展パラダイムから循環的パラダイムへの転換

- **4つの経済倫理の現代的調和**

自由至上主義（道教）、功利主義（儒教）、社会契約主義（仏教）、共同体主義（西教）の統合的アプローチ

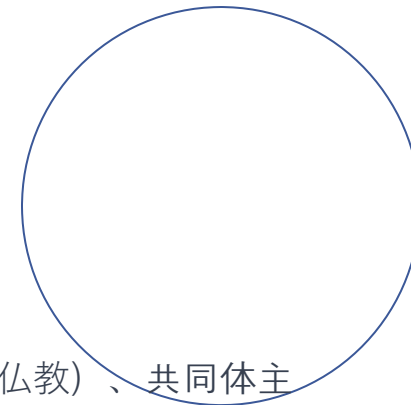
- **大巡的循環原理の適用**

五行、陰陽、合徳、螺線構造の経済的実現

- **経済問題の解決方策**

経済動機の危機、モラルハザード、理念紛争、環境問題の循環的解法の提示

「韓医学において人体のあらゆる病が血液循環によって治せるように、今日の現代経済の問題は循環の原理によって解決できる」



結論

大巡思想から見た経済問題の解答

- **大巡思想の宗旨**
陰陽合徳、神人調化、解冤相生、道通真境を通じた経済的調和
- **儒仏道と西教の統合**
多様な宗教的価値観の相互補完と均衡による経済問題の解決
- **循環的解法の提示**
宗教・倫理・経済の循環の中で新たな経済パラダイムを構築
- **新たな経済展望**
ポストモダンの循環原理を通じた現代経済危機の克服

「血液循環が人体の疾病を治癒するように、経済の循環は社会的問題を解決する」

 循環的経済観を通じた新たな未来

大巡思想の循環的経済観研究

大巡思想の循環的経済観を中心に、現代経済問題と宗教・倫理・経済の相互作用、
そして循環的な解決方策を探究する発表

発表者：[氏名]
]

日時：[日付]

場所：[場所]

研究背景および問題意識

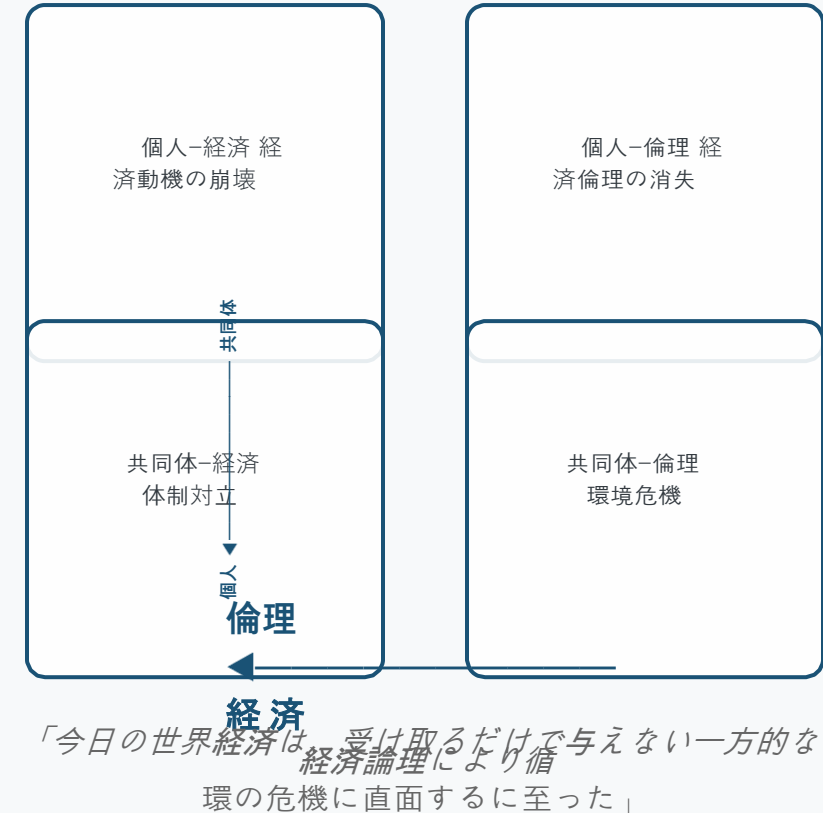
- シーシュポスの神話と現代人の永遠の苦痛：
経済的循環の麻痺
- 急速な物質的发展の中の倫理的・精神的危機
- 経済・倫理・宗教の好循環への不信
- 直線的合理化（鉄の檻）に陥った現代社会



「極度に発達した物質文明の中でも満足を知らない現代人の精神的苦痛は、現代人の経済哲学が儒仏道・西教に由来し、それ自体の存在だけでは問題を解決できない自由至上主義・共同体主義・社会契約主義・功利主義の枠に囚われ、循環の方法によってその枠から抜け出せないところにある。」

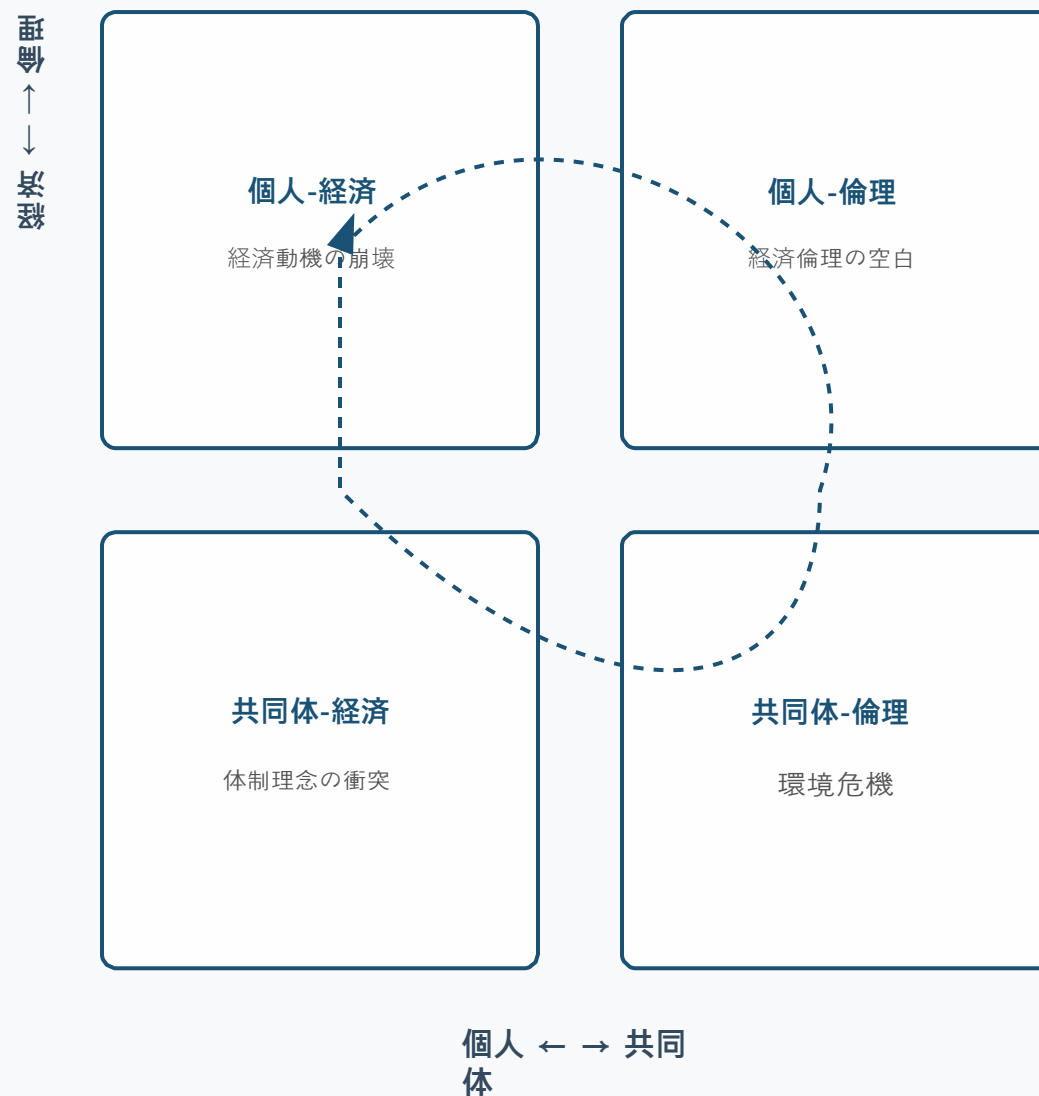
研究の必要性：循環の麻痺と経済危機

- 現代経済危機の核心：循環の麻痺
- 四つの循環的麻痺現象：
 - ① 個人-経済：経済動機の崩壊問題
 - ② 個人-倫理：経済倫理の消失
 - ③ 共同体-経済：資本主義-共産主義の体制対立
 - ④ 共同体-倫理：環境危機の問題
- 宗教と倫理の循環の復元が経済・社会危機の解法
- 東洋と西洋の思想の統合的解決方策



現代経済問題の構造

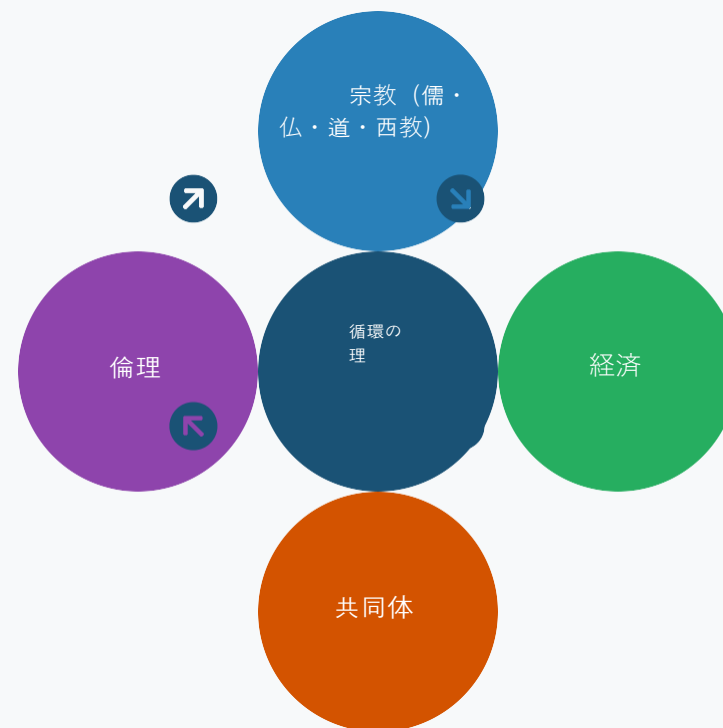
- 経済問題の四大軸：
 - 1. 個人-経済：経済動機の崩壊
 - 2. 個人-倫理：経済倫理の空白
 - 3. 共同体-経済：体制理念の衝突
 - 4. 共同体-倫理：環境危機
- 諸問題は互いに噛み合い循環構造を形成する



大巡思想の核心的経済概念

「金は循環の理により生じて用いる物である。」

- 経済と倫理、個人と共同体の相互循環を強調
- 儒・仏・道・西教の長所の統合 — 多元的循環性
- 循環的な再分配・流通による経済均衡の追求
- 天命（天命）・倫理優先の経済観の伝統
- 「徳（徳）は根本、財（財）は末端」— 倫理を優先してこそ経済の循環的再生が可能



大巡思想の多元的循環性：宗教・経済・共同体・倫理が相互に循環し調和をなす経済観

西洋経済思想の東洋的淵源

- 「利瑪竇（マテオ・リッチ）が東洋の文明神を率いて西洋で文運を開いた」
- 西洋近代文明の中国起源説（朱謙之、フランク、ギャヴィン・メンジーズなど）
- ウェーバーの「経済思想＝宗教思想」の観点と東西思想の循環
- 世界文化のアイデンティティ危機克服の糸口としての循環的交流の重要性

「西洋が決定的に資本主義体制を発展させることができたのは、当時最も富裕であった中国を発見したためである。」



マテオ・リッチ（利瑪竇）は16世紀末に中国に到着したイエズス会宣教師であり、中国の経済思想と文化が西洋へ伝播する重要な媒介の役割を果たした。彼の活動を通じて東洋の経済思想が西洋に伝播し、これは後に西洋近代資本主義の発展に重要な影響を及ぼした。

先行研究の検討

- 類型別の三大研究軸：
 - 1. 西洋経済思想の東洋的淵源に関する研究
 - 「利瑪竇（マテオ・リッチ）が東洋の文明神を率いて西洋で文運を開いた」
 - 中国起源説（朱謙之、フランク、メンジーズなど）
 - 2. 大巡思想の循環的経済理論と貨幣の研究
 - 「金は循環の理により生じて用いる物である」
 - ウェーバー、ジンメル、ボードリヤール、ブルデューなど
 - 3. 贈与論、複雑系経済学、東西の循環的経済に関する研究
 - 韓泰東の宗教論理学、李基東の日中韓比較
 - モース、ポランニー、ブローデルなどの歴史的経済循環

宗教別の経済倫理方法論の比較

区分	個人-経済	個人-倫理	共同体-経済	共同体-倫理
経済倫理	自由至上主義	社会契約主義	功利主義	共同体主義
方法論	実証主義	現象学	構造主義	関係主義
主要な学者	ウェーバー	ジンメル	ボードリヤール、ブルデュー	マッキンタイア、サンデル
宗教との関連性	西教（カルヴァン主義）	儒教	仏教	道教

循環的經濟觀による解法

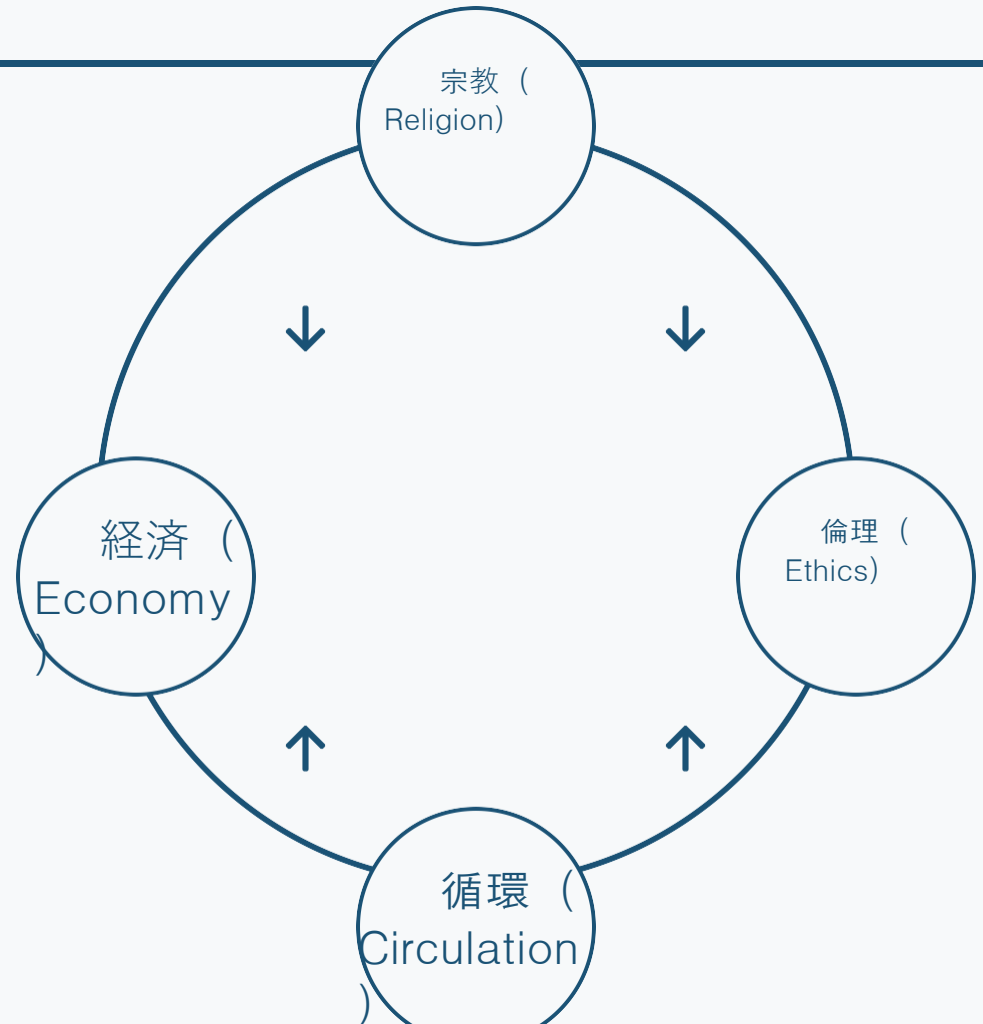
- 経済・倫理危機の統合的解決策
 - 循環的思考により直線的合理化（鉄の檻）の限界を克服
 - 宗教・倫理・経済の調和した循環的關係の復元
- 自然科学的根拠
 - アインシュタインの循環的世界観 — 相対性理論の原理のように
 - 複雑系理論 — 部分の和が全体より大きいという多元的循環性
- 具体的効果
 - 経済動機の回復および倫理性の復元
 - 個人と共同体、経済と倫理の間の均衡回復
 - 環境危機と体制理念の衝突の根本的解決



「循環は経済と倫理の諸問題を解決するポストモダン的な解決方法である。アインシュタインが円を通じてニュートン物理学を相対化し難題を解決したように、循環は互いに相反する直線運動を和解させる一段高い次元の運動である。」

結論および示唆点

- 大巡思想は経済・倫理・宗教が循環的に調和する経済観を促す
- 現代経済問題の克服のための多元的・循環的思考の必要性
- 東西思想の統合的応用の可能性を提示
- 倫理と経済の調和を通じた経済循環の回復を提案
- さらなる研究および実際の経済政策への反映が必要



「金は循環の理により生じて用いる物である」—大巡思想の循環的経済観
は、宗教-経済-倫理の調和的循環に基づく

研究の必要性

循環的経済観と宗教哲学

大巡思想を中心に見た現代経済と宗教の統合的解釈



発表者：[氏名]



所属：[所属]



日時：[日時]

目次

- 1 研究背景および問題意識
- 2 現代経済問題の構造
- 3 宗教と経済の歴史的関係
- 4 循環的経済観の概念
- 5 大巡思想の経済観
- 6 研究の意義および結論
- 7 参考文献

研究背景および問題意識

シーシュポスの神話から着想を得た現代人の経済的・精神的循環問題

- 極度に発達した物質文明の中でも満足知らない現代人の精神的苦痛
絶対者の助けなしには山頂に岩を載せられないシーシュポスのようなジレンマ
- 自由至上主義、共同体主義、社会契約主義、功利主義の限界
既存の経済哲学の枠を抜け出せない循環の問題
- 宗教と経済、倫理の関係回復の必要性
「宗教が倫理を発展させ、倫理が経済を発展させる宗教と経済の好循環」の模索

「ウェーバーが述べたように、宗教は時代の経済的危機を克服してきた。」

現代経済問題の構造

現代経済問題の核心的軸は、個人-共同体、倫理-経済という二つの軸に沿って4つに区分されます。

個人-経済

経済動機の崩壊の問題

物質的豊かさにもかかわらず経済活動の意味と動機が喪失される現象

個人-倫理

経済倫理の消失

個人の経済活動が倫理的判断から分離され、道徳的空白状態に置かれる現象

共同体-経済

資本主義-共産主義体制の問題

理念的対立を超えた新たな経済体制への模索の必要性の台頭

共同体-倫理

環境危機の問題

経済発展と環境保全の間の葛藤と持続可能な発展モデルの必要性

「インターネットが世界を万人が互いに共感する共感の時代にしたが、むしろ技術の発達により一つのウイルスが世界全体のネットワークを崩壊させる今日、循環の麻痺による経済危機は過去の経済危機とは比較にならないほど、その規模と余波が日ごとに深刻化している。」

宗教と経済の歴史的関係

宗教が経済発展に及ぼした影響および循環メカニズム

マックス・ウェーバー

プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神：宗教が資本主義発展の原動力

直線的合理化による「鉄の檻」概念の提示

カール・マルクス

「宗教は人民の阿片」— 宗教を経済構造の上部構造と認識

宗教と経済の関係を一方向的に解釈

フリードリヒ・ニーチェ

「永劫回帰」概念と「情緒の経済」を通じた循環的世界観

「神は死んだ」から循環的神観への転換を示唆

東西の宗教と経済倫理の相互作用

- 儒教：倫理を優先する共同体的経済観
「経済（経済）」は「経世済民（経世済民）」の略語
- 仏教：現実超越と倫理的経済の調和
分配と生産の均衡を強調
- 道教：自由主義的経済観と自然循環
個人と全体の有機的関係を重視
- 西教：個人と共同体、理性と信仰の葛藤
救済予定説と資本主義の精神の関係

「世界宗教は経済がもたらした不平等に対する正当化機能として出現した」— マックス・ウェーバー

循環的經濟觀の概念

循環（循環）の意味と現代的な経済への適用

- ポストモダンのな解決方法

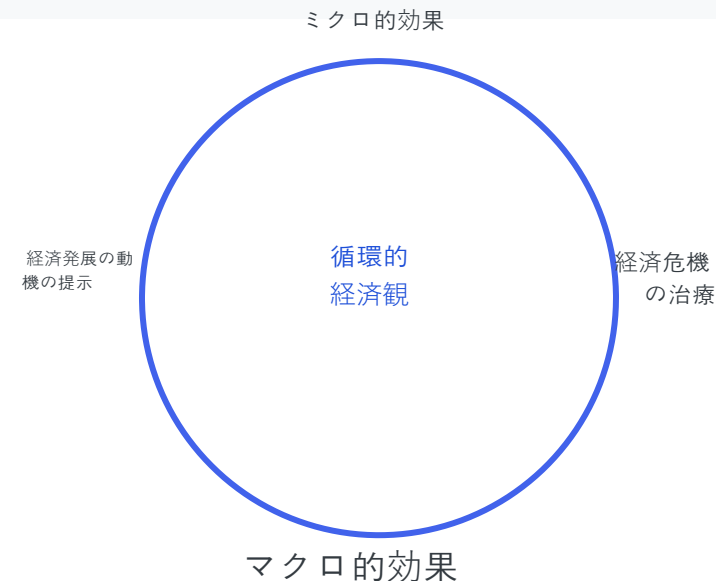
互いに相反する直線運動を和解させる一段高い次元の運動

- 儒・仏・道と西教の経済倫理の循環原理

各宗教の経済思想の長所を発展させた統合的アプローチ

- 循環の科学的正当性

アインシュタインが円を通じてニュートン物理学を相対化したように、自然科学において証明された原理



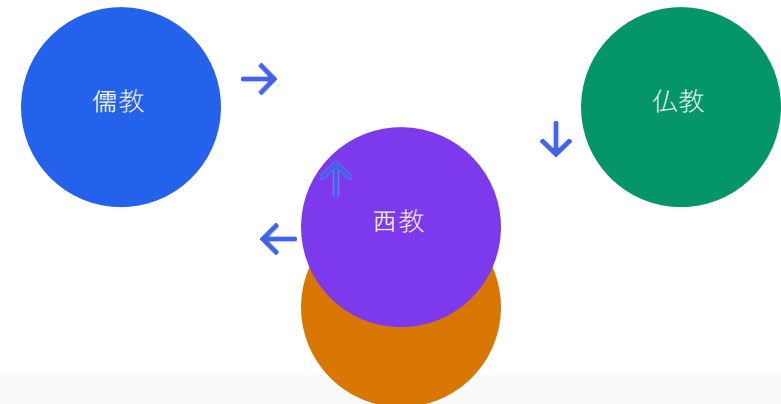
「金は循環の理により生じて用いる物である」

— 大巡思想

大巡思想の経済観

「金は循環の理により生じて用いる物である」

- 循環論的分配倫理
万物が天命（天命）によって生じ、各自の必要に応じて用いられる原理
- 儒仏道と西教の内部循環
大巡思想に現れた西洋思想の東洋的淵源と統合
- 個人-共同体、経済-倫理の循環関係
現代経済問題を解決する代案的経済観



「経済と倫理が循環するだけでなく、個人と共同体もまた循環関係にあるため、個人-共同体、経済-倫理という二つの軸から生じた経済問題はすべて循環的方法によって解決できる。」

研究の意義および結論

循環に基づく経済と倫理、宗教の新たな統合的解釈

✓ 儒仏道と西教の経済思想の統合

個人-共同体、経済-倫理の循環的關係の樹立を通じた現代経済問題解決の可能性

✓ 大巡思想の循環的経済観

「金は循環の理により生じて用いる物である」という観点を通じて分配倫理と経済循環の原理を提示

✓ 現代経済危機の克服のための示唆点

経済動機の崩壊、経済倫理の消失、体制問題、環境危機など四つの問題に対する統合的解法の提示

今後の研究方向

循環的経済観の実践方策と現代社会への適用モ

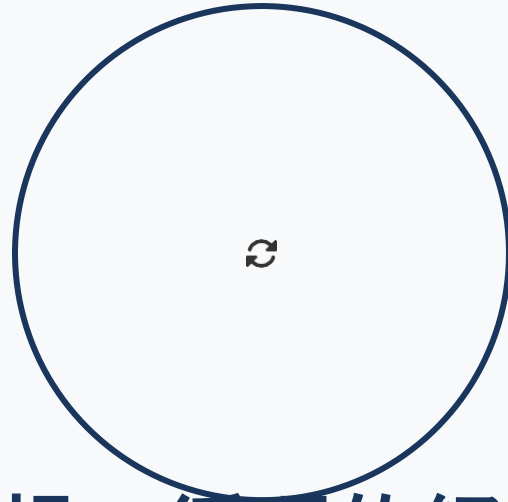
デルの開発 宗教思想の経済的含意を実証的に

検証する研究が必要

儒仏道と西教の経済思想を総合した大巡思想独自の独創的経済観に関する研究の発展

参考文献

単行本
マックス・ウェーバー（2008）『世界宗教と経済倫理』、『マックス・ウェーバー宗教社会学選集』、ナナム。マックス・ウェーバー（2010）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、文芸出版社。兪錫春（1992）『マックス・ウェーバーと東洋社会』、ナナム。
ドミニク・シュナペール、金教信訳（2001）『労働の終焉に抗して』、東文選。リチャード・ニスベット、崔仁哲訳（2004）『思考の地図』、金泳社。
ドミニク・モイジ（2010）『感情の地政学』、ランダムハウス。申恩卿（1999）『風流（東アジア美学の根源）』、宝庫社。金徳三（2002）『道教の起源』、時間の糸車。
論文
尹元根（2000）「ドイツ知的伝統の神秘的世界観とウェーバーの共同体志向性」、『韓国社会学会』Vol.34。金相煥（2002）「貨幣、言語、無意識」、『哲学思想』Vol.56、哲学研究会。



大巡思想の循環的経済観

先行研究の検討

学術発表資料

発表者：[氏名]

日付：2025年6月
22日

≡ 目次

- 1 研究概要
- 2 西洋経済思想の東洋宗教的淵源
- 3 大巡経済思想の循環的特徴
- 4 貨幣の循環性と宗教の相関関係
- 5 研究の総合および結論



📖 研究概要



大巡思想の循環的経済観に関する先行研究は、次の三つの研究領域で構成されます。

-

西洋経済思想の東洋宗教的淵源

- 利瑪竇（マテオ・リッチ）が東洋の文明神を率いて西洋で文運を開いたという観点の研究

大巡経済思想の循環的特徴

- 「金は循環の理により生じて用いる物である」という貨幣の経済的機能に関する理論

貨幣の循環性と宗教との相関関係

宗教循環論的世界観、東西の循環的経済観、大巡の循環論的世界観に関する研究

本研究は、東西経済思想の相互関連性と循環構造を、大巡思想を中心に体系的に分析します。



研究分野1：西洋経済思想の東洋宗教的淵源

西洋近代経済学と文明の起源が東洋の宗教および哲学思想に由来することを究明する研究：

- **利瑪竇（マテオ・リッチ）の影響**
- 「利瑪竇が東洋の文明神を率いて西洋で文運を開いた」という観点

西洋文明の中国起源説

- 18世紀中葉までヨーロッパの常識であったが、以後歴史歪曲が発生 代表的学者：朱謙之、フランク、ギャヴィン・メンジーズ、ジョン・ホブソン、H.G.クリール、黄泰淵など

経済思想と宗教の関連性

ウェーバー：経済発展の土台であった東洋の宗教が西洋経済思想へ発展 アダム・スミスの「見えざる手」と老子の「道（道）」の関連性



⇒ 研究分野2：大巡経済思想の循環的特徴



「金は循環の理により生じて用いる物である」という貨幣の経済的機能と経済倫理の相互作用

経済倫理理論の4つの類型

自由至上主義

個人-経済的側面、ウェーバーの実証主義的研究

社会契約主義

個人-倫理的側面、ジンメル現象学的関係論

功利主義

共同体-経済的側面、ボードリヤール / ブルデューの構造主義論

共同体主義

共同体-倫理的側面、マッキンタイア / サンドルの贈与論的経済学

循環的特徴

- ◆ 経済と倫理は陰陽のように相互作用する関係 貨幣価値（交換価値、効用価値）の相互循環 資本主義の危機は共同体の喪失
- ◆ による循環の危機 4つの経済倫理の形態は互いに循環する関係にある
- ◆
- ◆

「経済倫理理論とは、経済は倫理と陰陽のように互いに相互作用する関係」

⇄ 研究分野3：貨幣の循環性と宗教の相関関係



🌐 宗教循環論的世界観

- 韓泰東の宗教論理学：儒仏道と西教が相互に循環的關係に置かれる
- 李基東の研究：韓・中・日がそれぞれ孟子、孔子、荀子の伝統を継承し、異なる経済体制を形成



東西の循環的経済観

-
- ポランニー・ブローデル：経済は社会に基盤を置く寄生的現象であり、共同体崩壊時には経済も崩れる
- マルセル・モース：贈与が利己的交換よりも社会構成にとってより根本的
- 易（易）の循環性に立脚した天地人三才（三才）経済学、複雑系経済学



● 大巡の循環論的世界観に関する研究

- 尹基鳳：生産と富の再分配を中心とした近代性概念の研究
- 念の研究 李慶元：真の近代性概念としての解冤（解冤）研究

高南植：個人的・社会的怨恨の解冤様相の研究

東西の宗教と経済が独立した領域ではなく、相互に循環する関係として理解するとき、現代経済の危機を克服する循環的思考方式を提示します

🔗 研究の総合



三分野の先行研究を総合すると、次のような相互関連性が明らかになります。

西洋経済思想の東洋
宗教的淵源

東西の知識・文明交流

大巡経済思想の循環
的特徴

経済倫理の4類型の循環

貨幣の循環性と宗教
の相関関係

易（易）と贈与の経済観

研究の総合において発見された主要な特徴：

- 循環的構造：東西の経済思想は相互に循環しながら発展してきており、特に儒仏道と西教の関係が循環構造として現れる
- 経済と倫理の連結：経済は倫理と陰陽のように相互作用し、共同体主義・自由至上主義・功利主義・社会契約主義の間の循環的關係を形成 三才（三才）構造：天地人
- （天地人）の三才構造は生産-分配-消費の経済循環と対応し、大巡思想において重要な意味を持つ

大巡思想の循環的経済観は、東西思想の融合、宗教と経済の相互作用、そして循環構造を通じた新たな経済パラダイムを提示します。

💡 結論および示唆点



研究の結論

- 大巡思想の循環的経済観は、東西経済思想の相互連結性を示す
- 経済と倫理の循環的關係を通じて現代経済問題解決の糸口を提供
- 西洋経済思想の東洋宗教的起源と貨幣の循環性が、大巡思想において統合的に具現される

研究の示唆点

- 文化的アイデンティティ危機の克服のための東西思想の融合の可能性を提示
- 経済と宗教、倫理の統合的アプローチを通じた現代経済パラダイム転換の提案
- 循環的経済観を通じた持続可能な経済体制と共同体回復の方向性の模索

「金は循環の理により生じて用いる物である」— 大巡思想の貨幣観は
東西経済哲学の新たな融合と経済倫理の回復のための洞察を提供します

研究の範囲と方法

大巡思想の循環的経済観

発表者  [氏名]

大巡思想の循環的経済観に関する範囲と方法論

研究の背景と必要性

- 現代経済観の限界と傷

今日、大部分の人々の経済観は儒仏道と西教に基づく自由至上主義、共同体主義、社会契約主義、功利主義から抜け出せず、傷ついています。

- 経済の循環性に対する理解の不足

経済が循環であり、自動的に見える循環には絶対的存在の介入があってこそ可能であるという循環の属性を、正しく理解できていません。

- 伝統的思想による循環的解決方策

な経済思想、特に大巡思想の循環的経済観を通して解決できます。

現代の環境危機と社会危機は経済の循環を麻痺させ、技術の発達によりその麻痺はバタフライ効果のように増幅され、社会的危険を引き起こします。これは伝統に基づく新た



研究目的と範囲

- 循環的経済観の研究目的

既存の経済思想を循環的に治療しうる大巡の経済思想を研究し、易の循環原理、ラカンの循環論、複雑系科学に代表されるポストモダンの循環的方法論によって既存の研究成果を総合しようとしています。

- 融合的解決策の提示

大巡思想の循環的経済観を中心に、経済・倫理・宗教思想の融合的解決策を提示し、韓国的科学の固有特性としての循環を経済思想に適用します。

- 研究の重点範囲

儒教と西教の経済思想の衝突の解決策と、循環的経済観の具体的な形態に関する研究を重点的に扱い、既存宗教の経済倫理と大巡思想の循環的



研究方法論

● 循環論的分析体系

易の循環原理、ラカンの循環論、複雑系科学の方法論を活用した循環論的分析体系を適用します。

- 易の循環性の属性：待対（待對）、流行（流行）、中和（中和）、回帰（回歸）、増殖（増殖）
- ラカンの循環論：想像界・象徴界・現実界の循環構造の分析
- 複雑系科学：経済システムの循環的關係と非線形的相互作用の分析



比較分析的アプローチ



● 総合的解釈の方法論

循環的経済観を個人-経済、個人-倫理、共同体-経済、共同体-倫理という四つの次元で分析し、総合的な解釈を導き出します。



論文構成体系（Ⅰ～Ⅱ章）

I

序論

II

諸宗教の経済観

I章：研究の必要性、先行研究、範囲と方法

- ＞ 現代の環境危機と社会危機は、経済循環の麻痺による危険を招く
- ＞ 伝統に基づく新たな経済思想の必要性
- ＞ の提示、大巡思想の循環的経済観研究の必要性

II章：経済・倫理・宗教、既存の諸宗教の循環的経済思想

- ＞ 財富観（貯蓄）－ 道教－ 自由至上主義
- ＞ 分配論－ 仏教－ 社会契約主義 労働
- ＞ 観（生産）－ 儒教－ 功利主義
- ＞ 財貨観（流通）－ 西教－ 共同体主義

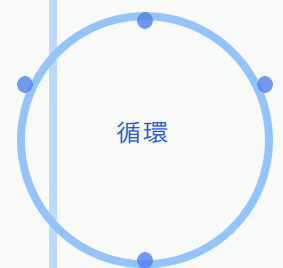


5

研究の範囲と方法

論文構成体系（Ⅲ章）

Ⅲ 宗旨に現れた
循環的経済観



Ⅲ-1章：大巡思想の循環論的特性

- > 易の循環性の属性：待対（待對）、流行（流行）、中和（中和）、回
歸（回歸）、増殖（増殖）
- > 複雑系科学とラカンの循環理論の適用分析

Ⅲ-2～5章：宗旨と『典経』の一節の比較分析

Ⅲ-2章：道教の領域

待対的（待對的）自由至上主義
の財富観

Ⅲ-3章：仏教の領域

回帰的（回歸的）社会契約主義
の分配観

Ⅲ-4章：儒教の領域

中和的（中和的）功利主義の労働観

Ⅲ-5章：西教の領域

流行的（流行的）共同体主義の財貨観

i 本研究はラカンと複雑系科学のうち循環性を強調した特定の部分を経済と関連づけたものであり、多様な解釈の可能性が開かれている

論文構成体系 (IV ~ V章)

IV 現代的価値

IV章：循環的経済観の現代的価値および経済問題への対応

- ＞ 個人-経済の側面：陰陽合徳と経済動機の回復
- ＞ 個人-倫理の側面：神人調化と経済倫理の回復
- ＞ 共同体-経済の側面：解冤相生と資本主義・共産主義の理念対立の解決
- ＞ 共同体-倫理の側面：道通真境と人類の共同体性の回復

V 結論

V章：結論、研究の限界、韓国思想とグローバル化

- ＞ 本研究の限界および個人的見解
- ＞ としての性格、大巡思想の循環
- ＞ 韓国思想のグローバル化の可能性と現代経済問題の解決策の提示
的経済観の価値の確認



研究の限界と意義

● 研究の限界 – 個人的見解

本稿における、循環を通じた複雑系としての五行現象の理解、および五行に対する諸宗教と経済思想の配置など、本稿全体の内容は大巡宗学科の公式的な立場ではなく、個人的な見解にすぎません。

● 韓国思想のグローバル化の方策

大巡思想の循環的経済観の価値は、大巡思想のみならず韓国思想のグローバル化の一つの方便となりうます。伝統に基づきながらも現代的解釈を通じて普遍的価値を創出する過程において、韓国固有の循環的思考方式を世界に伝える契機となります。

● 現代経済問題の解決策

大巡思想の循環的経済観は、現代の経済問題に対する実質的な解決策となりうます。環境危機と社会危機が経済の循環を麻痺させる現実のなかで、陰陽合徳・神人調化・解冤相生・道通真境に代表される大巡思想の原理は、経済動機の回復、経済倫理の回復、理念対立の解消、共同体性の回復を導き出すことができます。

「循環的経済観研究の新たな視角は、伝統と現代、東洋と西洋、そして経済と倫理の調和的統合を通じて、未来の経済パラダイムの基礎となりうます。」





諸宗教の経済観と限定的な循環性

宗教と経済倫理の統合的理解のための循環的観点の考察

2025年6月22日

洪吉童 教授
韓国宗教経済研究所

目次

- | | | | |
|---|------------------|----|---------------|
| 1 | 序論および研究目的 | 7 | 経済循環過程別の宗教の役割 |
| 2 | 経済倫理と循環性の概論 | 8 | 経済学派と宗教思想の比較 |
| 3 | 倫理学体系と経済学の関係 | 9 | 価値理論別の分配 / 消費 |
| 4 | 宗教別の循環論理（儒仏道・西教） | 10 | 現代資本主義と宗教的循環性 |
| 5 | 宗教別の永生観と経済観の比較 | 11 | 総合図表およびグラフ |
| 6 | 四つの経済倫理理論と宗教の対応 | 12 | 結論および示唆点 |

序論および研究目的

● 宗教の経済観の現代的意義

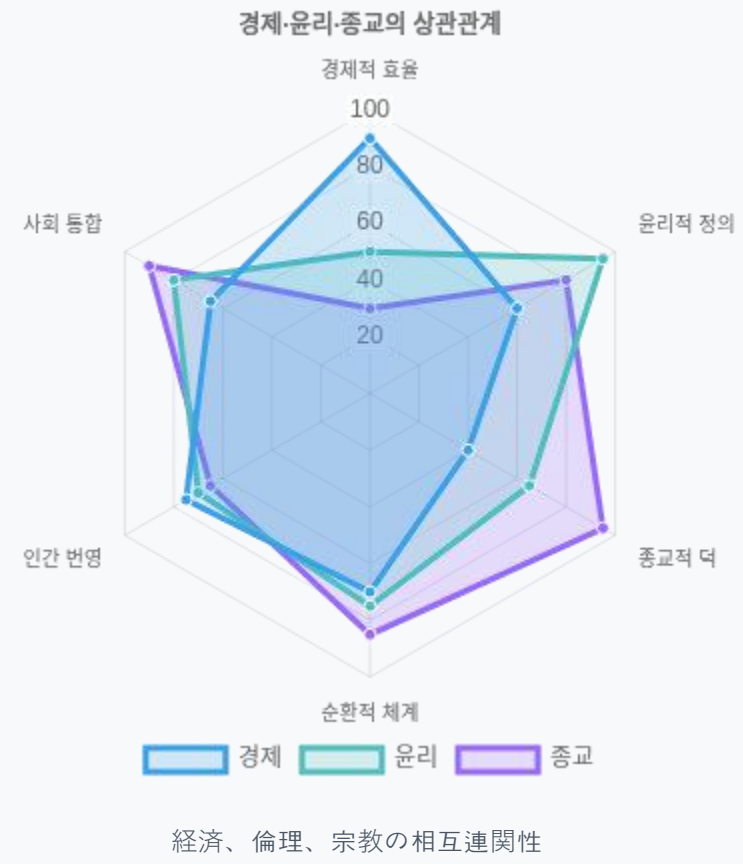
宗教の経済思想は、抽象的な宗教思想を具体化して表現する核心的な宗教の構成要素であり、その隠された意味を把握する重要な鍵となります。

● 経済と倫理の相関性

経済と倫理はヤヌスのように相反しながらも同時に現れる非常に密接な関係であり、歴史的に互いに長期関数のような関係を示してきました。

● 研究の目標

宗教、経済学、倫理学の統合的理解を通じて、現代資本主義社会に必要な循環的世界観を再照明し、宗教思想に内在する経済倫理の現代的適用方策を模索します。



経済倫理と循環性の概論

● 経済と倫理の相反的關係

現代資本主義経済学は極力否認するが、経済と倫理はヤヌスのように常に相反しながらも同時に現れる非常に密接な関係です。

● 逆（逆）の關係

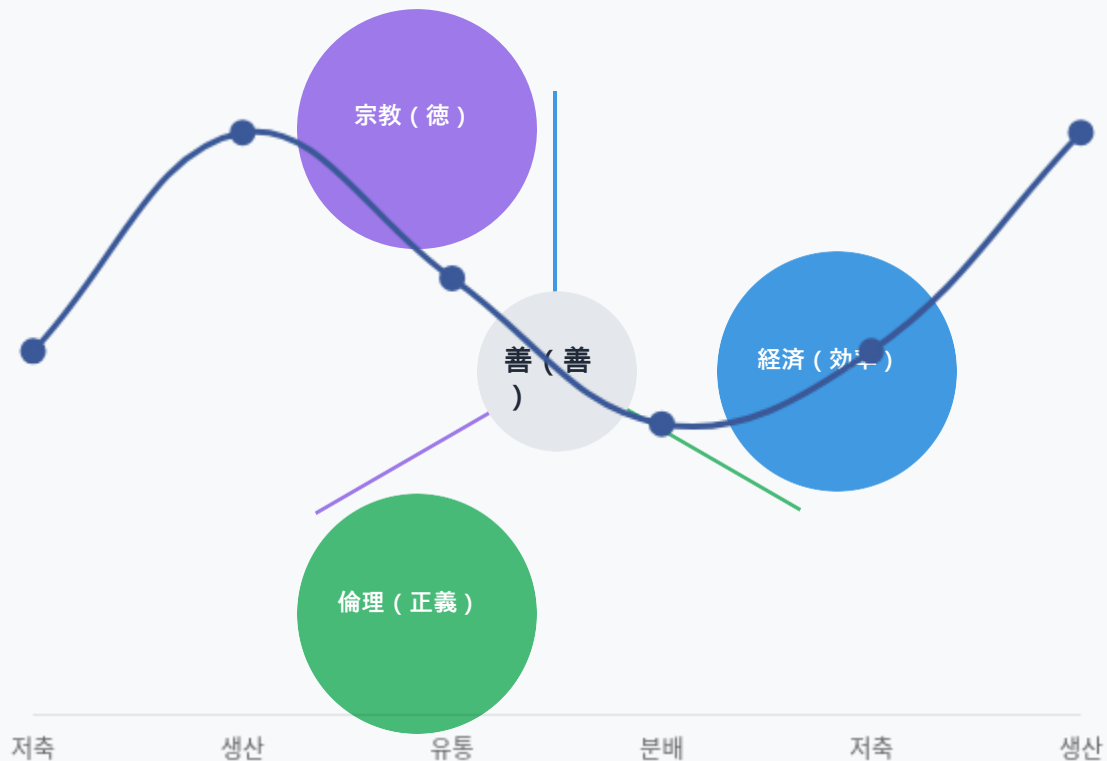
経済の逆が倫理であり、倫理の逆が経済であると言えるほど密接な関係にあり、歴史的に経済と倫理は互いに長期関数のような関係を示してきました。

● 循環性の核心

経済と倫理は善（善）を中心に統合され、政治あるいは宗教という徳（徳）を通じて仲介されます。それぞれは行為、制度、存在を代表します。

● 希少性と豊かさの循環

希少な資源から財物が生まれ、不足した徳から能力が生まれ、制限された正（正）から権利が生まれます。これらはすべて善へと統合される循環的構造を形成します。



経済倫理の循環的構造

経済と倫理はそれぞれ効率と正義を追求しますが、究極的には善（善）という共通価値を志向します。この循環的關係は宗教思想に深く反映されています。

倫理学体系と経済学の関係

● 倫理学の三分法

倫理学は時代順に、徳（卓越）を強調するアリストテレス倫理学、正（正）を強調するカントの義務論的倫理学、善（善）を強調する功利主義的倫理学という三つの伝統を持つ

評価対象 \ 価値概念	基本的価値言語	操作的価値言語	究極的目的
行為	善（善）	効率	効用
制度	正（正）	正義	権利
存在	徳（徳）	卓越	能力

表2.1 倫理学の体系

● 経済学と倫理学の接点

経済学も倫理学と同様に、行為（善-限界効用学派）、制度（正-制度学派）、存在（徳-贈与論的経済学）という三つの課題を中心に理論を展開する

● 倫理と経済の統合

経済と倫理は善（善）を中心に統合され、政治あるいは宗教という徳（徳）を通じて仲介される。経済・倫理・政治（宗教）はそれぞれ行為、制度、存在を代表する

● 自由は共通の価値規範



경제・倫理・政治（宗教）の統合構造

宗教別の循環論理

循環的論理の思考枠組みに従って東西洋の宗教の論理体系を比較すると、次のような特徴が見られます：

- 儒教 (XはXであり、-Xは-X)

君主は君主らしく、臣下は臣下らしく行動すべきという明確な区分と義務を強調。知ることは知ると、知らないことは知らないとする明確性を追求。

- 道教 (Xは-Xであり、-XはX)

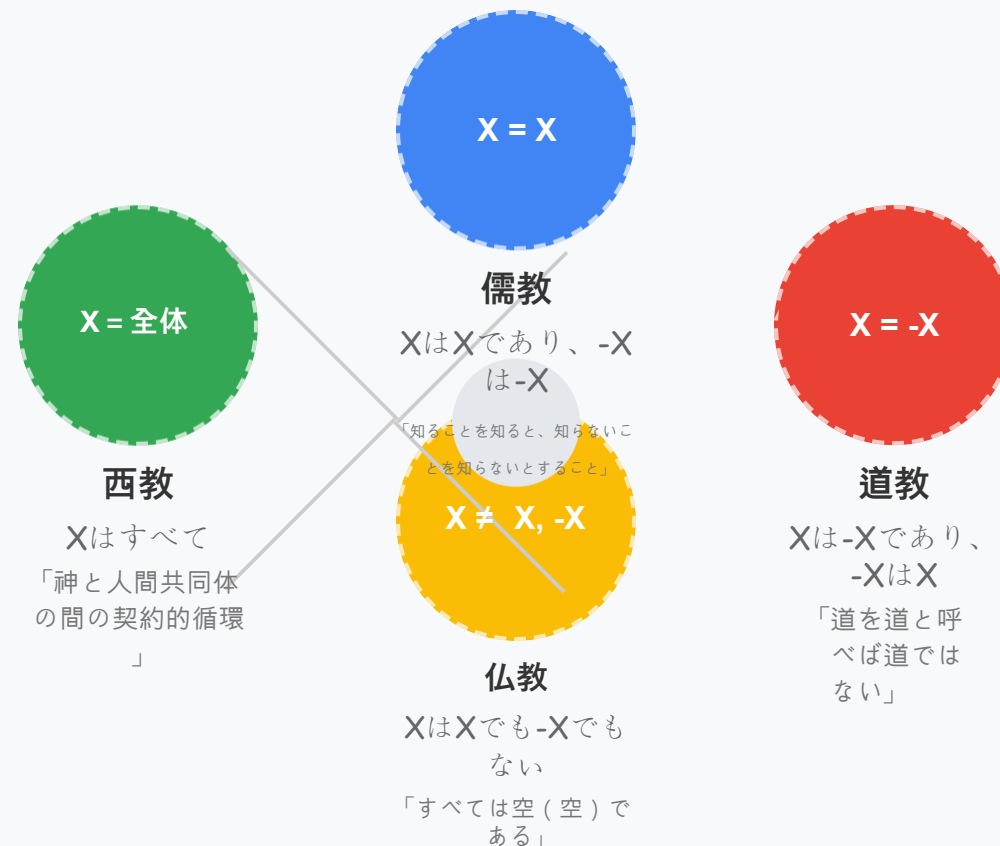
道を道と呼べば道ではないという逆説的アプローチ。最も強いものは最も弱い水であり、友は仇であり仇は友であるという相互転換的な世界観。

- 仏教 (XはXでも-Xでもない)

すべては空（空）であるという中道的世界観。友も仇もなく、あらゆるものに実体がないことを強調する縁起論的な思考体系。

- 西教 (Xはすべて)

神と人間共同体の間の契約的循環を重視。個人より共同体、物質より精神を追求する包括的な博愛（博愛）中心の世界観。



宗教別の永生観と経済観の相関関係

宗教別の永生観は、各宗教の経済思想と循環関係の核心を示します。永生を追求する方法と観点に応じて経済観が形成されます。

西教 - 靈魂永生 (靈魂永生)

「Xはすべて」- 神と人間共同体の間の契約的循環

共同体中心 & 来世志向

仏教 - 輪廻転生 (輪廻轉生)

「XはXでも-Xでもない」- 縁起論と法輪による万物の循環

社会契約的 & 倫理的分配

儒教 - 招魂再生 (招魂再生)

「XはXであり、-Xは-X」- 人倫における循環と現世志向

共同体中心 & 現世生産

道教 - 肉身永生 (肉身永生)

「XはXでも、-XはX」- 無常自然の循環と個人志向

個人中心 & 現世生産



宗教別の永生観と経済観の連結構造

経済観と永生観の相関関係

- 西教 (靈魂永生) → 流通中心の経済観 (象徵価値、贈与)
- 仏教 (輪廻轉生) → 分配中心の経済観 (交換価値、分配)
- 儒教 (招魂再生) → 生産中心の経済観 (生産価値、生産)
- 道教 (肉身永生) → 消費中心の経済観 (消費価値、消費)

四大経済倫理理論と宗教の対応

経済倫理理論は宗教の循環論理と類似したフラクタル構造を形成し、次のように対応します：

道

道教 ↔ 自由至上主義

「Xは-Xであり、-XはX」という道教は、個人の自由を強調する自由至上主義と連携します。無為自然の道に従う自由な経済活動を志向します。

儒

儒教 ↔ 功利主義

「XはXであり、-Xは-X」という儒教は、最大多数の最大幸福を追求する功利主義と連携します。公的利益と秩序を重視します。

佛

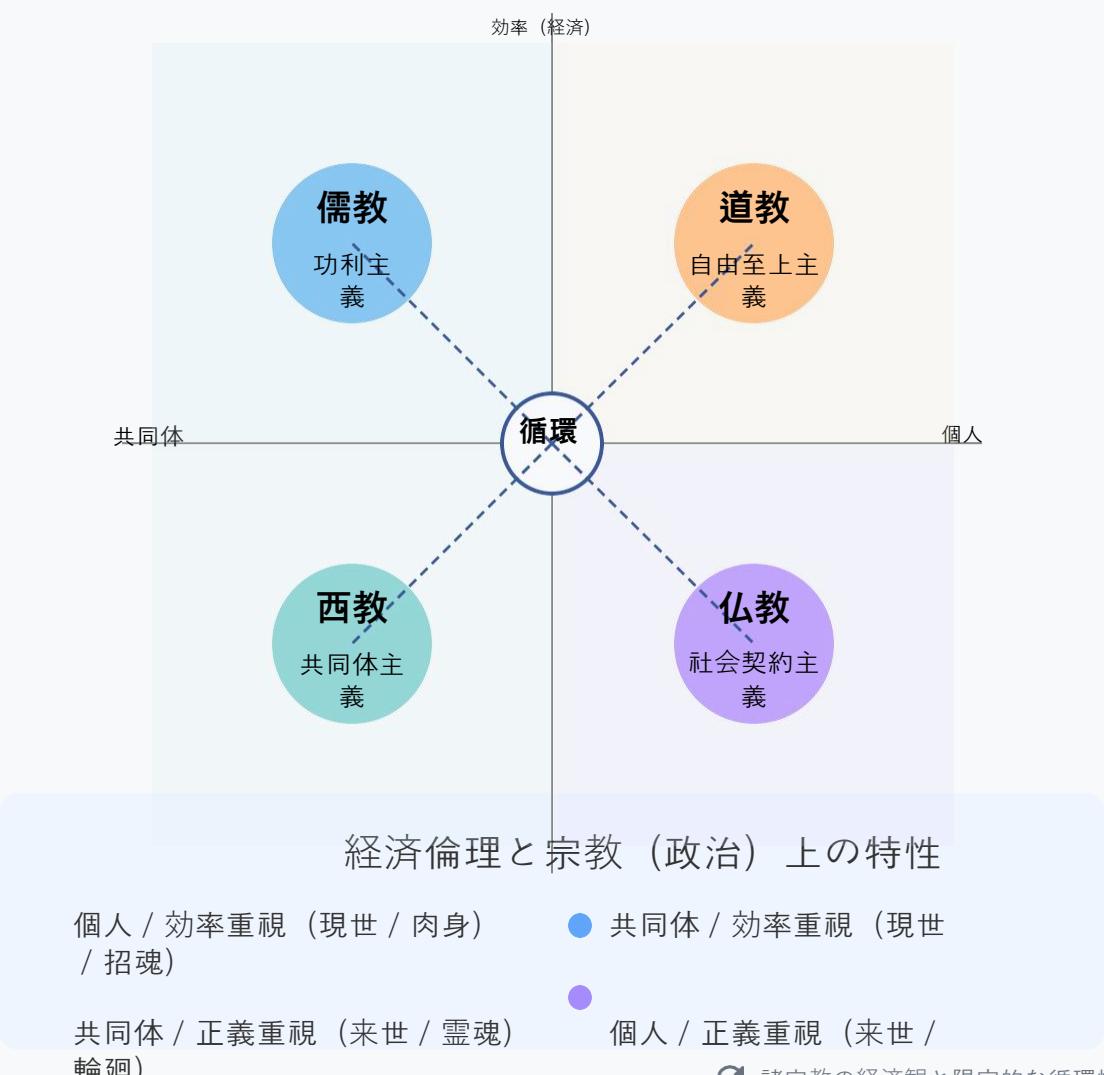
仏教 ↔ 社会契約主義

「XはXでも-Xでもない」という仏教は、義務と権利を重視する社会契約主義と連携します。個人の権利を尊重する公正な分配を志向します。

+

西教 ↔ 共同体主義

「Xはすべて」という西教は、博愛（博愛）を強調する共同体主義と連携します。共同体と分かち合いの価値を重視します。



經濟循環過程と宗教別の役割

經濟循環の四段階と宗教の役割



貯蓄 – 道教

「Xは-Xであり、-XはX」- 道教は未来に備えて現在を準備する財富觀（財富論）を通じた經濟循環に重きを置きます。自由至上主義的な性向を示し、個人の富の蓄積を重視します。



生産 – 儒教

「XはXであり、-Xは-X」- 儒教は蓄積された財産で人間と社会を組織し、生産に臨ませます。功利主義的アプローチを通じて社会全体の効率的な生産を重視します。



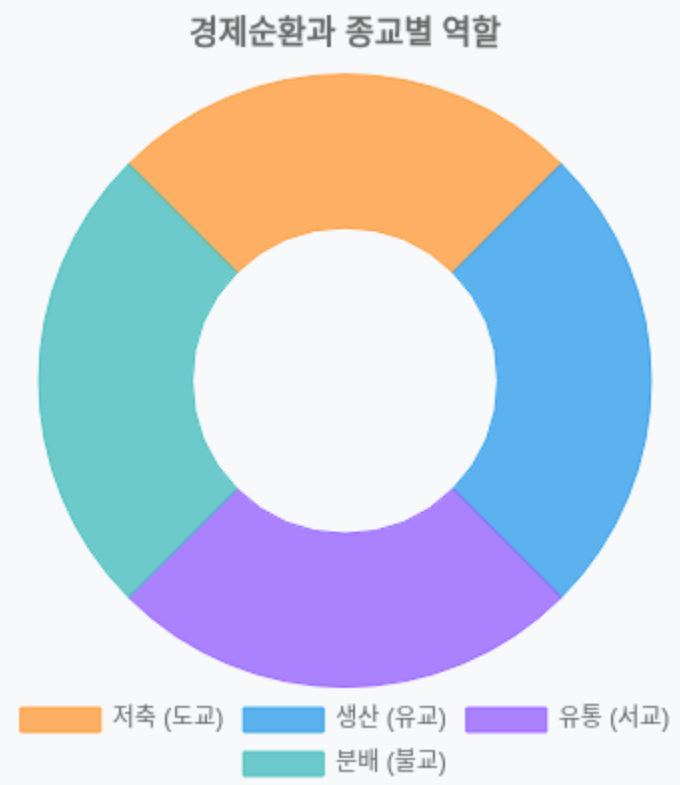
流通 – 西教

「Xはすべて」- 西教の博愛思想は、生産された財貨を広く贈与・流通させる役割を果たします。共同体主義的アプローチを通じて社会全体の共有と分かち合いを強調します。



分配 – 仏教

「Xはすべて」- 仏教は経済活動と別々の次元で分配する役割を担います。社会



經濟循環構造と宗教別の役割

循環的經濟觀の特徴

経済学派と宗教思想の比較

● 経済学派と宗教思想の対応関係

諸宗教の経済思想は、主要な経済学派と本質的に類似した構造を持ちます。宗教の経済観と学派の価値理論はフラクタル構造のように互いに似ており、これは経済と宗教が共有する根本的な問いに対する答えです。

宗教	経済倫理	経済観	経済学派	価値理論
道教	自由至上主義	財富観	新古典派	使用価値
儒教	功利主義	労働観	ケインズ主義	記号価値
西教	共同体主義	財貨観	制度学派	象徴価値
仏教	社会契約主義	分配観	古典派 / マルクス主義	交換価値

● 宗教の経済循環的観点

各宗教は貯蓄-生産-流通-分配という経済循環過程において互いに異なる役割を果たし、これが経済学派の重点研究領域と一致します。



경제学派と宗教思想の相関関係

主要な特徴の比較

- ▶ 新古典派：個人の効用と自由を重視
- ▶ 道教：個人と自然の調和を強調

価値理論と分配の現代的争点

経済学派ごとに商品に内在する価値を見る観点が異なり、これは分配と消費に直接的な影響を及ぼします。

使用価値 (Use Value)

新古典派経済学：財貨の使用の効用性に基づく
分配への影響：効率性中心、個人選好を優先

交換価値 (Exchange Value) 古典派 / マルクス主義：投入された労働に応じた価値決定 分配への影響：公正な労働価値の分配を重視

記号価値 (Sign Value)

ケインズ主義：社会的革新と有効需要に基づく価値
分配への影響：模倣消費と誇示消費を促進

象徴価値 (Symbolic Value) 制度学派：贈与と文化的価値に基づく 分配への影響：共同体中心の分かち合いと循環を強調



価値理論に応じた分配および消費の特性の比較

ボードリヤールの価値理論の統合

「あらゆる事物は四つの経済的価値を持っている。例えば手に持っているりんごは、食べれば使用価値であり、交換すれば交換価値、記号として用いられれば記号価値、他人に贈与すれば象徴価値となる。」

結論および示唆点

研究結果の要約

諸宗教はそれぞれの循環論理体系を持っており、儒仏道・西教は貯蓄-生産-流通-分配という経済循環過程と密接に連携していることを確認しました。

経済倫理と宗教の統合

経済倫理（自由至上主義、功利主義、社会契約主義、共同体主義）と宗教思想（道教、儒教、仏教、西教）は、フラクタル構造として類似したパターンを共有しています。

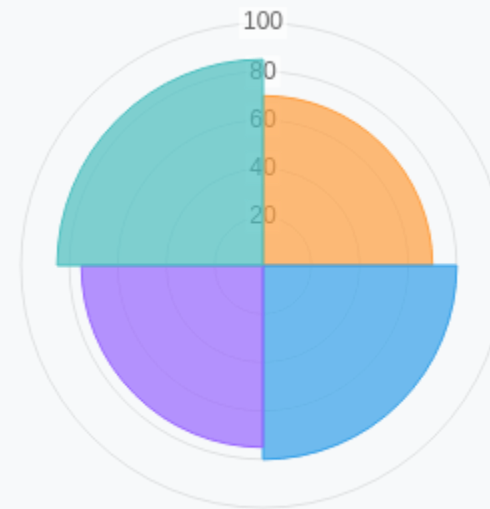
現代的含意

循環的な宗教経済観は、現代資本主義の持続可能性の危機と倫理的空白を埋めうる代替的パラダイムを提供します。とりわけ「無限成長」という神話から脱し、「持続可能な循環」への転換のための理論的基盤となりうます。

今後の課題

宗教経済思想の現代的適用方策の模索、多様な文化圏における検証、そして持続可能な経済モデルへの統合のための実践的研究が必要です。

종교-경제-윤리 통합 모델



도교-재부관-자유지상주의 유교-노동관-공리주의 서교-재화관-공동체주의
불교-분배관-사회계약주의

宗教-経済-倫理の統合的モデル

循環的な宗教経済観の主要な示唆点

- 経済は倫理的価値を内包した循環システムである 四つの価値（使用・交換・象徴・記号）の均衡が必要 宗教的世界観は経済倫理の根幹となる
- 循環的世界観は持続可能な発展の鍵



経済倫理と諸宗教の循環性

経済倫理、宗教、倫理学、経済学の循環的構造と相互関係

発表者：洪吉童

所属：〇〇大学校

〇〇学科 2023年6月

22日



目次

- 1  経済倫理と宗教の関係
- 2  倫理学の体系と経済学
- 3  現代の経済倫理思想
- 4  諸宗教の循環論理
- 5  宗教別の永生観と経済観
- 6  フラクタル構造と相関性
- 7  経済学派と宗教思想の連携
- 8  結論および現代的意義



倫理学、経済学、宗教の循環的相関構造の探究

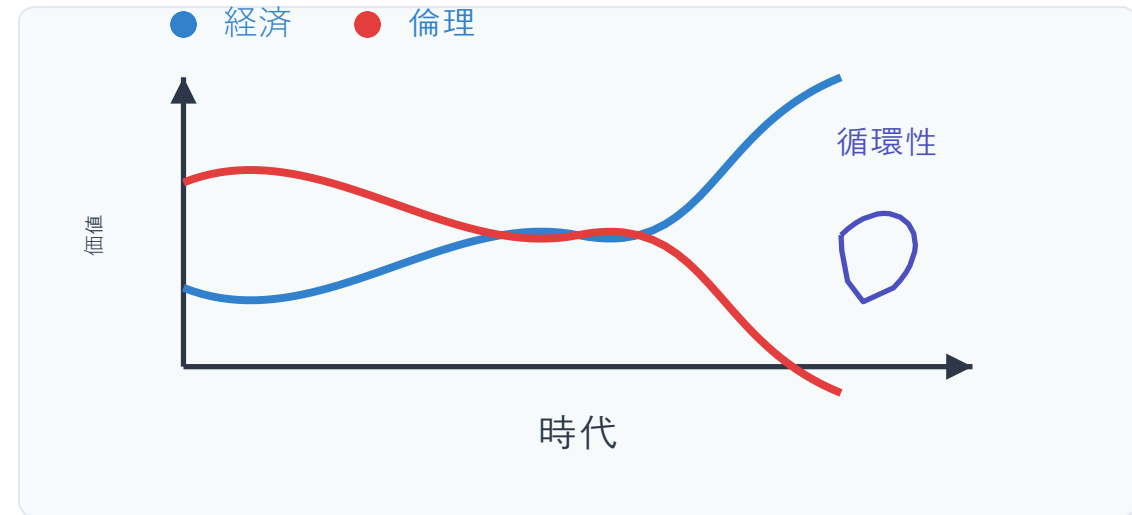
経済倫理と宗教の循環性：序論

宗教の経済思想は、抽象的な宗教思想を具体化して表現する核心的な宗教の構成要素です。宗教は経済思想として表現されるとき、その隠された意味を把握することができます。

経済と倫理はヤヌスのように相反しながらも同時に現れる密接な関係。経済の逆が倫理であり、倫理の逆が経済であると言えるほど密接な関係にある。宗教の経済思想は主に倫理学的な形態で現れる。

宗教、経済学、倫理学の関係は、まず日常に近い倫理学を中心に体系を立てた後、経済学との関係を照明し、再び宗教と関連づける順序で見えていくことができます。

図2.1：経済と倫理の歴史的推移



経済と倫理は歴史的に長期関数のような関係を示してきた

核心概念

経済と倫理は相反する形態で頻繁に現れながらも互いに補完的な関係にあり、これは宗教的文脈においてより明確に現れます。

倫理学の体系と経済学の関係

倫理学は時代順に三つの伝統を持っています：

- 徳（卓越）を強調するアリストテレスの倫理学
- 正（正、正義）を強調するカントの義務論的倫理学
- 善（善、効率）を強調する功利主義的倫理学

表2.1：倫理学の体系

評価対象 \ 価値概念	基本的価値	操作的価値言語	究極的目的
行為	善（善）	効率	効用
制度	正（正）	正義	権利
存在	徳（徳）	卓越	能力

経済学も倫理学と同様に、行為（善-限界効用学派）、制度（正-制度学派 / 歴史学派）、存在（徳-贈与論的経済学）の三つの課題を中心に理論を展開します。

図2.2：課題の構成

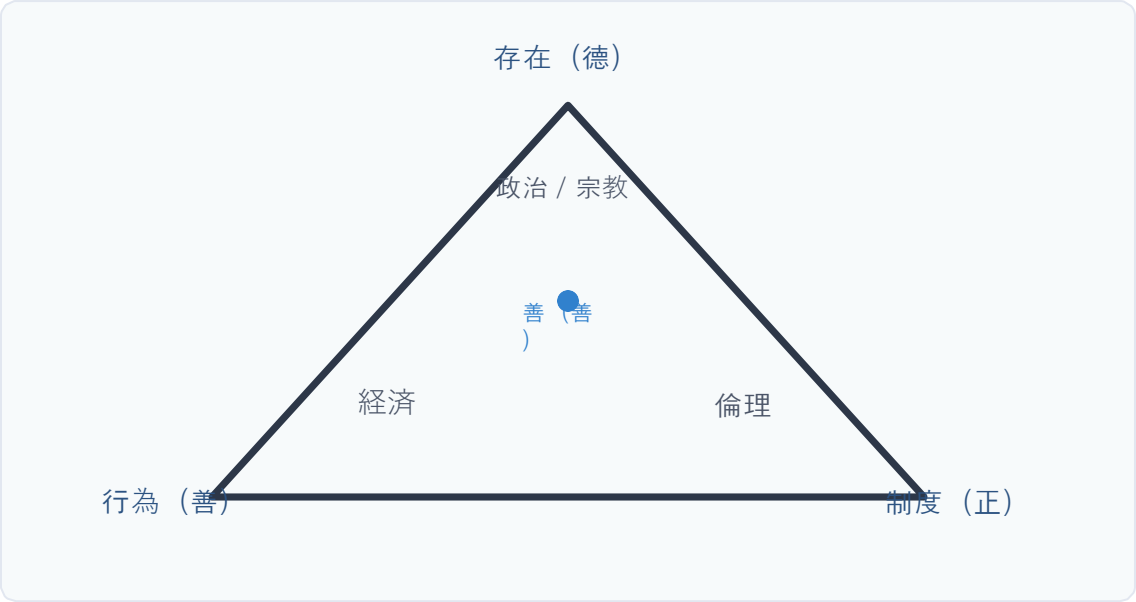
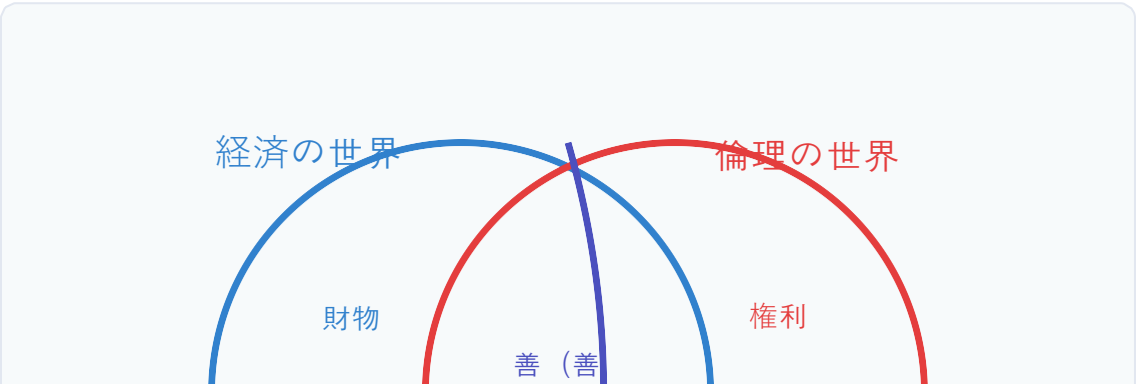


図2.3：経済の世界と倫理の世界の統合



現代の経済倫理思想の四つの潮流

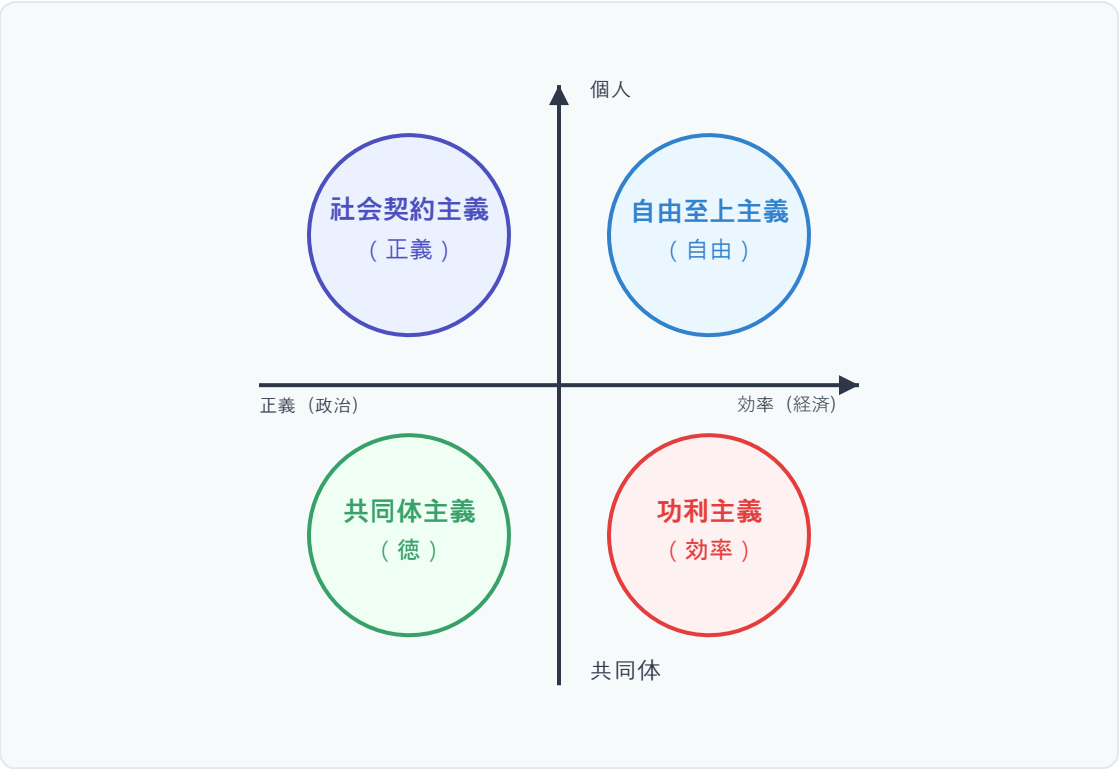
現代の経済倫理思想は四つの主要な潮流に分類することができます：

- 功利主義：最大多数の幸福を追求、効率を強調
- 社会契約主義：カントの義務論に基づき、個人の権利と正義を強調
- 自由至上主義：個人の自由を最優先、最小政府を追求
- 共同体主義：共同体中心、徳（徳）と実用性を強調

表2.2：現代道徳哲学の位相

方法 \ 価値	善（善）-制度内の秩序	正（正）-制度の基礎構造
個人主義	市場均衡論（理論経済学）	社会契約主義（正義）
	自由至上主義（自由）	
全体主義	功利主義（効率）	共同体主義（徳）
	制度進化論（歴史学派経済学）	

図2.4：四つの経済倫理の関係



四つの経済倫理思想の特徴

- 自由至上主義：個人、効率
- 功利主義：共同体、効率
- 社会契約主義：個人、正義
- 共同体主義：共同体、正義

諸宗教の循環論理（ 儒仏道 / 西教 ）の構造

宗教思想の教理体系にある循環論理の構成を通じて、諸宗教の経済倫理を理解することができます。循環的論理が表現しうる論理の枠組みは限られているため、東西洋の宗教思想は儒仏道と西教に集約されます。

Ⓜ 儒教（ 儒教 ）

XはXであり、-Xは-Xである

「君主（X）は君主（X）らしくふるまい、臣下（-X）は臣下（-X）らしくふるまうべきである」

「知ること（X）を知る（X）とし、知らないこと（-X）を知らない（-X）とすること」

≡ 道教（ 道教 ）

Xは-Xであり、-XはXである

「道（X）を道（X）と呼べば道ではなく（-X）」

「最も強いもの（X）は最も弱い水（-X）であり」「友（X）は仇（-X）であり、仇（-X）は友（X）である」

⦿ 仏教（ 佛教 ）

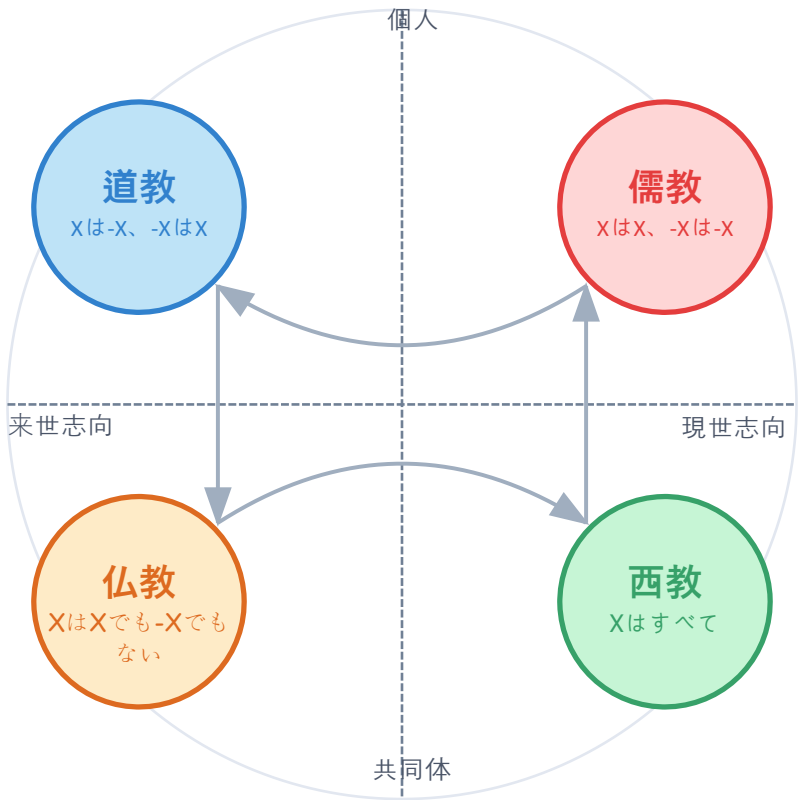
XはXでも-Xでもない

「『友（X）も仇（-X）もなく』すべては空（空）である」「物質と精神の区別がなく、我と汝の区別がなくなる」

⊕ 西教（ 西教 ）

Xはすべてである

図2.5：諸宗教の相関関係



各宗教の論理構造は相補的（相補的）関係をなし、循環的構造を形成します

宗教別の永生観と経済観

諸宗教は、志向する永生の形態と個人 / 共同体、来世 / 現世の志向性に応じて四つに分けて見ることができます。

儒教：招魂再生（招魂再生）

父と子、君主と子という人倫における循環を通じた再生の追求
物質は物質であり、精神は精神であるという論理 - 来世よりは現世、個人よりは共同体を志向

道教：肉身永生（肉身永生）

自然の理にかなう無為自然の循環を通じた肉身永生の追求
精神が肉体であり肉体が精神であるという論理 - 現世志向的な個人中心主義

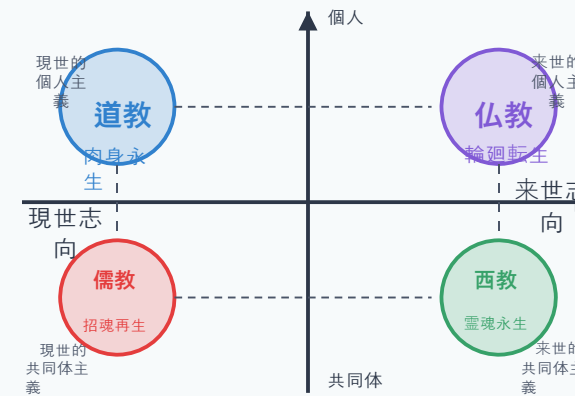
仏教：輪廻転生（輪廻転生）

縁起論による法輪における万物の循環を通じた輪廻転生の追求
肉体と精神の区別がなくなる論理 - 来世志向的な個人中心主義

西教：靈魂永生（靈魂永生）

神と人間共同体の間の十戒に立脚した契約的循環を通じた永生の追求
個人より共同体、物質よりは精神を追求 - 来世志向的な共同体中心主義

図2.6：諸宗教の永生観の相関関係



宗教と経済観の連関性

道教 → 自由至上主義

財富論的な経済循環、個人的な自由の追求

儒教 → 功利主義

生産中心、最大多数の幸福の追求

仏教 → 社会契約主義

公平な分配、義務的倫理

西教 → 共同体主義

流通と贈与、博愛（博愛）の精神

経済観との連携

各宗教の永生観は経済観（財富観、労働観、財貨観、分配観）へと連結され、これはさらに各経済倫理思想と連結されます。

フラクタル構造と相関関係

フラクタル (fractal, 相同性) とは互いに似た構造を意味し、全体と部分が類似したパターンを持つ自己相似性を特徴とします。宗教、経済、倫理の関係においてもこのようなフラクタル構造が見出されます。

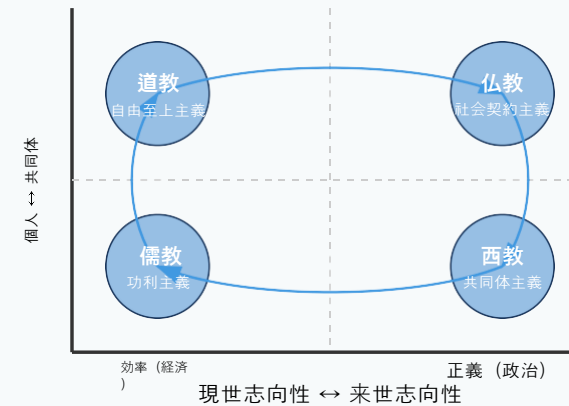
万物は互いにフラクタルのように類似した関係を示し、とりわけ宗教と関連する経済と倫理はさらにそうである

現代科学においても最も小さい原子と最も大きい銀河が類似した構造を持つ 循環論では万物がすべて循環し、互いに待対性を帯びる構造は類似する

創発主義的アプローチ

万物を分割して究極の粒子を見出す還元主義の方法とは異なり、万物の関係のなかで法則を見出す創発主義的かつ全一（全一）論的な方法を通じて、経済倫理と宗教の相関性を理解することができます。

図2.7：宗教と経済倫理の相関関係



経済倫理と宗教思想の相関関係は、フラクタル構造のように互いに類似したパターンを示す

[図2.4] 四つの経済倫理の関係と [図2.5] 諸宗教の相関関係は、共通の軸（個人-共同体、効率-正義 / 現世-来世）を共有し、互いに類似したフラクタル構造を形成します。

経済学派と宗教思想の連携

表2.3：宗教-経済倫理-経済理論の対比表

	貯蓄	生産	流通	分配
宗教	道教	儒教	西教	仏教
経済思想	自由至上主義	功利主義	共同体主義	社会契約主義
経済観	財富観	労働観	財貨観	分配観
経済学	新古典派	ケインズ主義	制度学派	古典派 / マルクス主義
価値理論	使用価値	記号価値	象徴価値	交換価値

図2.9：宗教と経済観の相関関係

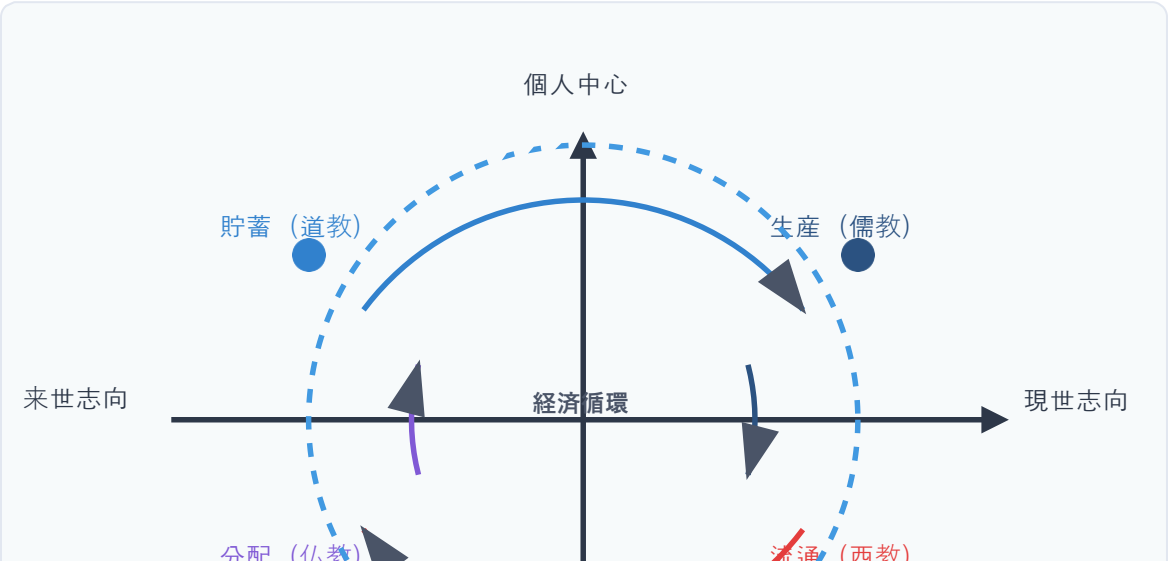
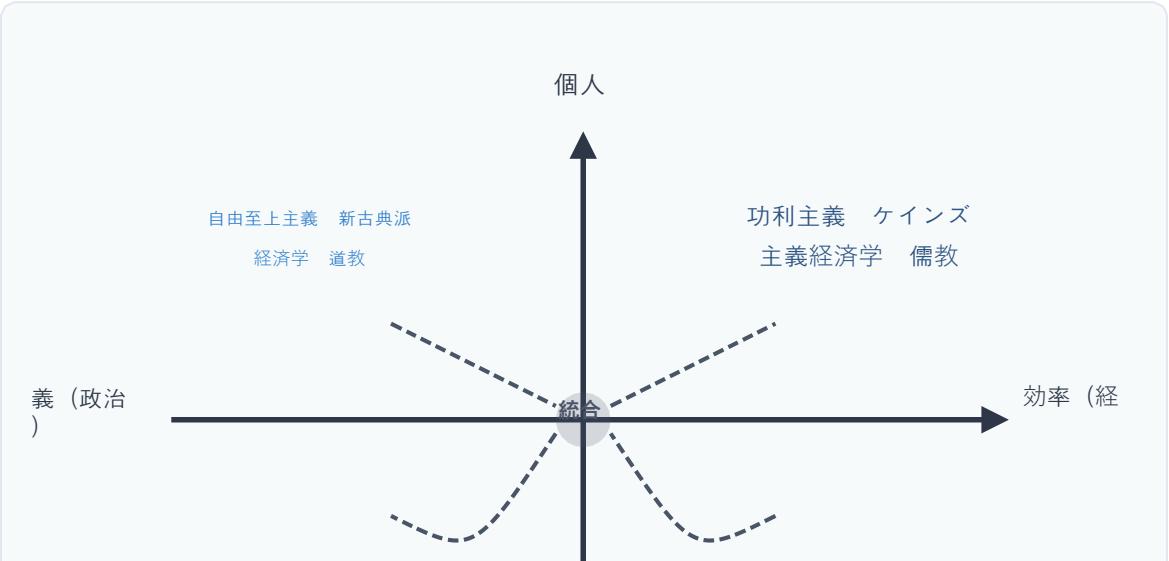


図2.11：宗教と経済倫理、経済学の相関関係



要約および結論：東西の経済倫理・宗教の循環性

東西の経済史と宗教的循環性を考察した結果、各宗教と経済思想は密接な相互影響関係にあることを確認しました。

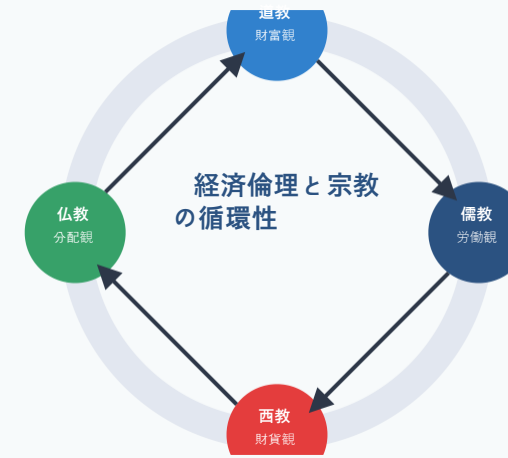
- 西洋資本主義は、道教的財富観と類似したカルヴァンのプロテスタンティズム的財富観から出発
- 中国から伝わった儒教的富国強兵論によって西欧資本主義が発展
- 富国強兵策により東洋的循環性が破壊され、神の救済の約束としての財貨という西教的循環も破壊

現代は物質至上主義と賭博資本主義へと変貌し、これを救う循環的宗教思想と経済倫理が必要

経済倫理と宗教の循環性は、単なる理論的構造ではなく、持続可能な人類社会のための実践的知恵の源泉となりうます。

※ 本研究は、宗教－経済倫理－経済理論の相互関連性に関する学際的研究の基盤を提示します。

総合：宗教と経済学の循環的構造



総合分析

経済倫理と宗教は、貯蓄（道教）、生産（儒教）、分配（仏教）、流通（西教）の経済循環過程においてそれぞれの特性を発揮し、これらの調和的統合が現代社会の持続可能性のための代案となりうます。

参考：表2.3 宗教－経済倫理－経済理論対比表

中国式道教資本主義と自由至上主義的財富観

道教と自由至上主義の経済思想比較を通じた現代資本主義の理解

発表者：[氏名] 所属：[

所属 / 機関]

日付：2025年6月
22日



研究背景および目的

- 中国の経済的価値観において道教思想が持つ役割

既存の儒教・仏教・キリスト教と比較して道教が持つ資本主義的特徴、道教資本主義と自由至上主義 / 新古典派経済学の実質

- 的差異と示唆点の分析、経済倫理における道教的財富観が現代資本主義に与える含意

- 循環と自由の関係を通して見た現代の経済危機と代案の模索



道教資本主義の定義と特性

- 資本主義に最も近い中国の伝統思想

現代中国で最も人気のある宗教であり、物質を最優先の価値とする現代中国は、儒教国家というより道教国家に近い姿を示す



財富、物質追求、貯蓄、実用性の強調

道教は中国人の理財（りざい）に明るい属性と符合し、現代の道教寺院の神は財物を司る神明で満ちている



政治的・歴史的影響

毛沢東は道教を相対的に優遇し、鄧小平の改革開放は道教の柔軟さと関連し、現代中国の経済体制は道教資本主義的要素を内包している



現実的な財富追求と適応力

勸善書（勸善書）と功過格（功過格）を通じた善行と未来の財富の連結、実用的態度と現実適応の強調



道教経済思想の中核原理

- 経済サイクル：生産－流通－分配－貯蓄の循環

道教は特に「貯蓄」と「循環」を経済発展の中核とみなし、「水の哲学」のような貯蓄思想を強調

- 小国寡民（小國寡民）－最小国家論

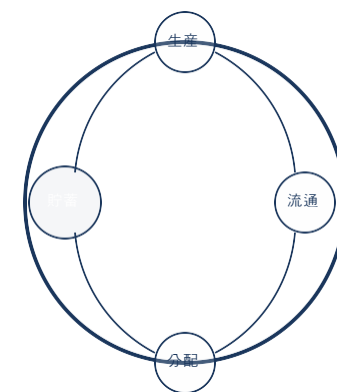
効用本位の最小限の政府を理想的国家とみなし、自由至上主義的経済観と類似した国家観

道（道）の前の絶対平等

- 実利中心の価値理論
莊子の天生平等説（天生平等説）は、法の前の平等、市場の前の平等のような自由至上主義的絶対平等観と連結する
新古典派の限界効用理論と類似した実利尊重、効用重視の思想により資源の効率的配分を志向

- 自然との調和、循環の強調

無為自然（無爲自然）の原則が、経済活動においては貯蓄と循環を通じた自然な経済秩序として表現される



自由至上主義経済観との比較概要

- 自由至上主義 / 新古典派経済学の核心

私有財産の尊重、最小政府、市場自律、法 / 市場の前の平等、個人の自由と効用価値中心



道教資本主義との共通点

貯蓄と自由の尊重、経済的効率性、限界効用均等の法則の強調、最小

- 国家の志向

根本的な相違点

- 道教：「自然の循環」が最優先の価値、自由至上主義：「人間の自由と利益」が最優先の価値

現代的意味における緊張関係

自
義

道教資本主義

「循環優先、自由追求」



現代

自由至上主義

「自由優先、循環追求」



歴史的影響 – 東西思想の交流

- 道教の西洋への伝来

マテオ・リッチによって間接的に初めてヨーロッパへ紹介され、宋明理学を通じた影響が拡散

- 経済理論に与えた影響

アダム・スミスの「見えざる手」（無為自然）、新古典派の限界効用論、自由至上主義の経済倫理

カルヴァン主義と道教的財富観

- カルヴァンの救済予定説・高利貸業の容認は道教の勸善説と財富観の影響であり、「神の恩寵としての財物」という観点が類似

思想的系譜

道教の小国寡民思想 → 孔子と孟子の自由放任的経済思想 → カルヴァンとアダム・スミスの

国富論、自由放任主義

● 1585-1610
マテオ・リッチの中国での活動 東西思想交流の始まり

● 1564-1604
カルヴァンの活動
救済予定説、高利貸業の容認

● 1723-1790
アダム・スミス
国富論と見えざる手

● 1870年代-
新古典派経済学
限界効用論の発達

「国富論はその題名からして道教の富国（富國）強兵策から来ており、自由放任は道教の無為之治を翻訳した言葉に由来する。」

道教資本主義 vs 自由至上主義 比較表

比較項目	道教資本主義	自由至上主義 / 新古典派経済学
理論	Xは一X、現実否定 未来対備	自由尊重、個人の選択の自律性
重点経済活動	貯蓄、財富観、財物崇拜、棄国主義	私有財産の増殖、市場取引
国家観	小国寡民、太平の実現	最小政府、警察国家
社会観	人為の排撃、自然的秩序の強調	政府干渉の排除、自己調整市場
平等観	道の前の平等、天生平等論	法 / 市場の前の平等
価値理論	実利崇拜、上善若水の適応	効用価値、適応を通じた効率
代表的思想家	老子、莊子	カルヴァン、アダム・スミス、ハイエク、フリードマン
長所	経済動機の誘発、循環の重視	資源の効率的分配
問題点	社会制度の否定による虚無主義、現実逃避	過度な自由尊重による共同体の破壊、賭博 / カジノ資本主義化
根本的差異	循環 / 自由のうち循環が優位	循環 / 自由のうち自由が優位



経済活動の観点から見た両思想の相違点

道教資本主義

- 貯蓄と循環の強調
無（無）、止（止）を強調する「還りの宗教」
- 自然の秩序の重視
水の哲学、「小国寡民」思想を通じた経済資源の蓄積
- 経済サイクルにおける位置
生産－流通－分配－貯蓄のうち貯蓄に集中、循環を誘導
- 中核的価値：循環優位
人間の自由より自然の循環的秩序を優先する

自由至上主義

- 市場自律と個人の自由の強調
個人の選択と利益極大化のための市場機能
- 人間中心の利益優先
限界効用極大化を通じた資源の効率的分配
- 経済サイクルにおける位置
生産－流通－分配－貯蓄のうち分配と流通に集中
- 中核的価値：自由優位
自然的循環より人間の自律性と選択を優先する



現代的意味と問題点

道教資本主義

強み

- 実用性と現実適応力
- 自然の循環原理の強調
- 経済動機の誘発と貯蓄の重視

問題点

- 社会制度の否定と虚無主義に流れる危険
- 制度が不備なとき現実逃避思想へ変質
- 賭博資本主義へ墮落する可能性

自由至上主義

強み

- 市場の自律的効率性
- 個人の自由と選択の尊重
- 資源の効率的分配メカニズム

問題点

- 過度な自由尊重による共同体の破壊
- 人間の利益のみを追求し生態系危機を招く
- 自由の過剰により賭博資本主義へ変質

現代資本主義の危機の分析

- カルヴァン主義の財富観が「神の死」（ニーチェ）、「人間の死」（共産主義の失敗）以後、賭博資本主義へ変質
- 貨幣が循環性を喪失し自己目的化することで、社会的信頼と機能を喪失
- 自然の循環（道教）と人間の自由（自由至上主義）の間の均衡喪失が現代の経済危機の根本原因

賭博資本主義現象の分析

- 財富観の変化：「神の死」以後
プロテスタンティズムの禁欲的労働の強調から、誇示的消費と仮想的満足の追求へと変化
- 貨幣の意味の変化
「救済」の証から他者の欲望の証へ、現在は循環性を喪失したまま、それ自体が宗教化
- 現代資本主義の理想の喪失
共産主義の失敗とともに人類の理想への信頼を喪失し、他者の欲望の模倣へ転落
- 賭博資本主義の特性
投機と短期的利益の重視、循環性の不在、「貨幣のための貨幣」の形態へ進化

宗教的資本主義

財貨を失っても資本主義を恨まない宗



信現象が発生



解決案および示唆点

- 循環的調和（道教）と自律的責任（自由至上主義）の回復

🔄 道教資本主義

自然の循環原理の尊重と過不足の警戒、資本の流れを阻害する過剰蓄積の防止

⚖️ 自由至上主義

個人の自由とともに責任意識の回復、良心に基づく自律的秩序の構築

- 賭博資本主義克服のための価値の再定立

財富と財物観に対する再省察と「循環」の回復、財物の独占より効率的な「流れ」を重視する経済システムの構築

- 社会的・倫理的フレームの強化

道教の上善若水（上善若水）原理と自由至上主義の最小政府を結合した均衡モデル – 流れを妨げないが倫理的基盤は強化する

未来経済への示唆点

人為的制度と自然的秩序の均衡、市場自律性と社会的循環が調和した新たな経済モデル構築の可能性



結論および今後の課題

主要な結論

- 道教資本主義と自由至上主義の本質的差異
道教は「自然の循環」を優先し、自由至上主義は「人間の自由」を優先するという根本的な価値の差異を持つ
- 現代資本主義の危機と道教的洞察
自由のみを強調し循環を無視した現代資本主義の賭博的変質と危機

今後の課題

- 経済理論と政策における循環と自律の均衡の模索
道教の循環原理と自由至上主義の自律性原則を統合した新たな経済パラダイムの研究
- 現代的適用方案の研究
過不足の警戒（道教）と自律に対する責任の承認（自由至上主義）を結合した経済倫理の発展





仏教菩薩資本主義と社会契約主義的分配観

仏教経済思想と社会契約主義的分配観の比較分析

学術発表スライ
ド

2025年6月22日

目次



1. 研究背景および問題提起
2. 仏教菩薩資本主義の概念と特徴
3. 仏教菩薩資本主義の歴史的背景
4. 仏教の重点経済活動と教理
5. 仏教の国家観と分配政策
6. 仏教の価値理論：縁起論と労働価値論
7. 社会契約主義との比較分析
8. 比較表を通じた体系的整理
9. 問題点と改善方案
10. 結論および今後の課題

研究背景および問題提起



- 仏教の経済思想は近年インド、生態主義の拡散とともに新たに注目
- 儒教、道教の経済思想との差別性：生産より分配に集中、社会契約主義との比較
- 較を通じて仏教菩薩資本主義の分配観を照明

仏教菩薩資本主義の概念と特徴



- 縁起論（緣起論）に基づく経済思想

すべての存在と現象は相互の因果関係で連結されている

- 分配中心的、倫理中心的な経済思想

効率性より衡平性と正義を強調する公正な分配の

- 重視

相互の利他性と菩薩精神に基づく経済観

人間の義務と共同体的福祉、自然の循環性の強調

仏教菩薩資本主義の歴史的背景



- 西洋への伝播：マテオ・リッチが西洋に仏教を紹介
 - 中世ヨーロッパでも「菩薩」が「ヨサファト」という名で知られる

カントの義務主義倫理学に影響

- 二律背反の原理は仏教の「中（中）」、「空（空）」、「0（零）」概念と類似

● ショーペンハウアーとニーチェの仏教思想の受容

ショーペンハウアー：物自体は「意志」であり「苦（苦）」であると解釈

ニーチェ：仏教の自己救済思想と「自己中心の回復」に注目



仏教の重点経済活動と教理

- 成住壊空（成住壊空）の循環観 - 経済活動の循環性

虚空（空）が崩れては成る過程：貯蓄－生産－流通－分配

- 縁起（縁起）による分配中心的な経済活動

財産は縁起によって生じ、階級を認めず公正な分配を強調

- 効率性よりは衡平性と正義を強調

「XはXでも－Xでもない」 - 動き自体より分配の公正性を重視

- 正しい経済活動に対する現実的態度

釈迦如来：善悪を区別できる人の経済活動を勧奨

仏教の国家観と分配政策



- ブッダの分配政策：社会的問題は経済的不均等に起因し、国家は再分配政策を通じて社会的公正を実現すべきである
- ロールズとの類似点：最低所得層の厚生を最大限に引き上げる所得分配政策は公平であり、分配の道徳的命令を強調
- 究羅檀頭経（クータダンタ経）の事例：一時的な貧民救済ではなく、生産基盤の提供、資本支援、賃金支給などを通じた自立基盤の構築

国家は貧しい農夫に生産基盤を、商人に資本を、雇用者に賃金を支払い、財貨の均等分配を実現

仏教の価値理論：縁起論と労働価値論

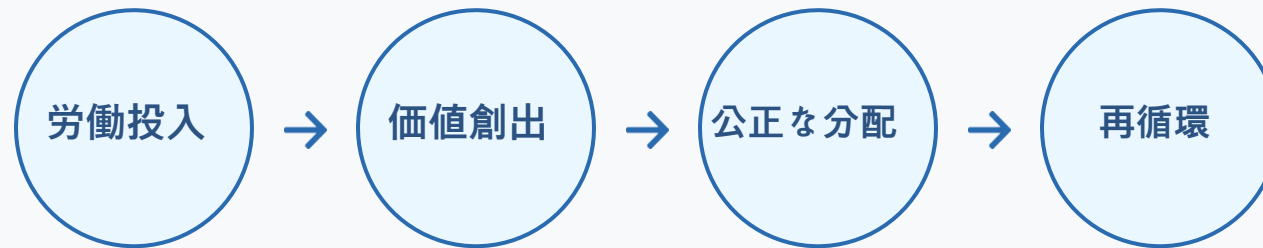


- **縁起論（縁起論）：すべての現象は因果関係で相互に連結される**

万物は独立して存在せず、互いに依存し循環する関係

- **アダム・スミスの労働価値論との類似点**

価値の根源は人間の労働 – 500ウォンの商品より1,000ウォンの商品が高い理由は、より多くの労働が投入されたためである



- **「蒔いた分だけ収穫する」 - 縁起論と労働価値論の原則**

- 労働の対価としての商品：人々は労働の対価に応じて公平に分配を受けられる

社会契約主義との比較分析



● 哲学的アプローチの差異

社会契約主義

- カントの義務論的倫理学
- ロールズの正義の原則中心
- 契約を通じた社会的結束の強調
- 最低所得保障の福祉国家の志向

菩薩資本主義

- 縁起論的世界観
- 循環と共同体連帯の中心
- 無限の相互依存性の強調
- 功德、報恩、貧窮の観点からの福祉

● 正義と循環の優先順位の差異

- 社会契約主義は個人の自由と契約の遵守を重視し、仏教は縁起的依存関係と倫理的義務を強調
- 両思想はともに公正な分配を重視するが、その哲学的根拠とアプロ

比較表を通じた体系的整理



区分	菩薩資本主義	社会契約主義 / 古典派経済学
影響史	カント、ショーペンハウアーなどに影響	社会契約主義的平等思想に影響
理論	縁起論による公正な分配	効率性より公正性の重視
重点経済活動	正しい分配のための生産	経済論理ではなく正義の原則の重視
国家観	中立国家、社会公正性の維持	基礎的社会保障国家
社会 / 平等観	功德田、報恩田、貧窮田	最低所得の維持
価値理論	無縁起、無分配	労働価値論
長所・短所	対称性の回復、倫理の回復	経済学への義務の導入による共同体発展の契機
問題点	縁起の境界が不透明	契約違反時の対策の名分の欠如
相違点	正義より循環の重視	循環より正義の重視

問題点と改善方案



仏教菩薩資本主義

⚠ 縁起の境界が不透明

複雑な社会において縁起論的公正性の境界設定が困難

⚠ 効率性、革新の不足

分配中心により経済成長の
原動力が弱化する

💡 改善方案：縁起論の補完

個人の解脱を超えて共同体尊重へと拡張

社会契約主義

⚠ 契約違反時の対策の名分の欠如

社会契約の破棄時の対応策の不足

⚠ 人間と社会に対する不信

共産主義崩壊後に現れた現代の危機

💡 改善方案：義務遵守と連帯

報恩精神と共同体的紐帯の回復

結論および今後の課題



- 両思想の現代的意味

仏教の縁起・循環中心の思想と社会契約主義の正義・義務中心の思想の統合的アプローチが必要



生態主義と持続可能な分配の観点

環境危機と人間疎外の解決のための生態学的経済観への変貌の必要性、仏教の循環論的経済思想を通じた価値論の再解釈と分配の公正性の回復

- 今後の研究方向

菩薩資本主義の縁起論的特性と社会契約主義義務論の相互補完的発展の模索、共同体的分配と個人的義務の均衡ある経済倫理体系の構築



人間と自然が調和的共存を成す経済モデルの提案

仏教の「対称性の回復」と社会契約主義の「共同体発展」哲学の現代

儒教資本主義と功利主義的労働観

20世紀後半のアジア経済成長の背景と儒教資本主義、そして功利主義的労働観の学術的分析

2025.06.22

発表概要

- 1 背景：アジア経済と儒教資本主義
- 2 理論的基礎
- 3 西欧経済思想に与えた影響
- 4 核心的特徴
- 5 価値論分析
- 6 功利主義との比較
- 7 結論および示唆点

背景：アジア経済と儒教資本主義

20世紀後半のアジア経済の急浮上

- 中国、日本、ベトナムおよびアジアの四頭の龍（韓国、台湾、香港、シンガポール）など儒教伝統国家の世界経済制覇
- 反近代的思想として糾弾されてきた儒教が、資本主義より優れた思想ではないかという全世界的な再評価が始まる

儒教資本主義研究の世界的拡散

- 米国のエンチン研究所の杜維明、日本の森嶋通夫、韓国の咸在鳳などを中心に研究が進行
- 西洋のオリエンタリズムによって歪曲された儒教思想の優秀性が一つずつ再照明
- 儒教が資本主義の発生と発達に与えた肯定的影響に関する学術的議論が活発

儒教資本主義の理論的基礎

創造性と革新の強調

- 儒教は古臭い理論ではなく創造性を強調する思想であり、推進性の創造性を特徴とする
- 貯蓄によって作られた種を革新と創造性を通じて芽吹かせる経済観

『大学（大學）』の核心思想

「明德」（明德） - 「在新民」（在新民） - 「日新又日新」（日新又日新）

- 絶え間ない自己更新と発展を追求する発展志向的思想
- 人間の創造性と循環的革新を強調

社会的共同体精神

- 人間は万物を循環させるための共同体を成して生活する
- **最大多数の最大幸福のための構造的革新を通じた功利主義的労働観の形成**
- 儒教は生産を強調する仁（仁）と分配を強調する義（義）の調和を追求

西欧経済思想に与えた儒教の影響

歴史的影響関係

- ・ アダム・スミスとヒューム：中国経済思想に対する研究と影響の受容
- ・ ヨーロッパで孟子の自由主義経済思想を模倣したケネーの農業中心的資本主義

「アダム・スミスは、中国が世界の経済中心であると表現した最後の時代の学者」

経済思想の革命的転換



- ・ 見えざる手の概念：儒教の「道（道）」から影響を受けた市場調節原理
- ・ 儒教の循環的経済観に対する理解の不足により西欧資本主義の限界が発生
- ・ 直線型発展（西欧）vs 螺旋型発展（東洋）：持続可能性の差異

儒教資本主義の核心的特徴

1. 重点経済活動：生産と仁（仁）中心

- 貯蓄－生産－流通－分配のうち生産を最も強調
- 孟子の仁義（仁義）のうちでも生産である仁（仁）を特に重視
- 共同体を通じた構造的革新と最大多数の最大幸福の追求

2. 国家観：人文主義的アプローチ

- 孔子の人文主義国家観に基づく
- 血縁の自発性から人文啓発の熱望へと拡張された国家概念
- 哲人国家の伝統と富国強兵を効率的に達成する体制

儒教資本主義の価値論分析

革新価値論

- 労働価値と効用価値を超える人間の創造性の価値の強調
- 儒教は絶え間ない自己革新を通じて新たな価値創造を追求
- シュンペーター：「革新が価値の源泉であり、革新なき社会は価値がありえない」

記号価値論

- 記号価値の源泉も循環にある – 流行と待対（對待）の原理
- **質的価値の側面：道教の使用価値と仏教の交換価値を儒教的記号価値へと昇華**
- 現代の後期資本主義社会は記号を生産し消費する最も効率的な体系
- 儒教資本主義の記号価値は共同体を人文化し持続可能な発展を促

功利主義との比較：長所と問題点

区分	儒教資本主義	功利主義 / ケインズ - シュンペーター
影響史	アダム・スミス、ケネーに影響	福祉国家に影響
理論	創造性の重視、日新又日新	有効需要、企業家精神
重点経済活動	生産、仁（仁）、労働	最大多数の最大幸福のための大量生産
国家観	人文主義国家観	福祉国家
社会 / 平等観	大同社会、大同の平等	集合的効率の重視
価値理論	記号価値	革新価値論
代表的思想家	孔子、司馬遷	ベンサム、ミル / ケインズ、シュンペーター
長所	共同体の人文化、革新	革新、共同体発展の契機
問題点	団体本位、画一化	個人の人権侵害、質的差別の無視
相違点	循環が功利より優先	功利が循環より優先
問題解決案	三綱五倫における弱者の尊重	少数の利益保障

結論および示唆点

儒教資本主義と功利主義的労働観の融合

- 直線型発展ではなく易（易）の循環的経済観に基づく持続可能な螺旋型発展の追求
- 中国の体制柔軟化と資本主義国家の社会保障制度強化を通じた相互補完

問題解決案と未来の課題

- 儒教の三綱五倫における弱者の利益保障および相生方案の発展
- 功利主義の集合的効率は維持しつつ、個人の権利と少数の利益保障メカニズムを強化
- 記号価値と革新価値の共存を通じた質的成長と共同体の人文化の追求
- 西欧と東洋の経済思想の融合を通じた新たな持続可能な発展モデルの構築

西教（西教）西欧資本主義と共同体主義的財貨観

マックス・ウェーバーの理論を超えて、西教的博愛と共同体主義的財貨観および資本主義の相関関係の分析



西洋の宗教



資本主義



共同体主義

1. 研究背景および問題提起
2. 西教の歴史的再解釈
3. 西教の重点経済活動と教理
4. 西教の社会観と国家観
5. 西教の価値論と博愛論
6. 西洋資本主義の長所と問題点
7. 西教と共同体主義の比較分析
8. 経済循環構造の分析
9. 結論および示唆点

景および問題提起

- マックス・ウェーバー理論の再解釈

ウェーバーの『プロテスタンティズムと資本主義の精神』が明らかにしたところとは異なり、プロテスタンティズムは西教の博愛精神に基づく共同体精神が資本主義の成立に寄与した

- 共同体主義的財貨観の再照明

西教の財貨観は循環と流通に基づく博愛思想であり、これはプロテスタンティズムの財富観とは正反対の思想である

- 現代経済構造の再解釈の必要性

環境危機と人間疎外の問題に直面した現代資本主義に対し、西教的共同体主義が与える示唆を考察する

“ 核心的な問題提起

西洋資本主義の成功は、単なるプロテスタント倫理ではなく、西教の博愛・流通の精神が結合した共同体主義的財貨観に起因する



博愛(火)



貯蓄(物)



循環(経済)

歴史的再解釈

● プロテスタンティズムと西教の差異

ウェーバーとは異なり、西教の博愛思想はプロテスタンティズムの財富観と正反対の思想体系を持つ



プロテスタンティズム

貯蓄中心、現世的労働の強調、世界改造の使命

VS



西教(カトリック、正教会)

循環中心、博愛と贈与の強調、世界との調和の追求

● 西教の博愛と火(火)的循環

「博愛」は「火」のように、集めた財富を必要な場所で消費して循環させる役割を果たす

* 西教は聖霊を「火」として表現し、これは価値の循環と効用実現を象徴する



道教 — 「水」

水を引き寄せて蓄積する役割



儒教 — 革新

生産と価値創出の重視



西教 — 「火」

価値の流通と循環の促進

重点経済活動と教理

● 流通中心の経済活動

「貯蓄」生産「流通」分配」の経済循環のうち流通に該当し、博愛という共同体主義的財貨観に立脚した流通を通じて価値を実現する

● 利子の承認と三位一体

同一の唯一神を信じるイスラム教やユダヤ教とは異なり、「利子」を承認することで西洋資本主義の発展に寄与した

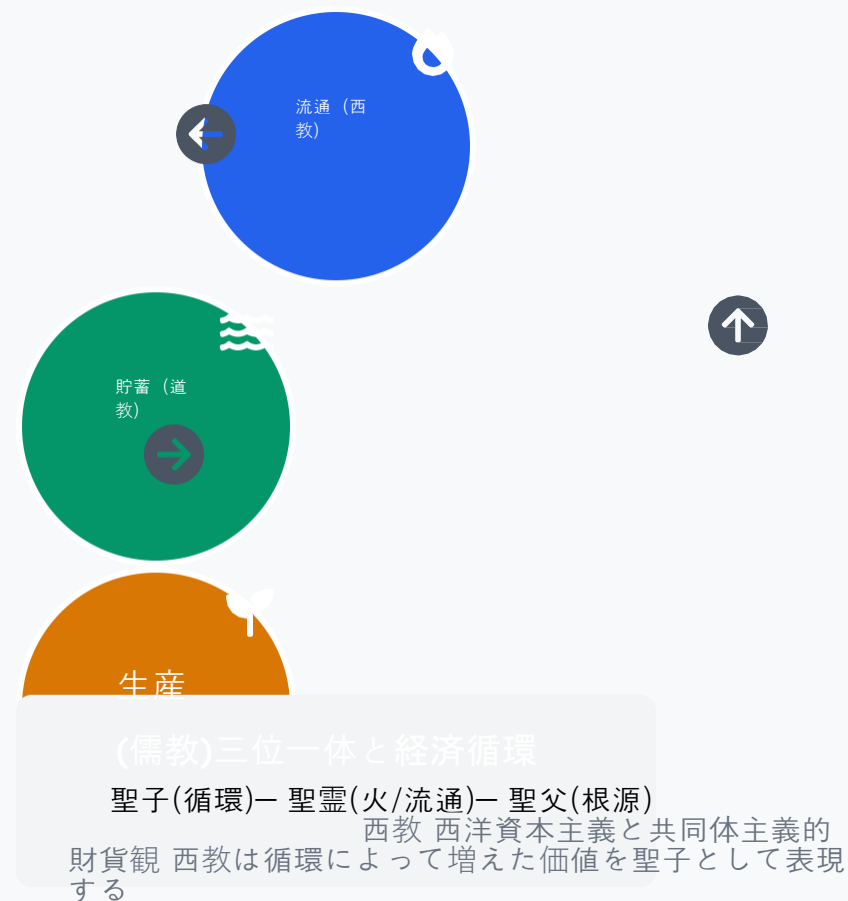
● 博愛と火(火)の象徴

西教は聖霊を「火」として表現し、道教の水(水)とは異なり、博愛は「火」のように集めた財富を必要な場所で消費して循環させる

● 貨幣と唯一神の論理

「お金」は循環を象徴し、西教の唯一神思想は貨幣のように単一の基準ですべてを統一する思想である

消費に偏重して価値を生産しないのではなく、効用を実現させて価値を生産する



社会観と国家観

● 共同体主義的社会観

独立した個別主体が批判的に市場経済を見つめ、共同善を主張する。社会連帯を利害打算ではなく、歴史的に形成された感情共同体として認識する

※「すべての者は兄弟、姉妹」— 家族を超えた拡張された共同体関係の形成

● 地上天国を志向する国家観

国家は共同体の理想を積極的に実現する場である
教皇と王の二元的体制であるが、王は共同体の理想実現の主体である

● 市場と共同体の均衡

共同体主義は市場経済と対立すると同時に補完する倫理的基盤である。共同体を通じた循環と流通により市場経済の限界を克服する

理想的な経済思想であるが、そのためには循環に対する確固たる保証が必要である



共同体主義と社会契約主義の比較

共同体主義：感情共同体、共同善の優先

社会契約主義：利害打算、個人の権利の優先



西教の国家観：地上天国



教会共同体



王権制度



共同体の理想

価値論と博愛論

- 文化価値論と象徴価値論

西教の流通—財貨観は文化価値論または象徴価値論と最も密接な関係を持つ

- 限界効用と博愛の贈与

最も必要な場所に流通させて最高の効用を引き出す限界効用の法則は、博愛という贈与の実践として実現される

- 霊的資本の形成

記号論的な商品変化は流通を通じて象徴価値として固まり、霊(靈)的資本へと発展する

象徴価値の観念は神との約束として現れ、これは贈与経済の過程で作動する超越的・霊的な交通として説明される」

象徴価値は西教において神との約束として現れる

価値実現の過程

交換価値



使用価値



記号価値



象徴価値



贈与



循環



博愛

● 西教 西洋資本主義と共同体主義的財貨観

資本主義の長所と問題点

資本主義の長所

- **博愛の贈与思想**
東洋の儒仏道思想に欠如した博愛の贈与思想によって資本主義発展の基盤が築かれた
- **資本循環の促進**
儒教・道教の富国強兵策で生産された財貨を、博愛思想に従って広く流通させ、財貨の循環を促進する
- **共同体形成の容易さ**
非農耕民族の特性による公平な関係の維持、共同体形成に有利

西洋資本主義の問題点

- **財貨の象徴価値の変質**
神の死・理念の死により財貨に対する象徴価値が変化
：神の慈悲の証明 → 使用対象 → 仮想現実
- **循環性の崩壊**
環境危機と人間疎外というブーメランにより循環性が崩壊し、『天国のために今日を犠牲にする賭博資本主義』へと変質した
- **循環的倫理の喪失**
物質文明の発展が儒仏道の循環構造の精神文明を妨げ、個人の経済観もまた循環的倫理を喪失する

問題解決の方向性

「目的意識がない限り、道徳は趣味や嗜好にすぎない」

→ マッキンタイア(共同体主義の代表的思想家)



経済の循環



贈与の回復



目的意識の

共同体主義の比較分析

宗教(西教) 西洋資本主義

農耕文化 共同体主義

承認、三位一体

神愛の実現を通じた共同体

天国

神との約束

カルヴァン、ウェ

点

と

神の兄弟姉妹 / 神の前の平等

集団行動が可能 / 環境問題

循環の重視

対話の増進

共同体主義 / 制度主義経済学

影響史：現代共同体主義理論

理論：贈与経済論、一般経済論

重点活動：贈与、流通、消費

国家観：共同体国家

価値理論：象徴価値

代表的思想家：マッキンタイア、マイケル・サンデル

社会 / 平等観

長所と問題

点 強調点

問題解決策

感情共同体 / 共同体の前の平等

理想的な経済体系 / 現実性の不足

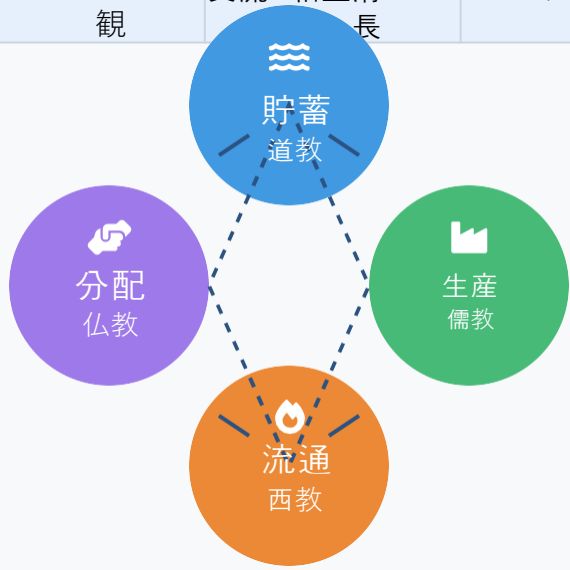
共同体の重視

目的意識の強化

環境構造の分析および結論

流通—分配の循環構造(表2.8)

宗教	経済思想	循環関係	価値論	資本主義
道教	肯定的財貨観	反対—相互対立	効用価値論	中国資本主義
儒教	召命的労働観	期待—相互依存	革新価値論	儒教資本主義
西教	公共的財貨観	代行—相互代行	貨幣価値論	西洋資本主義
仏教	縁起的分配観	交流—相互消長	労働価値論	菩薩資本主義



発展は、社会と自然の循環構造を通じて持続可能となりうる

結論および示唆点

● 経済循環の本質：貯蓄—生産—流通—分配へと続く循環構造は経済の基本的な流れであり、西教はこのうち流通段階を主導する

● 西教の博愛と共同体主義：西洋資本主義の成功は、博愛に基づく流通による財貨の循環促進にある

● 現代資本主義の問題：物質文明の発展過程において循環性が喪失し、環境危機と人間疎外により資本主義の危機を招いた

● 無意識的対称性：人間は無意識的対称性ゆえに、贈与と循環の経済への参加が必然的である

現代経済への示唆

環境危機と人間疎外の問題を解決するためには、西教的循環倫理の回復と共同体主義的財貨観の現代的適用が必要である

贈与と循環が持続可能な経済発展の核心的要素であり、持続可能な共同体のための対話と目的意識の強化が必要である

西教 西洋資本主義と共同体主義的財貨観

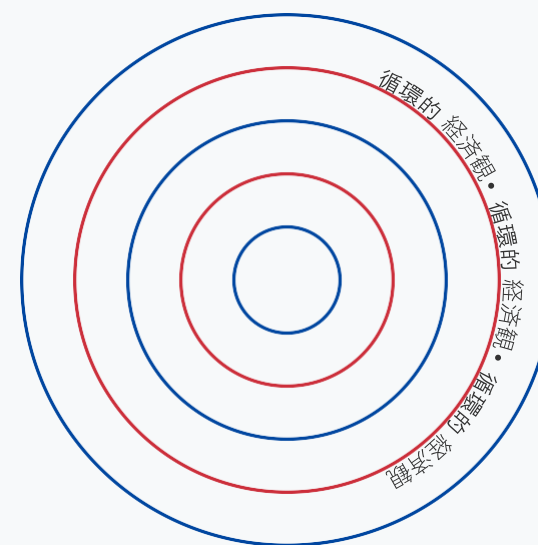
宗旨に現れた循環的経 済観

大巡思想の循環性の原理および経済学的意義に関する学術発表

発表者：[氏名] | 日時：2025年6月22日

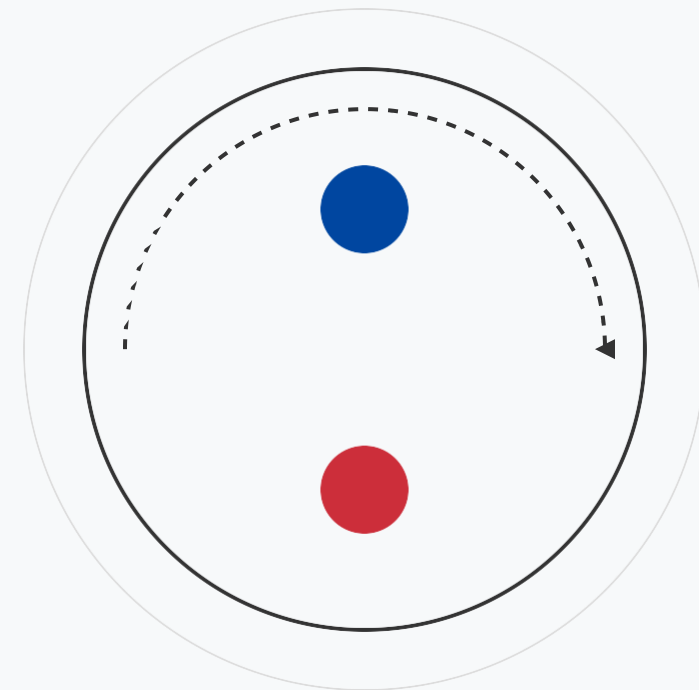
目次

- 1 序論および概要
- 2 易(易)と大巡思想の循環的世界観
- 3 東西の循環理論の比較
- 4 陰陽五行の科学性
- 5 易の循環の5つの形式
- 6 待対(待對) — 陰陽合徳
- 7 流行(流行) — 道通真境
- 8 中和(中和) — 解冤相生
- 9 回帰(回歸) — 神人調化
- 10 螺線(螺線) — 甌山の原理
- 11 経済思想との関連性
- 12 結論



1. 易(易)と大巡思想の循環性の概要

- 大巡思想は「円(圓)」と循環を核心原理とする
- 無極(無極)、太極(太極)、大巡(大巡)、そして天地の道と経済に循環の論理が統合されている
- 円形的循環性は東洋および大巡思想の隠された重要な原理である
- 宗教的・哲学的思想を超えて経済観にも影響を及ぼす核心的思想体系である



大巡思想の円形的循環性の概念図

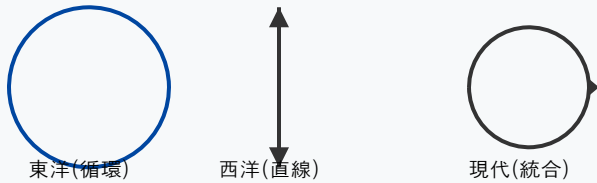
2. 東西の循環理論の比較

- 東洋：全一的(全一的)循環 — 陰陽五行によって物質全体の循環を把握する
- 西洋：減算的(減算的) / 還元論的アプローチ — 物質の最小粒子を探し出す研究。ラッセルのパラドックスとゲーデルの不完全性定理：循環論理の科学性を証明

現代科学：複雑系科学を通じて循環的思惟の価値を再発見

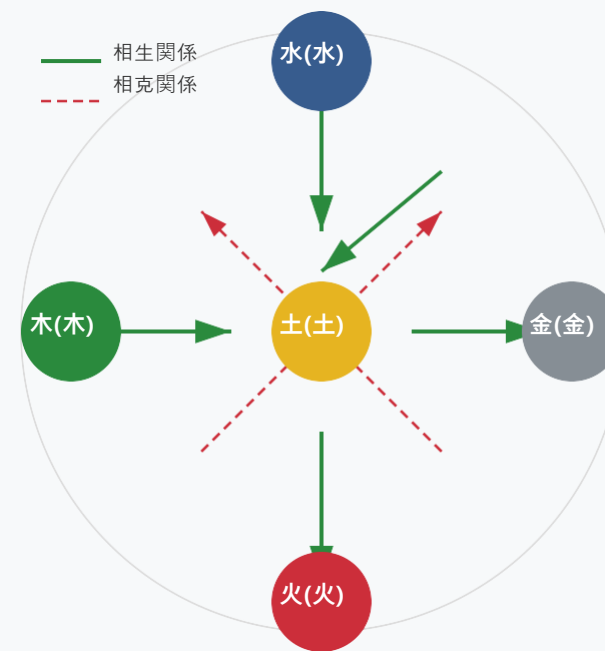
区分	東洋思想	西洋思想
アプローチ方法	全一的循環	還元主義的
思惟方法	物質の結合と循環の分析	最小粒子の追求(減算的方法)
発見体系	陰陽五行 周易 64卦	原子論 幾何学的証明
現代への接木	複雑系科学 自己組織化	不完全性定理 循環論理の受容
経済観	循環・共生経済	線形・成長経済

東西の循環理論の特徴と現代的接木



3. 陰陽五行の科学性

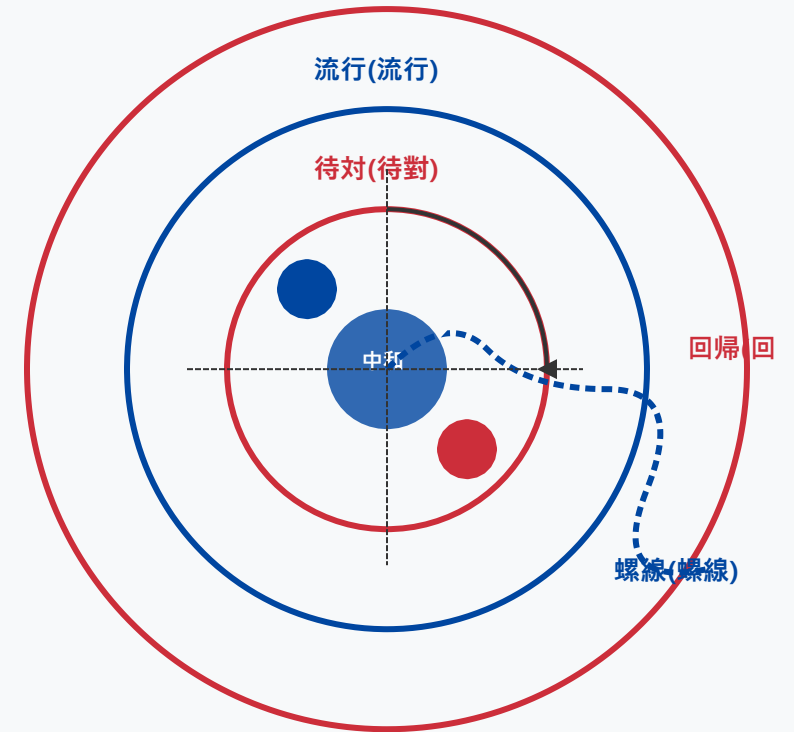
- 五行は相克相生の最小体系として証明される
- 相克—相生の関係が最低一度ずつ現れうる数のうち、奇数は5、偶数は8である
- 東洋の五行、八卦が循環論理の原型であることが数学的に証明される
- 現代の複雑系科学において、陰陽五行は還元主義科学が発見できない創発的な科学方法論として活用される
- 韓医学(『黄帝内経』)と中国の主要な発明品は陰陽五行に基づいている



五行(五行)の相生(相生)と相克(相剋)の関係図

4. 易の循環の5つの形式

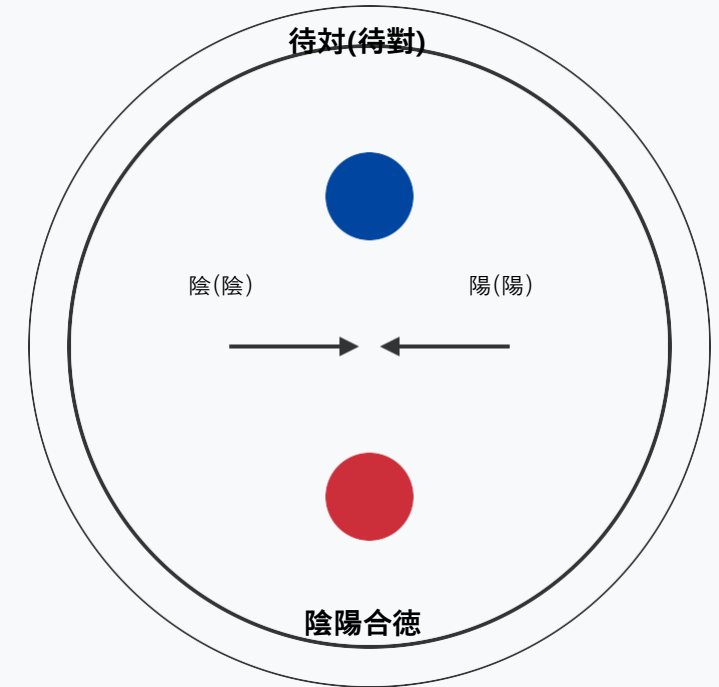
- 待対(待對) — 陰陽の対立と調和、差異を通じた完全な存在の形成
- 流行(流行) — 春・夏・秋・冬の循環、陰陽の力動的な動き
- 中和(中和) — 中心から周辺の陰陽を調和させる作用
- 回帰(回歸) — 循環を維持させるフィードバック(feedback)、還元作用
- 螺線(螺線) — 単純な円運動ではなく、成長する螺旋形の発展様相



易(易)の5つの循環形式と相互関係

5. 待対(待對) — 陰陽合徳

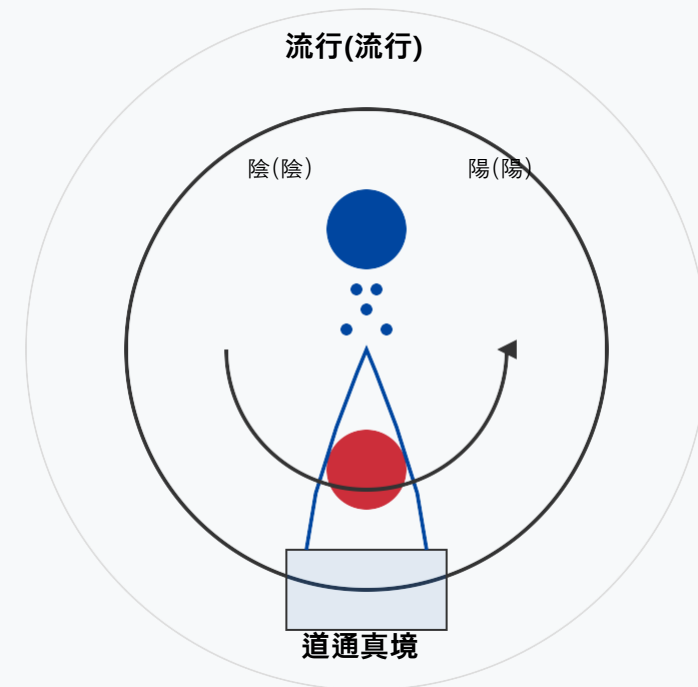
- 待対(待對)：互いに向き合って待つという意味
- 陰陽合徳(陰陽合徳)の意味
 - 「合(合)」：陰と陽が互いに適合する
 - 崩れた待対性を回復し、天地の恵沢を創造する
- 正陰正陽(正陰正陽)、陰陽相生(陰陽相生)、陰陽調化(陰陽調化)はいずれも陰陽の待対性を強調する
- 経済思想との関連では自由至上主義として現れる



待対性(待對性)と陰陽合徳の図式化

6. 流行(流行) — 道通真境

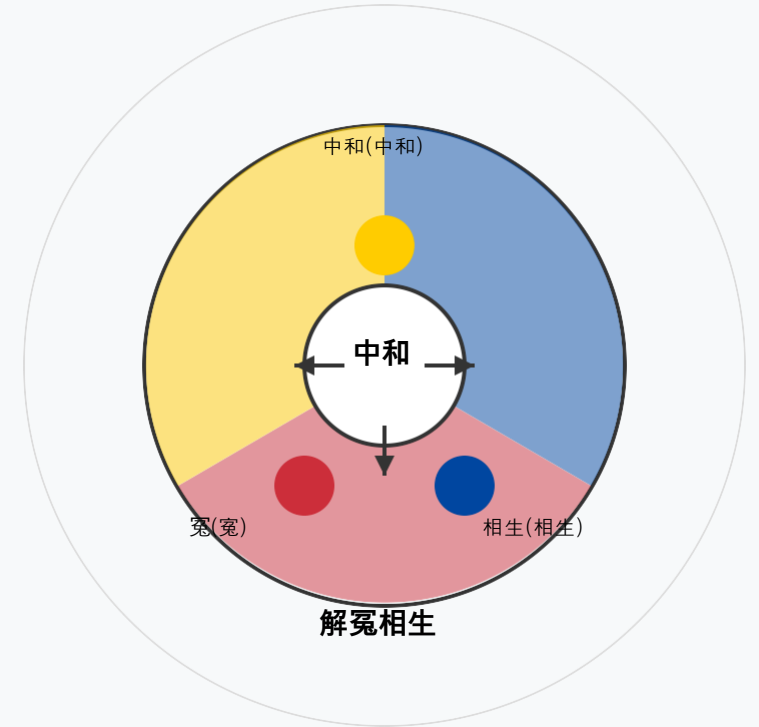
- 流行(流行)：待対(待對)が循環の停止形態であるならば、流行は循環の動(動)的な形態である
- 大巡思想において万物は輪廻あるいは流行し、年月日時はそれぞれ小さな輪廻が大きな輪廻の土台となる
- 中国の太極と噴水の原理で表現される流行性 — 陰が極に至ったとき陽が生じ、陽が極に達したとき陰が生じる
- 道通真境：陰陽の均衡が取れ、神人調化と解冤相生を経て永遠に循環しうる状態
- 経済思想では共同体主義として表現される — 陰陽が均衡を成して循環が実現する動き



流行(流行)と道通真境の循環原理の図式化

7. 中和(中和) — 解冤相生

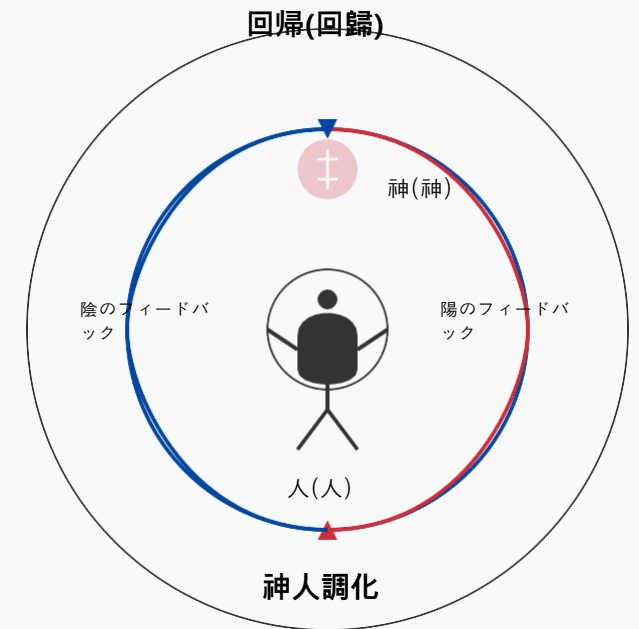
- 中和(中和)：中心から周辺の陰陽を調和させる作用
- 「中(中)」は真ん中、「和(和)」は真ん中から周囲と調和する
- 解冤相生(解冤相生)の意味
 - 解冤：陰陽の不均衡によって生じた冤(冤)を解きほぐす過程
 - 相生：後天世界の新たな支配原理、もはや怨望が生じない状態
- 人間は精神と肉体という陰陽をともに有する唯一の存在として、中和作用の主体である
- 経済思想としては功利主義として表現される — 陰陽が均衡を成して共同の利益を追求する



中和(中和)作用と解冤相生の原理

8. 回帰(回歸) — 神人調化

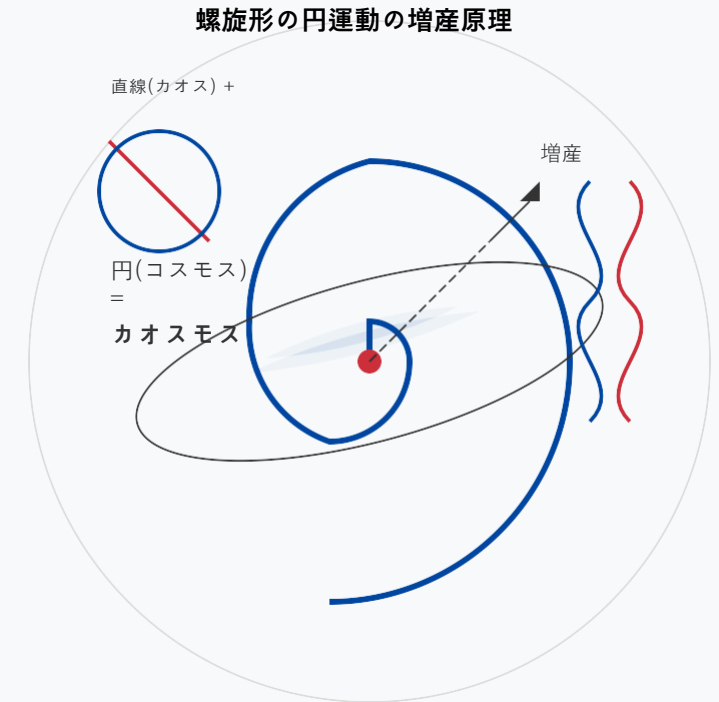
- 回帰(回歸)：循環の外部から循環を維持させるフィードバック(feedback)作用
- 大巡思想における恩恵と척(隻)の関係 — 恩恵を返さなかったり循環を妨げたりする運動は척(隻)となって自分に戻ってくる
- 神人調化(神人調化)：精神と肉体(陰陽)を同時に有する人間が神と調和し、自己組織化を成す
- 人間は神人調化を通じて神明と一体化した人尊として、成事在人(成事在人)の境地に至る
- 経済思想では社会契約主義として表現される — 陰陽が循環するように規律を守ろうとする動き



回帰(回歸)のフィードバック過程と神人調化(神人調化)の概念

9. 螺線(螺線) — 甌山の原理

- 自然界の循環運動は単純な円運動ではなく螺旋形(螺線)の円運動である
- 複雑系経済学：収穫逓減ではなく収穫逓増の法則を仮定する
- 螺旋運動は複雑系の超越作用を通じて限界逓増し、万物を増産(増産)する
- 銀河系、DNA、原子と電子など、自然界の直線運動は結局のところ螺旋運動である
- 大巡(大巡)は停滞した万物を循環させ、大きく回りながら成長させる原理である



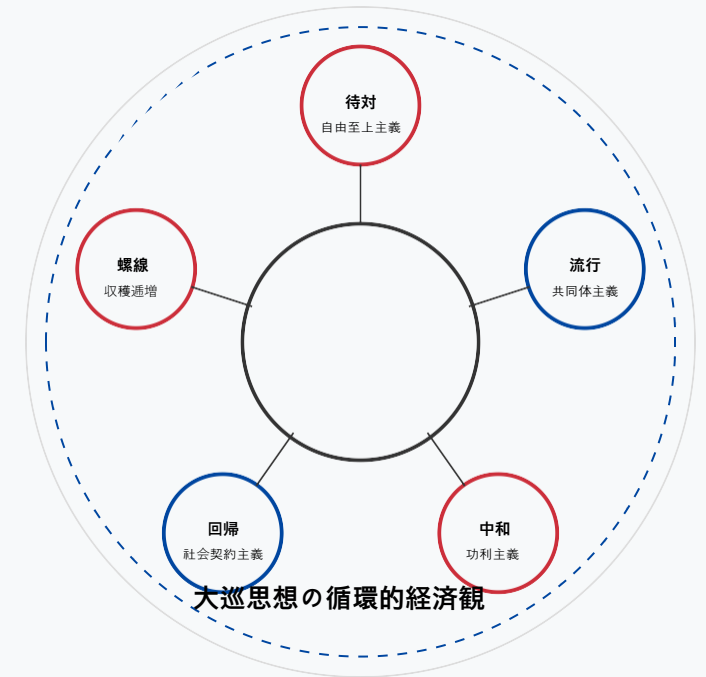
自然界の螺旋形運動と増産(増産)メカニズム

10. 結論および経済思想との関連性

- 大巡思想の循環的経済観は東洋の易(易)の循環思想に基づく
- 易(易)の循環の5つの形式的特性と経済思想との関連性

循環特性	大巡思想の原理	経済思想
待対(待對)	陰陽合徳	自由至上主義
流行(流行)	道通真境	共同体主義
中和(中和)	解冤相生	功利主義
回帰(回歸)	神人調化	社会契約主義
螺線(螺線)	増産(増産)	収穫逡増の原理

- 循環的経済観は複雑系経済学の収穫逡増の原理と接している
- 大巡思想の循環原理は現代の経済危機の代替的パラダイムを提示する



易(易)の循環の5つの特性と経済思想との関係



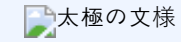
易(易)と大巡思想の円形的(圓形的)循環性

研究概要および目的

本発表では、易(易)思想と大巡思想の円形的循環性の原理を考察する。

- 東西の循環論の比較
- 陰陽五行の循環構造と現代的意義
- 大巡思想に現れる5つの循環特性の解釈

東洋循環論



易(易)思想

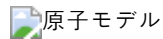
現代科学

大巡思想

東西の循環論の比較

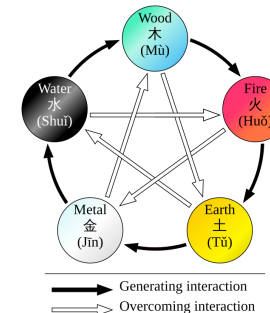
西洋：還元主義的アプローチ

- 分析的方法：万物を分割し減算して最小粒子を探究する
- パラドックスの発見：ラッセルのパラドックス、ゲーデルの不完全性定理
- 循環論理の排除：ユークリッド幾何学、アリストテレス論理学
- 現代的变化：循環論理と相関的思惟の再発見



東洋：全一主義的アプローチ

- 全体的観察：物質の結合と全体循環の展望
- 陰陽五行：加算的方法で万物の相互作用を説明する
- 元亨利貞：循環論的思考を通じた宇宙の理解
- 現代的意義：複雑系科学、創発性研究の先駆

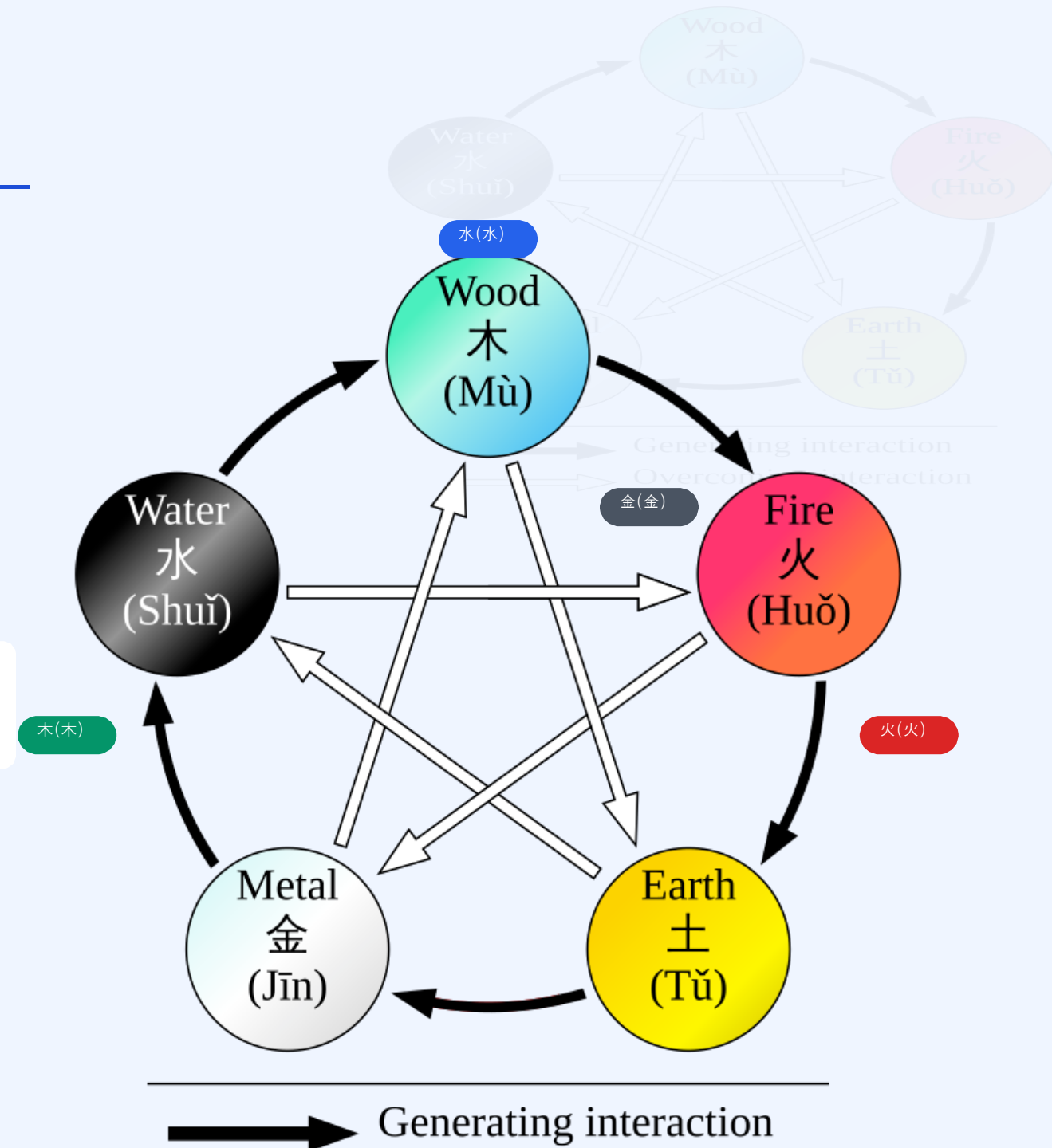


「西洋の不完全性の証明が発見され、数理論理学が発達すると、東洋の易(易)の伝統的な元亨利貞の循環論の科学性が明快に明らかになった。」

陰陽五行の科学的証明と循環モデル

- 陰陽五行の本質：万物を構成する5つの基本原理と相生 / 相克の関係
- 最小循環体系：相克—相生の関係が最低一度ずつ現れる最小の数である5(五行)と8(八卦)
- 科学的立証：複雑系科学、フラクタル理論を通じた検証
- 文明的応用：『黄帝内経』と韓医学、中国の科学的発明品の基盤原理

「五行は数理論理的にも相生と相克の最小体系として証明された。4と6は5とは異なり、相克—相生の均衡を成せない。」



易(易)の循環の5つの形式 3. 中和(中和)の特性

中心の統合と調和、均衡を成す原理



太極

1. 待対(待對)の文様

この5つの特性はそれぞれ太極思想の陰陽合徳、流通真境(道通真境)、解冤相生、神ノ

環

循環性

季節的・循環的運動、春

冬の流れ

上昇

4. 回帰(回歸)

ードバック、恩恵と忒(隻)の相互的な

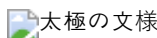
です

、増産(増産)、創造的

待対(待對)と陰陽合徳

待対(待對)の意味

- 互いに向き合って待つ：相克する差異ではなく差異の調和
- 陰陽の複雑系：水と火のように互いに異なる属性が待対する
- 天地泰卦の原理：陰陽の自然な調和と循環
- 視覚的表現：太極旗の太極とフラクタル文様で表現



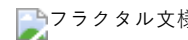
太極の文様

陰陽合徳(陰陽合徳)

- 「合(合)」の三つの意味：陰と陽が互いに適合する

陰と陽が徳を互いに統合する。陰陽が出会って徳を作ることを学ぶ

- 儒教の「合其徳」との比較：後天開闢の意志を反映
- 陰陽の自由：均衡を成すまでの動き



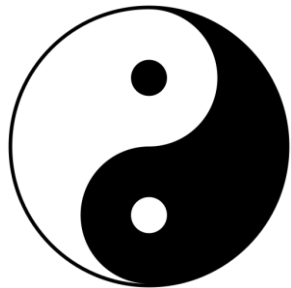
フラクタル文様

「陰陽合徳には、崩れた待対性を回復し、天地のように大きな事象を創造しようとするという意味が込められている。陰陽の

流行(流行)と道通真境

流行(流行)：循環の動的側面

- 定義：待対(待對)の動的形態、万物の運動性
- 季節的循環：春・夏・秋・冬の反復的变化
- 中国の太極の特性：陰の中の陽、陽の中の陰として流行性を表現
- 噴水の原理：少陰(冬) → 少陽(春) → 陽(夏) → 太陰(秋)の循環



道通真境：循環の完成

- 神道(神道)の概念：天地人の三界のプラットフォーム(platform)
- 陰陽の均衡：陰陽が均衡を成して永遠に循環する状態
- オペレーティングシステムの変化：人間を含む新たなプラットフォームへの転換
- 経済思想：共同体主義として発現する流行の均衡の実現



「道通真境とは、陰陽の均衡が取れて永遠に循環しうる状態、すなわち永久機関のような理想的循環の境地を意味する。」

大巡思想の循環原理と現代的意義



中和(中和)と解冤相生

- ◆ 中心から周辺の統合と調和
- ◆ の役割。フラクタル・カオスの3の原理の適用。怨(怨)
- ◆ の解消と相生への転換。後天開闢の実現原理として作用



回帰(回歸)と神人調化

- ◆ 循環維持のためのフィー
- ◆ ドバック機能。恩恵と척(隻)の相互作用の原理
- ◆ 神明と人間の調和的協力 成事在人 (成事在人) の実現経路



螺線(螺線)と増産の原理

- ◆ 循環の創造的上昇と増産 (増産) 限界遞増の複雑系経済
- ◆ 原理の適用 大巡 (大巡) の力動的成長循環 差異と統合の螺旋型発展構造

現代的意義と示唆点

大巡思想の原型的循環性は、単純な円環的反復ではなく創造的循環構造として、現代複雑系科学と深い関連性を持つ。陰陽合徳、道通真境、解冤相生、神人調化は、陰陽の不均衡を回復する後天開闢の実践原理として作用する。

経済的観点においても、自由至上主義、共同体主義、功利主義、社会契約主義的要素を包括する統合的観点を提示し、持続可能な発展と相生のパラダイムのための哲学的基盤を提供する。



待対的自由至上主義の財富観と 陰陽合徳

大巡思想の循環的経済観と待対的自由至上主義の財富観
、そして陰陽合徳の原理と現代的意義を考察す
る

発表概要

- 1 大巡思想の循環的経済観
- 2 自由至上主義の財富観の理論構造
- 3 市場均衡論と経済倫理
- 4 既存の自由至上主義の限界
- 5 陰陽合徳による代案
- 6 典経の事例分析
- 7 結論および示唆点

大巡思想の循環的経済観

大巡思想は、万物の相互作用と循環、陰陽合徳の原理を通じて、経済と倫理の調和的發展を追求する。

大巡思想の循環的経済観は、経済学と倫理学の関係においてよく表れており、個人主義と全体主義、理論と実践の相互補完的循環を強調する。

兜率虚無寂滅以詔（兜率虚無寂滅以詔）といって、自由至上主義、社会契約主義、功利主義、共同体主義の淵源といえる儒教、仏教、道教を、春・夏・秋・冬のようにすべて統率し循環させることができこそ、個人と社会が發展できるとする。

表3.9 待対的自由至上主義の財富觀の循環構造

経済学と経済倫理は相互に待対的な関係にあり、循環的構造をなす。

方法 \ 価値	個人主義		全体主義	
	善（善）-制度内の秩序	正（正）-制度の基礎構造	効率	徳
経済学（理論）	⑥市場均衡論（理論経済学）			③制度進化論（歴史学派経済学）
経済倫理（実践）		①自由至上主義（自由）	④功利主義（効率）	⑤共同体主義（徳）
		②社会契約主義（正義）		

循環的關係：自由至上主義（①）→ 社会契約主義（②）→ 制度進化論（③）→ 功利主義（④）→ 共同体主義（⑤）→ 市場均衡論（⑥）



個人と社会が陰陽合徳の関係をなすとき、自由至上主義の理想である市場均衡に到達することができる。

既存の自由至上主義の問題と限界

自由至上主義は本来、制度の基礎構造を改革しようとする趣旨から始まったが、次のような根本的限界を示している：

- 1 過度な自由の尊重による経済のギャンブル / カジノ資本主義化
- 2 制度の基礎構造を変える自由の実現の限界
- 3 理論経済学の市場均衡論の限界のなかで、体制内の自由のみを模索

「自由至上主義の要点は、自身の自由をどれだけ拡大できるかという問題に帰結するとき、過度な自由尊重による経済のギャンブル / カジノ資本主義化が問題である」

陰陽合徳による解決方策

陰陽合徳の待対性に基づく自由至上主義は、過度な自由尊重によるギャンブル資本主義の限界を克服する：

- ① 個人の自由と社会的責任の調和 — 陰（個人）と陽（社会）の合徳を通じて自由と責任が均衡をなす
- ② 健全な自由の持続的循環 — 万物が循環する体系のなかで自由の本質的拡大を追求する
- ③ 多方向的な自由の拡張 — 社会契約主義、功利主義、共同体主義へと自由の領域を健全に拡大

「大巡の循環的経済観においては、自由至上主義の財富観に対する代案として、陰陽合徳に基づく待対的自由至上主義の財富観を提示し、自由至上主義本来の制度改革の趣旨を活かしつつ健全な自由拡大を実現する。」

待対的自由至上主義は、陰陽合徳の原理を通じて、個人の自由と社会の公共性が循環的に互いを強化する関係へと発展する。

『典經』（『典經』）の事例分析



陰陽合徳による自由回復の実際的事例

経済倫理	自由の必要性	陰陽合徳による自由の回復	自由回復に関する『典經』の一節
自由至上主義	賭博資本主義	偶然性を法則で代替	ユンノリの賭博も一心であれば成る（権之1章18節）
社会契約主義	倫理的虚無主義	死後にでも陰陽合徳が成ることを確認	死して善くなり朝鮮の冥府となる（教法1章2節）
功利主義	勝者総取りによる自信の喪失	一心であれば成功	成らぬだろうという思いを抱くな（教法2章5節）
共同体主義	力ある仲間の裏切りに対する無力感	弱者の力の結集	男将軍のみあらんや。女将軍もあるなり（権之1章17節）
ギャンブル資本主義の克服 賭博にも陰陽合徳の理があることを悟らせ、賭博への未練を捨て、真の内面の自由を拡大する		倫理的虚無主義の克服 世に対する義務を尽くし裏切られた場合にも、死してまで自由が拡大される陰陽合徳の方法を提示	競争激化の克服 勝者総取り社会においても一心であれば必ず経済的成功が可能であることを強調し、自由への意志を高揚
			共同体の回復 力なき個人であっても陰陽合徳の原理で心を合わせれば、不利な契約を克服し自由を回復することができる

結論：大巡思想の事例は、経済動機の再生と自由の回復が陰陽合徳の待対的關係を通じて成就されることを示している。

結論および意義

待対的自由至上主義の財富観は、大巡思想の陰陽合徳の原理を基盤に、経済学と倫理学の循環的關係を提示する。

陰陽合徳による個人と社会の調和は循環的経済観の核心であり、既存の自由至上主義の限界を克服する代案となる。

主要な意義

- 健全な自由拡大方策の提示 ギャ
- ンブル資本主義克服のための理
- 論的基盤 経済倫理の循環的实践
- 可能性の提示 伝統思想と現代経済理論の融合的接近

待対的自由至上主義の財富観は、個人の自由と社会的責任が陰陽合徳する新たな経済パラダイムを提示することで、現代社会の経済的問題に対する代案的解決策となりうる。

学術発表

回帰的社会契約主義の分配観と神人 調化（神人調化）

作成日：2025. 06. 22

目次

1 序

2 社会契約主義の限界

3 神

4 循環的（回帰的）分配構造

5 『

6 理念間の相互作用

7 『

8 結論および示唆点

問題意識：社会契約主義の限界

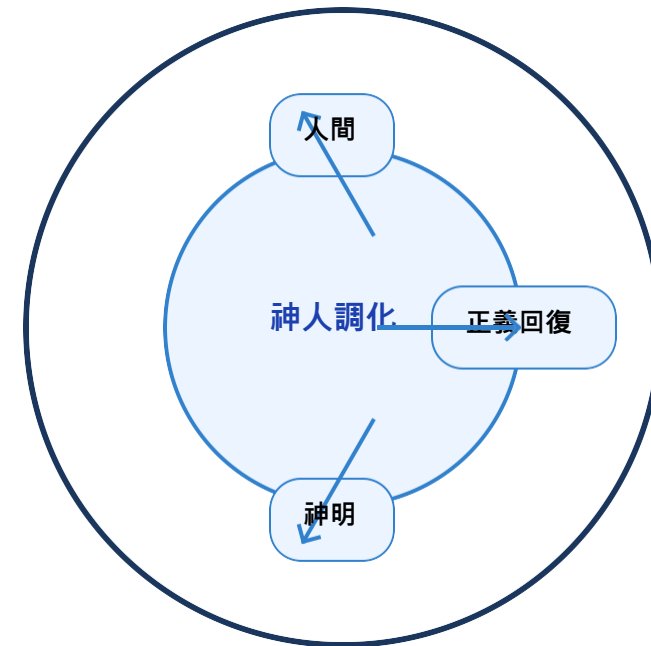
既存の社会契約主義の分配観は、義務主義と敗北主義に偏り、社会正義実現の限界に直面している。

- **努力に対する報償の問題**
社会契約主義の要点は、努力に対する応分の対価を報償されうるかという問題に帰結する。
- **倫理的無気力の発生**
過度な義務尊重による倫理の敗北主義化は、実質的な正義の実現を困難にする。
- **社会的連帯の弱化**
個人の権利中心の構造は、共同体内の連帯感と相互責任意識を弱化させる。

理論的背景：神人調化（神人調化）

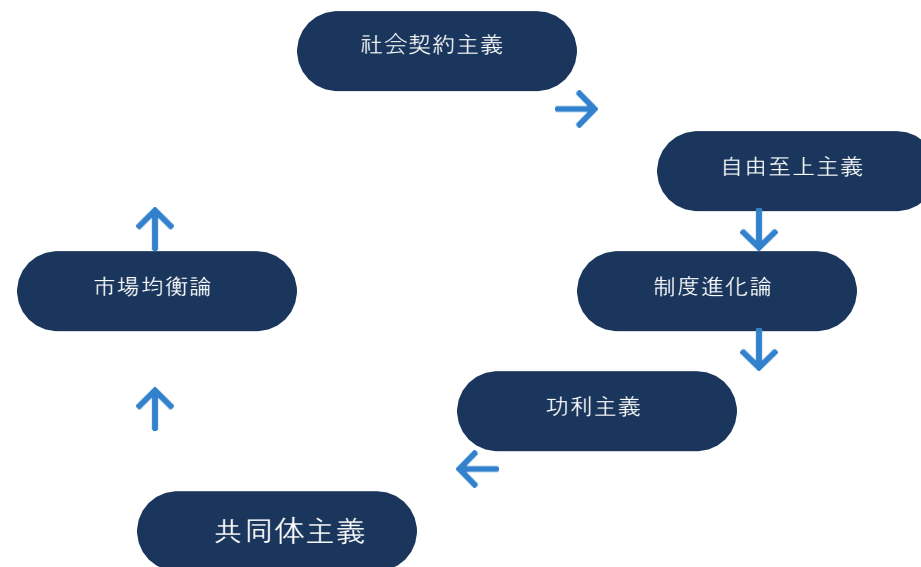
神人調化（神人調化）とは、人間と神明が回帰的に作用しつつ調和をなす循環的構造を意味する。

- **超越的制裁と調和**
神明（神力）は、契約違反、正義毀損などに対する超越的制裁機能を遂行する。
- **正義実現の基礎**
人間社会の正義実現のための新たな規範的基礎を提供する。
- **循環的フィードバック体系**
人間の行為—後果—神の介入—調和回復という循環的フィードバック体系を形成する。



循環的（回帰的）社会契約主義の構造

回帰的社会契約主義においては、多様な理念と思潮が循環的に統合され、分配正義実現の均衡点を見出す。



- 相互補完的循環構造

各理念は独立的限界を克服しつつ互いにフィードバックを与え合い、分配正義を拡張的に発展させる。

- 神人調化の作用

神明（神明）が媒介となり、理念間の均衡と調和をなす過程において正義が回復される。

『典経』の実際の事例

『典経』では、神人調化の原理が実生活においてどのように作動するかを、多様な事例を通じて示している。

● 契約不履行と神明の制裁

「約束を破れば神明に罰を受けるなり…」— 教法1章29節

社会的約束と契約違反の際、超越的存在によるフィードバック機構が作動

● 正義の確立と共同体の結束

「冤なく治められ、人々が互いに和合するようになった」— 権之1章11節

不義に対する積極的対応と社会正義の回復を通じた共同体の強化

● 倫理的実践の回復

「三綱五倫と中庸の誠敬信、大学の毋自欺…」

敗北主義の克服と積極的倫理実践を通じた神人調化的分配正義の具現

理念間の相互作用と限界の克服

自由至上主義、功利主義、共同体主義などの三理念の分散的限界を、回帰的・循環的社会契約構造へと統合し克服する。

各理念別の分配問題と神人調化的対応		
理念	核心的問題点	神人調化的対応
自由至上主義	個人的所有権の絶対視、不均衡な分配	経済的不義に対する神明の制裁、再分配の促進
社会契約主義	敗北主義的倫理観、契約不履行の放置	神明の介入を通じた正義の具現、実質的分配の促進
功利主義	最大幸福原則の曖昧さ、効用測定の難題	神人調化的フィードバックを通じた共同体効用の増進
共同体主義	共同善解釈の主観性、内部葛藤	超越的価値に基づく共同体結束力の強化

● 循環的構造の特徴

各理念の弱点が他の理念の強点で補完され、神人調化が正義実現のためのフィードバック機構として作用する。

● 実質的社会正義の具現可能性

結論および示唆点

倫理道德の実践と神人調化の循環構造が、社会正義および分配正義回復の核心であることを確認した。

- 大巡思想の実践的価値

「大巡の信条と目的は、三綱五倫と中庸の誠敬信、大学の母自欺にある。」

- 倫理実践の回復

正義と常道（常道）を重視する神明中心の倫理的フィードバック構造の確立

- 現代分配哲学への示唆

既存の理念の限界を回帰的・循環的に克服する分配正義パラダイムの提示

- 制度改善の方向

倫理的責任と相互連帯を強化する社会制度の基礎構造改革が必要

「神人調化を通じた回帰的経済観の確立は、社会正義回復の新たなパラダイムとなりうる」

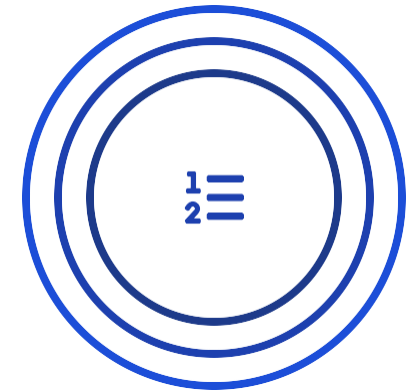
中和的（中和的）功利主義の労働観と解冤相生

本発表は、既存の功利主義の限界を克服する中和的功利主義の労働観と解冤相生の概念を中心に、労働、経済倫理、社会理念の調和と循環を探究する。



目次

- 1 問題提起と研究背景
- 2 中和的功利主義の労働観の概念
- 3 解冤相生の定義と役割
- 4 道德哲学と社会理念の循環的構造
- 5 解冤相生の事例および適用
- 要約および示唆点



問題提起と研究背景



既存の功利主義の限界

多数の効率性のみを強調し、少数者の権益保護が不十分で、社会的不均衡を招来



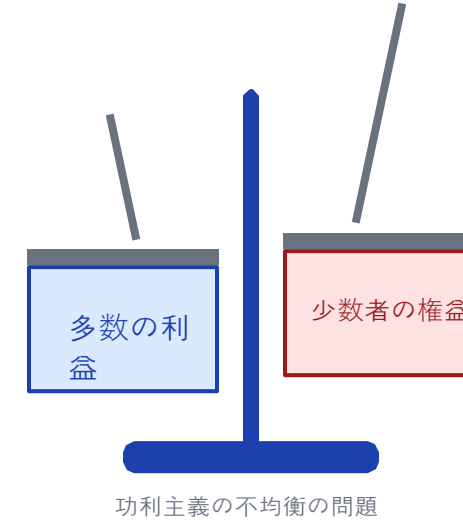
社会葛藤・労働倫理の問題の深化

最大効率追求の過程で弱者が疎外され、共同体価値が弱体化し、倫理的問題が発生



新たな労働倫理の必要性

共同体的調和と効率性を共に追求する中和的（中和的）代案の模索が必要



中和的功利主義の労働観



効率性と調和の結合

功利主義の効率性追求の原則と共同体主義的調和を統合し、発展的代案を提示



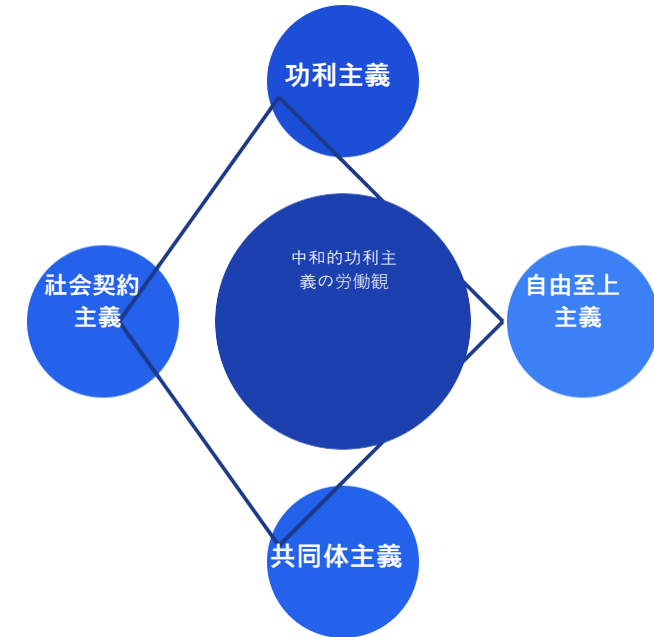
均衡的権益保護

制度内の効率性を維持しつつ、少数者の権益保護を強調する中和的観点を具現



理念の循環的統合

功利主義、共同体主義、自由至上主義、社会契約主義が相互作用する循環的・統合的観点



社会理念間の循環的統合構造

解冤相生の定義と適用



解冤相生の意味

二つ以上の欲求が互いに中和的に作用しつつ相生となる調和の原理



社会問題の解決策

冤、疎外、葛藤などを解消し、少数者と多数の利益を同時に追求する包容的解法



適用事例

労働倫理回復を通じた共同体の復興、弱者・少数者の権利保障、冤（冤）の解消

例：労働倫理違反（賭博罪など）に対する中和的対応、社会的弱者の怨恨の解消



核心的示唆点および結論



中和的労働観の社会的寄与

解冤相生の原理を通じて功利主義の本質を継承しつつ、少数者の權益を保護し、社会的葛藤の解消および道德的価値の回復に寄与する。



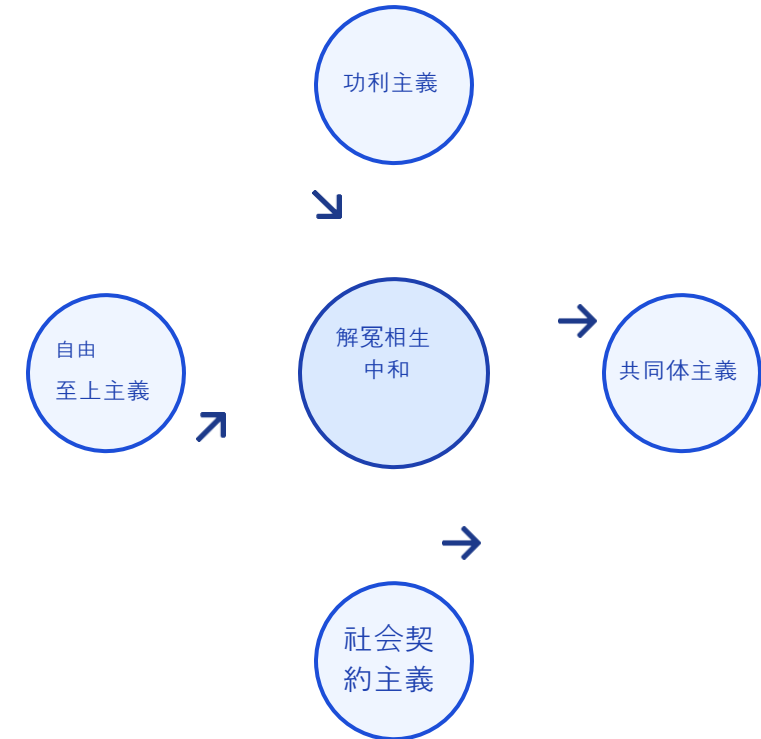
社会理念間の調和と統合

功利主義、共同体主義、自由至上主義、社会契約主義など多様な理念間の循環的關係を通じて、社会的調和と均衡を達成する。



健全な共同体および労働倫理の確立

効率性と共同体価値の均衡を通じて、持続可能な社会発展と労働尊重の倫理を具現する。



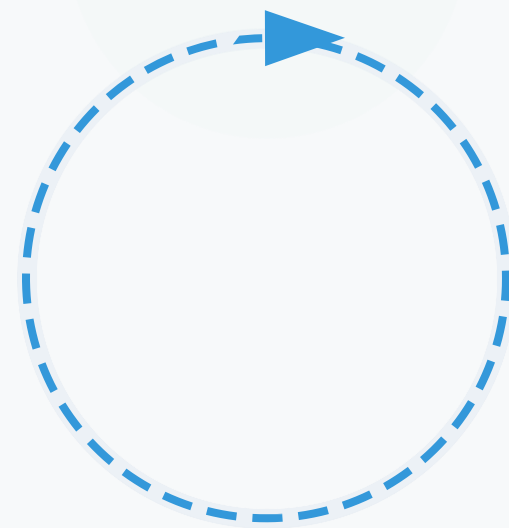
流行的（流行的）共同体主義の 財貨観と道通真境

大巡思想の道通真境の概念を基盤とした
流行的共同体主義の財貨観に関する学術的プレゼンテーション



循環的思想と共同体価値の調和

功利主義 ・ 自由至上主義 ・ 社会契約主義
・ 共同体主義

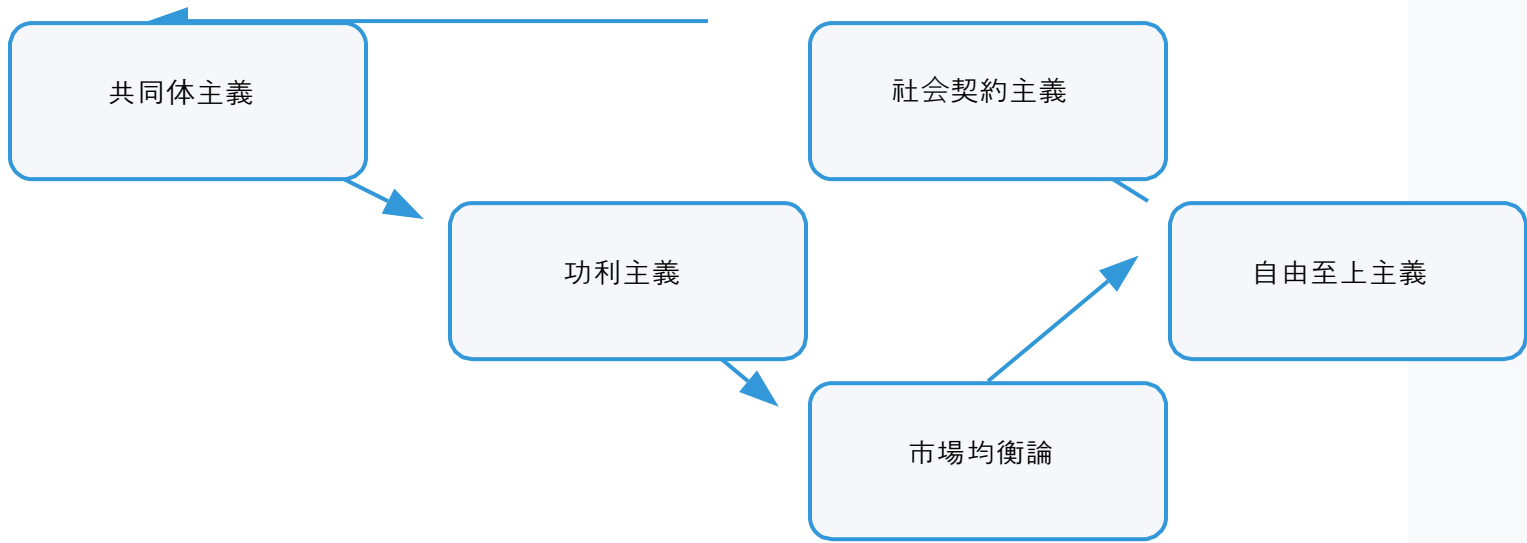


目次

- 1 序論
- 2 共同体主義の理論的構造
- 3 流行的（循環的）共同体主義とは？
- 4 既存の共同体主義の財貨観の限界
- 5 「道通真境」の概念と特徴
- 6 道通真境的な流行的共同体主義の実際
- 7 主要論点の整理および表
- 8 結論および示唆点

共同体主義の理論的構造

循環的構造と理念的流れ



① 道德哲学の位相において共同体主義を基準に見ると、流行的共同体主義は①⑤④②の順に循環する。

共同体主義

共同善（共同善）を重視し、個人は共同体内でアイデンティティを形成し相互作用する

功利主義

最大多数の最大幸福を志向し、結果的効用を重視する

市：
自
効
用

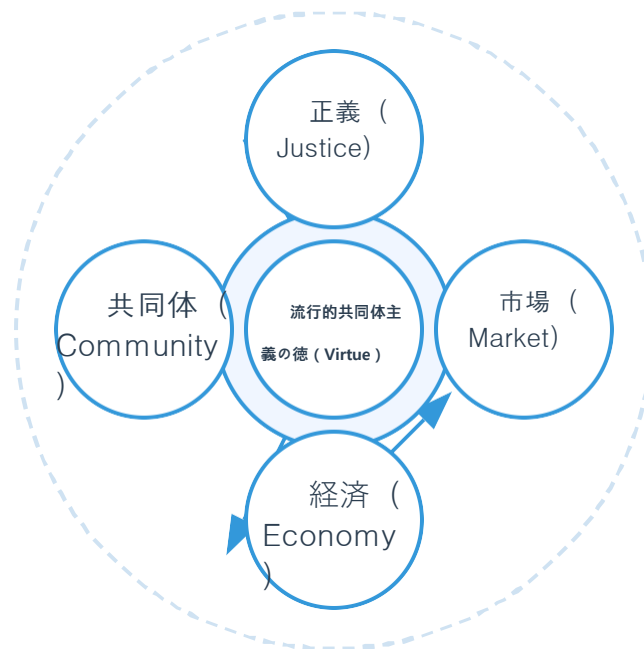
自由至上主義

社会契約主義

流：
一

流行的（循環的）共同体主義とは？

価値の循環と相互補完的構造



循環的構造

各価値が孤立したり対立したりせず、互いに影響を与え合い相互作用する構造。流行（流行）の原理で価値が循環しつつ発展する



相互補完性

多様な価値（経済、正義、市場、徳性）が互いの弱点を補完し強点を極大化する方式で共存。理念的対立を超えた融合的思考を志向



融通性と多様性

現実の状況と文脈に応じて柔軟に変化し適用される実用的特性。単一の価値よりも多様な価値の調和と均衡を重視する

既存の共同体主義の財貨観の限界

共同体主義が直面する実際的问题点と挑戦課題

ただ乗り（裏切り者）問題

共同体の恩恵は享受しつつ義務は回避する少数の裏切り者が、共同体全体の信頼を毀損し、構成員の協力意志を阻害する

多数の被害意識の深化

少数の裏切りによる多数の被害が累積し、共同体内の葛藤と不信が深化し、これが共同体価値観の根本的危機へとつながる

「共同体主義の要点は、少数の裏切りに対する多数の利益をどれだけ報償しうるかという問題に帰結するとき、共同体主義においては、過度なただ乗り者の裏切りによる多数者の被害意識が問題であった...」

制度内効率性の低下

共同体の価値を過度に強調する過程で個人の創造性と効率性が阻害され、これが全体制度の競争力と持続可能性の弱化へとつながる

現実性の不足

理想的な共同体価値は、実際の経済環境と衝突する際に現実性が落ち、特に多様な価値観が共存する多元主義社会において適用の限界が明白である

共同体主義の財貨観の循環的限界



必要な代案：ただ乗り問題を解決し、制度内の効率性と現実性を高めつつも共同体の卓越性を保存しうる新たなパラダイムが求められる → 道通真境に基づく流行的共同体主義の財貨観

「道通真境」の概念と特徴

体系的相互作用と循環を通じた共同体発展の原理

道通真境の定義

道通真境とは、二つ以上の体系が互いに流行的に作用しつつ循環となる概念を意味する。自然と人間、神明と人間、精神と物質の間の相互作用的循環を通じて、共同体の秩序と発展を図る。

体系的相互作用

道通真境は、共同体内の多様な主体間の活発な相互作用を通じて疎通し、変化し、発展する過程を重視する。これは単純な一方向的秩序ではなく、相互有機的連携を基盤とする。

「天地に神明が満ちているゆえ、たとえ草の葉一枚であっても神が去れば枯れ、土を塗った壁であっても神が移り去れば崩れるなり。」

『典経』教法3章2節

共同体の秩序と発展の調和

道通真境においては、共同体の安定的秩序と持続的発展が互いに対立するのではなく、流行的に相互作用しつつ循環的關係をなす。これを通じて共同体主義の限界を克服し、実質的な共同善を具現する。

「西教は神明の薄待が甚だしいゆえ、あえて成功しえぬであろう。」

『典経』教法1章66節

陰徳（陰徳）と共同体の卓越性

道通真境においては、目に見えない「陰徳」が共同体の実質的卓越性を持続させる核心と見る。目に見えない神明との関係を通じて、人間と自然の共同体関係を回復し維持する。

「上帝は常に飯粒一つでも地に落ちればそれを拾われ、『やがて飯を求める声が九天に届くときが来るのに、どうしておろそかに扱えようか。一粒の穀物であっても天が知るなり』と仰せられた。」

『典経』教法1章13節

道通真境的な流行的共同体主義の実際

各理念別の共同体の危機と道通真境を通じた克服方策

理念	共同体の危機	道通真境を通じた共同体の回復	『典経』の関連の一節
自由至上主義	危機不感症	自由主義者も環境危機に対応する共同体を模索	「天下の蒼生が尽き滅びる境地に迫っているにもかかわらず、少しも悟らず、ただ財利にのみ目が眩んでいるゆえ...」(教法1章1節)
社会契約主義	現実的な環境危機	自然と人間の契約回復を通じた自然-人間共同体の回復	「やがて飯を求める声が九天に届くときが来るのに、どうしておろそかに扱えようか。」(教法1章13節)
功利主義	弱肉強食による均衡の破壊	神明と人間の共同利益を模索するための共同体の回復	「西洋人マテオ・リッチ(利瑪竇)が東洋に来て地上天国を建てようとしたが...」(教運1章9節)
共同体主義	無神論の副作用	陰徳を持つ存在との共同体の回復	「天地に神明が満ちているゆえ、たとえ草の葉一枚であっても神が去れば枯れ...」(教法3章2節)

i 道通真境の流行的原理は、各理念が持つ共同体の危機を相互補完的に克服させる。自然と人間、神明と人間の間の循環的關係を回復することで、既存の共同体主義の限界を超え、真の共同体の卓越性を保存する。

結論および示唆点

流行的共同体主義の財貨観が現代社会に与える含意

流行的財貨観の核心的示唆点



循環的相互補完性

共同体主義、功利主義、自由至上主義、社会契約主義などの理念が相互作用して補完されるとき、現代社会の財貨観が調和的に発展



効率性と現実性の結合

道通真境の接近は、共同体主義の理想と制度内効率性を実質的に結合する卓越した方法論を提示



ただ乗り問題の解決

流行的循環原理を通じて、共同体内の少数の裏切り者問題と多数の被害意識を建設的に解消

現代社会への適用時の考慮事項



自然—人間共同体の復元

環境危機に対応する人間と自然の間の新たな契約モデルとして、流行的共同体主義の活用が可能



伝統と現代の調和

東洋の伝統思想（神明、陰徳）と西欧の共同体主義の概念を有機的に結合した統合的接近が必要



制度的融通性

互いに異なる観点が排他的ではなく相補的に作用する柔軟な制度設計が重要

最終結論

道通真境に基づく流行的共同体主義の財貨観は、現代社会の経済・環境・共同体の危機を克服するための重要な哲学的土台を提供する。自然と人間、個人と共同体、理想と現実、精神と物質が相互に流行しつつ調和的に循環する観点は、既存の理念の限界を補完し、持続可能な共同体の卓越性を回復することに寄与しうる。

大巡思想の循環的経済観の価値

学術発表用スライド

大巡思想の循環的経済観を通じて現代の経済問題の解決方を模索する

陰陽合徳

Yin-Yang
Harmony

神人調化

God-Human
Harmony

解冤相生

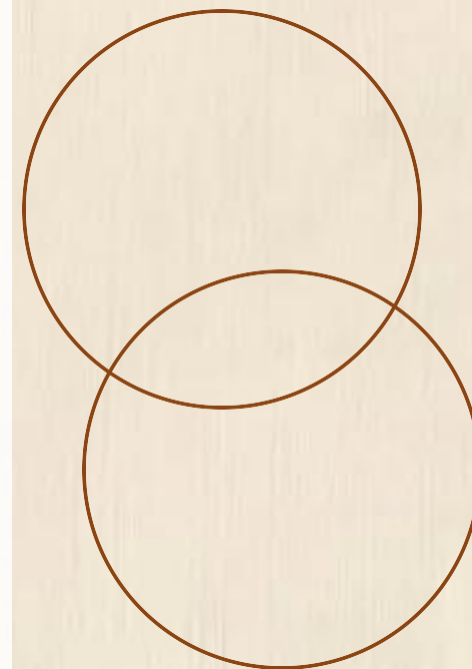
Mutual
Beneficence

道通真境

Unification with
Dao

目次

- 1 大巡思想の概念的理解
- 2 循環的経済観と現代の経済問題
- 3 陰陽合徳と経済動機の回復
- 4 神人調化と経済倫理の再生
- 5 解冤相生と経済理念の調和
- 6 道通真境と環境危機の克服
- 7 総合分析および示唆点
- 8 質疑応答



大巡思想の概念的理解

大巡思想は、甌山 姜一淳 聖師が提示した天地公事（天地公事）の真理を基盤に形成された思想体系であり、人間と社会、自然の調和的關係を追求し、後天開闢（後天開闢）を通じた地上天国の建設を目標とする。

陰陽合徳

陰と陽の調和的合一を通じた相生と調和を追求し、物質と精神、現実と理想の均衡をなす原理

神人調化

神（神）と人間の調和的關係を通じて、人間の神聖化と宇宙の秩序回復を追求する原理

解冤相生

すべての怨恨を解き、相生の道を通じて人間と万物が共に繁栄する理想社会を具現する原理

道通真境

人間が道（道）と一つになることで真の福祿を享受し、天地自然と調和をなす理想世界具現の原理

この四つの原理は互いに連結され循環体系をなし、大巡思想の循環的經濟觀を通じて、現代社会の經濟的問題に対する解決策を提示する。

循環的経済観と現代の経済問題

現代の資本主義と社会契約主義は人類に物質的豊かさをもたらしたが、循環的観点の不在により様々な限界に直面した。大巡思想の循環的経済観は、これらの問題に対する解決策を提示する。

経済動機の喪失

自由至上主義が招来した物質欲望の肥大化と精神的動機の弱化

陰陽合徳で回復

経済倫理の失踪

社会契約主義の限界による倫理的虚無主義と相対主義の蔓延

神人調化で再生

経済理念の不和

功利主義が招来した貧富格差、理念対立、成長停滞の問題

解冤相生で調和

環境危機

共同体主義の限界による自然と人間の断絶、生態系の持続不可能性

道通真境で克服

大巡思想の循環的経済観は、相生（相生）の原理を通じて現代の経済問題に接近する。単純な物質的交換ではなく、精神的・倫理的・生態的価値の循環を強調し、経済的問題を総体的観点から解決する。

陰陽合徳と経済動機の回復

陰陽合徳に基づく待対的自由至上主義の財富観

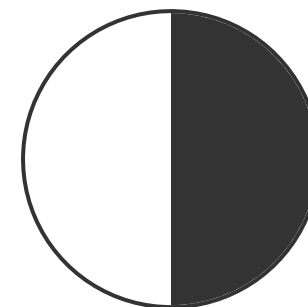
大巡の待対的自由至上主義は、市場の自由のみに偏った現代資本主義の経済動機喪失の問題を、循環の原理で解決しようとする。これは自由を拡大しつつ、水と火の位置を入れ替える陰陽合徳の原理を適用して、循環する経済システムを構築することである。

経済動機回復の主要原理

- 循環の力で対応：相克的自由至上主義が招来した精神的傷とギャンブル資本主義を、循環の原理で回復させる
- 物質より倫理を優先：「物有本末、事有終始...」根本である倫理道德を先に厚くし、財物は後に薄くすべきである
- 順序の変換：「他人が与えてから返す」から「他人が与える前に先に与える」へと、順序一つだけを変えて実践

「我らの事業は、他人を善くさせる修養なり。他人が善くなり、残ったものだけを占めても成るなり...」

— 『典経 教訓1章2節』



待対的自由至上主義

倫理と物質の調和

本（本）
倫理・道德

末（末）
財物・利益

経済動機回復の構造

他人を善くさせる

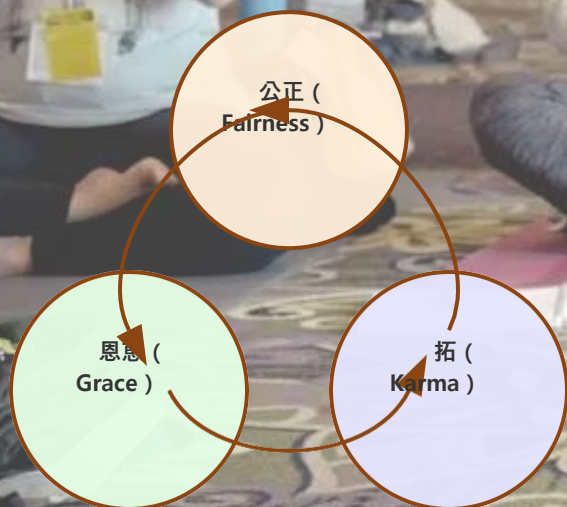


循環の原理



神人調化と経済倫理の再生

神人調化に基づく回帰的社会契約主義の分配観は、西洋の社会契約主義が招来した経済倫理の失踪の問題を、循環の原理を通じて回復させる代案的経済観である。



社会契約主義の倫理失踪の克服

社会契約主義は正義の実現を追求したが、循環性の不足によりかえって倫理的虚無主義を招来した。神人調化は循環の力で経済倫理を再生させる。

複雑系的分配観

大巡思想の回帰的分配観は、単純な入出構造ではなく、公正・恩恵・拓が相互循環する複雑系的ネットワークを形成する。「彼らは知らずとも彼らの神明は知る」という原理が作動する。

先に贈与する経済倫理

回帰的社会契約主義は「先に与えて受ける」循環的経済倫理を実践する。贈与したものは必ず別の形で返ってくるという信念を基盤に、能動的倫理実践を可能にする。

解冤相生と経済理念の調和

解冤相生に基づく中和的功利主義の労働観

解冤相生（解冤相生）は、すべての怨恨を解き、互いに相生することで均衡と調和をなす大巡思想の核心原理である。

功利主義の理念不和の循環的調和

資本主義と共産主義の対立を和合させ、階層間の葛藤を解消する循環的観点を提示する。

弱者への配慮と皆の相生の志向

競争のみではなく協同と配慮を通して、すべての経済主体が共に繁栄する理念的統合を追求する。

社会的調和と公益の実現

個人の利益と社会全体の利益が循環的に調和をなす経済パラダイムを提示する。



「他人に拓を作らず、相生の道へと導け」
『典経』解冤相生篇

道通真境と環境危機の克服

道通真境（道通真境）は、道（道）と一つになることで真の境地に至ることを意味する。大巡思想はこれを通じて自然と人間の循環的関係を回復し、現代社会の環境危機を克服する共同体主義的方策を提示する。

道通真境の環境的意味

-  自然と人間の循環的相生構造を通じた環境危機への対応 資源の共同管理
-  と循環を通じた生態系の持続可能性の確保 人間と自然の調和的関係の回復
-  復を通じた環境問題の解決

「天地と合一して調和をなす道通真境の理想は、現代の環境危機解決の核心原理となる」

現代社会への適用と示唆点

-  地域共同体中心の資源管理および循環経済システムの構築 自然の価値を尊重
-  重し回復する経済システムへの転換 共同体主義的協力を通じた環境問題の解決
-  解決方策の模索
-  経済発展と環境保存の均衡を追求する持続可能な発展

大巡思想の道通真境は、人間と自然が一つになる循環的調和を通じて、現代社会の環境危機を克服し、持続可能な未来を切り開くことのできる知恵を提供する。

陰陽合徳と経済動機の回復

大巡思想の経済観と現代的解釈

待対的自由至上主義の財富観による経済動
機回復の可能性の探究

発表者：洪吉

童

2023年11月15日

目次

- 1 大巡思想と経済観
- 2 自由至上主義の財富観の限界
- 3 陰陽合徳による経済動機回復の概念
- 4 待対的自由至上主義による経済問題の解決策
- 5 結論および示唆点

大巡思想における経済観

循環的経済観と現代の経済問題の連結

大巡思想の循環的経済観は、四つの核心概念を基盤として現代の経済問題に適用される

陰陽合徳 → 経済動機の回復

待対的(待對的)自由至上主義の財富観を通じて、ギャンブル資本主義が喪失した「自由の拡大」という経済動機を回復

神人調 → 経済倫理の再生

回帰的(回歸的)社会契約主義の分配観を通じて、疎外された経済倫理を現代の経済体制内に再生

解冤相生 → 経済理念の調和

功利主義的労働観を通じて、相互に対立する経済理念間の調和を追求し、葛藤を解消

道通真境 → 環境危機の克服

流行的(流行的)共同体主義の財貨観を通じて、資源枯渇と環境危機を克服する代案を提示

大巡思想の経済観の特徴

- 循環性を中心とする経済観
- 物質と倫理の調和を追求(倫理を水に、財利を火に喩える)。個人の自由と社会的正義を同時に考

自由至上主義の財富觀と陰陽合徳

順序の転換による経済動機の回復

自由至上主義の財富觀の限界

循環性の欠如： 自由の拡大のみに偏り、社会の循環的構造を無視

物質優先： 倫理(本)よりも財物(末)を優先する価値観の形成

動機の喪失： ギャンブル資本主義へと転落し、経済動機の喪失を招来

陰陽合徳の解決策：待対的自由至上主義

自由至上主義 火(財利)
の上に水(倫理)



待対的自由至上主義 水(倫理)
の上に火(財利)

『大学』に「物に本末有り、事に終始有り、先後する所を知れば、則ち道に近し(物有本末 事有終始 知所先後 即近道矣)」とあり、また「其の厚くする所の者薄く、其の薄くする所の者厚きは、未だ之れ有らざるなり(其所厚者薄 其所薄者厚 未之有也)」とあるので、これを鏡として仕事に励め。

経済動機の回復と現代的示唆

待対的自由至上主義の実践的モデル

待対的自由至上主義の実践原理

「我らの仕事は他人をよく成らせる工夫である。他人がよく成り、残ったものだけを取っても足りるのだ...」

- 『典経』教法1章2節

待対的自由至上主義は、「他人が与える前に先に与える」という順序の転換を通じて、経済循環の流れを回復する。

経済動機回復の実践方策

- 個人の力による社会保障的效果の創出
- 能力主義から必要主義への転換
- 物質よりも倫理を優先する経済観の確立
- 経済循環への自発的参加と実践

現代の経済問題に対する示唆

- ギャンブル資本主義の経済動機喪失に対する代案
- 自由と正義の衝突から脱した代案的経済モデル
- 個人の自由と社会的正義の調和の可能性
- 倫理(本)と財利(末)の順序回復による経済危機の克服

結論

大巡思想の待対的自由至上主義は、陰陽合徳の原理を通じて既存の自由至上主義の限界を克服する。「他人をよく成らせる」経済活動は、究極的に経済循環を促進し、個人の経済動機を回復させる。このようなアプローチは、現代経済が直面するギャンブル資本主義と経済動機喪失の問題を解決しうる実践的モデルを提示する。

神人調化と経済倫理の再生

大巡思想の回帰的社会契約主義による経済倫理の
再生と神人調化の意味

2023 学術発表資料 • 発表者：洪吉董 韓国学中央研究院 哲学科

目次

- 1 経済倫理危機の診断
- 2 回帰的社会契約主義とは？
- 3 神人調化の哲学的意味
- 4 回帰的分配観の核心原理
- 5 『典経』の根拠となる節および実際の事例
- 6 社会契約主義と大巡分配観の比較
- 7 構造改革と経済倫理の回復
- 8 結論および示唆点

現代の社会契約主義と資本主義の限界

- ❗ 社会契約主義の逆説
正義の実現を目標としたが、かえって個人主義の深化により共同体基盤が弱体化
- ❗ 経済的自由の過剰
基本的自由と機会均等の強調が、無制限な経済的自由へと変質
- ❗ 倫理的責任の不在
経済活動の共同体的責任と倫理的義務の軽視

社会契約主義の発展の逆説：

「最初の正義の実現という経済倫理の問題を解決しようとした社会契約主義が、意図せず経済倫理の失踪を招来した。」

経済倫理回復の必要性

- ✓ 経済の循環性の回復
資本と富の独占ではなく、社会的循環を通じた分配正義の実現
- ✓ 個人と共同体の調和
単純な契約を超えて、互恵的關係への転換が必要
- ✓ 制度の基礎構造の改革
分配正義を実現するための構造的アプローチの必要性

「人類の経済倫理危機に対して、大巡の回帰的社会契約主義は、経済の循環性に立脚し、制度の基礎構造改革という正義の原初的な力の復活を、現代の経済倫理危機の代案として提示する。」

回帰的社会契約主義の概念

大巡思想が提示する「回帰的社会契約主義」は、既存の社会契約主義の限界を克服し、循環の原理を通じて経済倫理を再生させる思想的枠組みである。

回帰的社会契約主義の循環構造

- 個人と共同体の相生関係の形成
- 経済的行為の倫理的基盤 ↓
- の確立 神明(神明)によ ↓
- る制裁と調律 分配正義 ↓
- の実現と回帰 ↑

回帰性の意味：
「すべての人間の行為は、宇宙的秩序の内で必ず『立ち回り』を経験し、経済分配と社会的報酬もこの循環論理に従う。」

回帰的社会契約主義の特徴

- 🔄 循環的経済動機の回復
経済行為が、断絶した個人の利益ではなく、循環的な互惠関係として再定立
- ⚖️ 既存の契約主義の限界の克服
個人主義と共同体の弱体化から脱し、相生的秩序を構築
- 🔗 神明(神明)基盤の複雑な分配ネットワーク
超越的制裁と恩恵の循環による複雑系的な分配システム
- 🔄 恩恵と感(感)の回帰原理
善行と悪行がいずれも立ち返るという徹底した行為責任性の強調

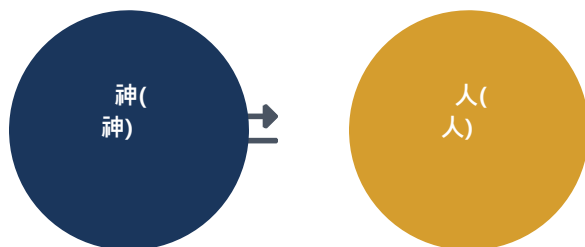
「大巡の回帰的社会契約主義は、第一に、菩薩資本主義の循環的経済動機回復思想をまず強調し、第二に、社会契約主義の経済倫理再生の問題点を循環性の危機として診断し、第三に、社会契約主義的分配観の経済倫理危機の代案として神人調化を提示する。」

神人調化(神人調和)の概念

- 神(神)と人(人)の関係
超越的存在(神明)と人間の有機的な相互作用を通じた調和的秩序の構築
- 二元論的対立の超越
超越と現実、精神と物質、道徳と経済の二分法的対立を超えて、統合的世界観を提示
- 二つの次元の制裁
人間の道徳的義務の遂行(人)と超越的正義の実現(神)の結合

神人調化の本質：

「神人調化は単なる共存ではなく、神明と人間の相互呼応と依存を通じた正義実現の哲学的根拠である。」



経済分配と回帰(回帰)の原理

- 🔄 循環的宇宙観
すべての行為とその結果は、宇宙的秩序の中で必然的に『立ち返る(回帰)』
- 🔄 恩恵と感のメカニズム
肯定的行為(恩恵)と否定的行為(感)がいずれも循環し、当事者へと立ち返る

経済的分配の回帰性

資源と富の公正な循環を通じて、社会的正義と調和を実現

「大巡の回帰的社会契約主義の分配観は、世のすべてのものが循環するという原理に基づき、経済的な富と資源の分配も循環的正義に従って行われるべきことを強調する。」

核心的示唆：

神人調化は、超越的制裁(神明)と人間の意志の結合を通じて、単なる契約を超えて、より深く堅固な経済倫理を可能にする

回帰的分配観の核心原理

-  循環性と回帰の原理
すべての人間の行為は、宇宙的秩序の中で必ず『立ち返る』ことを強調
-  平等と尊重の実践
身分と階層を超越した人間の尊厳の承認と実践的平等
-  神明中心の複雑系ネットワーク
超越的存在(神明)を通じた、より精緻な分配システムの作動
-  感(感)と恩恵の相互作用
怨恨と報恩が循環的に解消される分配倫理の体系

実践的含意：

「回帰的社会契約主義は、分配の正義を単なる個人の責任ではなく、複雑な神明秩序の中での循環的構造として理解する。したがって、個人の自由と権利を超えた共同体的責任と互恵的關係を要求する。」

『典經』の根拠となる節

1. 尊厳性と平等の実践

「上帝は卑賤な人にも必ず敬語をお使いになった...今より後は嫡庶の名分と班常の区別はない」

『典經』教法1章10節

2. 神明を通じた分配の制裁

「上帝が教訓してのたまわく『今、神明をして人に臨ましめ、心に墨縄を当てさせ...』」

『典經』教法3章24節

3. 複雑系的な神明ネットワーク

「汝らは市場や集会に行き、わが言を信じれば生きる道が開けるであろうに...彼らの神明は知るであろうから...」

『典經』教法1章2節

4. 具体的な実践事例

大巡思想と社会契約主義の比較

社会契約主義

- ✕ 個人主義的アプローチ
個人の自由と権利を強調するが、共同体基盤が弱体化
- ✕ 単純な契約関係
契約を通じた社会的協力体系だが、循環性が欠如
- ✕ 責任不在の問題
経済的自由のみが拡大し、倫理的責任は弱体化する

大巡の回帰的社会契約主義

- ✓ 神明(神明)中心の複雑系ネットワーク
超越的制裁倫理と個人の義務の均衡的統合
- ✓ 構造的正義の強調
本源的な制度改革を通じた経済的正義の実現
- ✓ 循環性/回帰性の原理
恩恵と感の回帰を通じた分配正義の実現

比較項目	既存の社会契約主義	大巡思想の回帰的分配観
基本原則	基本的自由、機会均等、自尊心	神明を通じた正当な分配、宇宙的秩序、互惠性
分配メカニズム	市場経済と法的契約	神人調化に基づく互惠的循環体系
システム構造	単純系(契約中心)	複雑系(神明-人間-制度の複合的ネットワーク)
正義実現の方式	個人の権利保障中心	相生(相生)と報恩(報恩)の循環秩序

大巡思想を通じた経済倫理の回復

-  循環性の回復による分配正義
恩恵と感(感)の回帰を通じた経済的循環構造の確立
-  制度の基礎構造の改革
神人調化に基づく公正な分配システムの構築
-  複雑系ネットワークの適用
神明(神明)中心の複合的な責任構造の確立

回帰的社会契約主義の含意：

「大巡の回帰的社会契約主義は、現代の経済倫理危機に対する代案として、経済の循環性に立脚し、制度の基礎構造改革を通じた正義の原初的な力の復活を提示する。」

現代社会に対する示唆

-  倫理的経済体制の可能性
個人主義と利己心ではなく、互惠的關係に基づく経済活動
-  共同体中心の経済倫理
相互尊重と均等な機会の実質的保障
-  韓国固有の思想の現代的適用
大巡思想の神人調化の原理を通じたグローバル経済倫理モデルの提示

結論

「神人調化を通じた回帰的社会契約主義は、単なる理論的モデルではなく、現代の経済倫理危機を実質的に解決しうる実践的パラダイムを提示する。これは循環性と相互性の原理に基づき、経済的分配正義と社会的責任を回復する道である。」

調和

解冤相生と経済理念の調和

大巡思想の中和的功利主義の労働観と経済理念



解冤相生思想が現代の経済理念危機の代案としてどのように作用するかを考察し、大巡思想の中和的功利主義が提示する経済理念の調和について論じる。

中和的功利主義の労働観と経済理念の調和

中和的功利主義の労働観の概念

大巡思想が提示する経済理念の新たなパラダイム



儒教資本主義の循環性と功利主義の結合

最初の公益の実現という経済理念の問題を解決しようとして成立した儒教は、西教の積極的な博愛精神と結合し、資本主義や共産主義のような功利主義へと発展

「大巡思想において労働・生産は循環の結果であるため、循環を妨げない限り、生産に対する欲望は中和性(中和性)によって非常に強調される」



最大多数の最大幸福と少数への配慮

功利主義は最大多数の最大幸福を追求するが、中和的功利主義は少数の犠牲を戒め、彼らを配慮する倫理を強調

「一人が怨恨を抱いても、天地の気運が塞がる」- 『典経』公事3章29節



冤(冤)と解冤(解冤)を通じた相生の循環的構造

多数者による少数者の被害を冤(冤)といい、多数者の少数者に対する配慮を解冤(解冤)といい、これを通じて相生の循環的経済構造を形成

「中和的功利主義は、冤(冤)よりも解冤(解冤)を前に置いた」

解冤相生と経済理念の危機

現代の経済理念の限界と解冤相生による代案の模索



資本主義と共産主義の理念的限界

公益の拡大という経済理念を喪失した資本主義は貧富差の極大化に、共産主義は成長停滞に埋没し、経済理念の危機を招来

「資本主義を生きる現代人は理想を諦め、人間的な自尊心に傷を負い、夢が挫折した日々を耐え抜き、何ら積極的な公益を実現できずにいる。」



市場の循環性と少数者への配慮による調和

大巡の中和的功利主義は、ただ政治的多数決のみを強調した西洋の功利主義とは異なり、市場の効率性の向上と循環性に立脚し、経済理念危機の代案を提示

「大巡思想において効率は経済循環のための核心的な鍵であるため、市場制度内的な効率性を否定し、政治的に別の代案を掲げる功利主義的政治を非常に批判する。」



解冤(解冤)を優先する分配と労働の哲学

革新よりも解冤を優先する大巡思想は、少数者に対する配慮を優先する分配と労働の哲学を提示し、これを通じた持続的な循環構造を強調

「中和的功利主義は、少数への配慮と多数の利益の選択のうち多数の選択を優先する功利主義とは反対に、少数者に対する配慮倫理を優先して提示する解冤相生を示す。」

現代的示唆および結論

解冤相生思想が提示する経済理念の調和と実践方策



社会的安定の基盤の提供

大巡思想の解冤相生は、資本主義と共産主義の理念的対立を超えて、経済理念間の調和と社会的安定の基盤を提供する。

「中和的功利主義において、自らの誠実・敬虔・信念を人は知らずとも天は知るであろうと信じ、他人をよく成らせる人間像は、自由至上主義と社会契約主義、共同体主義をすべて包括して経済理念を調和させる。」



中和的な生産・分配観の確立

多数と少数の利益をいずれも配慮する中和的な生産・分配観を強調し、経済的循環と効率性を同時に達成する。

「中和的労働観においては、多数の利益も少数の利益もすべて一つとみなされる。自分がよく成るには、自分がまず与えればよい。宇宙は循環するので、共同体が配慮した財富は再び共同体へと戻ってくる。」



現代の経済危機の代案

貧富格差、成長停滞、自尊心の喪失など、現代経済の危機に対する代案として、解冤相生の実践的な経済倫理が必要である。調和

「資本主義を生きる現代人は理想を諦め、人間的な自尊心に傷を負い、夢が挫折した日々を耐え抜いている。中和的功利主義は、市場の効率性の向上という公益の原初的な力の復活を、現代の経済理念危機の代案として提示する。」



道通真境と環境危機の克服

大巡思想の流行的共同体主義を通じた環境危機克服方策に関する学術的探究

2025年6月22

日 発表者：

〇〇〇

〇〇大学 〇〇学科



目次



- 1 環境危機の背景
- 2 大巡思想の流行的共同体主義の概念
- 3 西欧の共同体主義の問題点
- 4 道通真境の代案の提示
- 5 実際の事例分析
- 6 結論および示唆点

環境危機の背景

 環境危機のイメージ

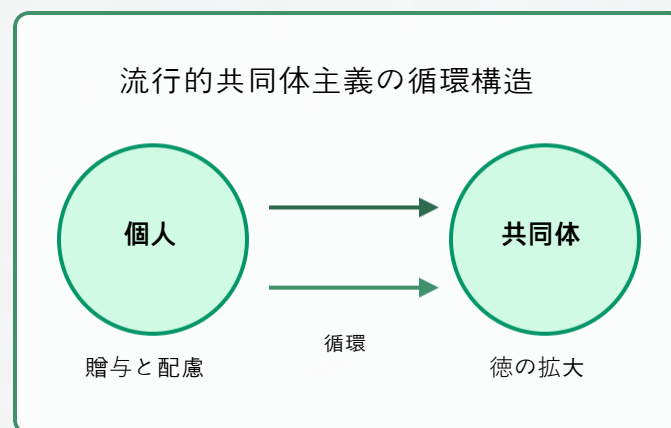


- 今日、人類は深刻な環境危機に直面しており、これは持続的な経済発展の過程で予期せぬ結果として現れている。
- 西欧の共同体主義は、本来、経済環境の改善と共同体の実現を目標としたが、循環論的観点の欠如により環境危機を招来することとなった。
- 西欧の資本主義体制は物質的発展には成功したが、自然環境への配慮が不足し、結果的に環境の破壊へとつながった。
- 人類共同体は経済的豊かさを享受するに至ったが、同時に共同体の絶滅の危機に直面するという矛盾した状況に置かれることとなった。
- 現代社会は環境危機に対する効果的な対応を見出せぬまま、持続可能な未来への確信もなく今日を生きている。

大巡思想の流行的共同体主義の概念

- 流行的(流行的)共同体主義は大巡思想の核心概念であり、経済的循環の原理を重視し、共同体と個人の均衡を追求する。
- 大巡思想において財貨は循環の結果であるため、循環を妨げない限り、共同体と財貨に対する贈与の欲望は非常に強調される。
- 共同体の利益とともに共同体の正義を優先し、個人の財産を共同の目的に用いる博愛主義的な財貨観を認める。
- 西欧の共同体主義とは異なり、大巡思想の財貨観は循環を前提とする限り、より流行志向的であり、自然環境との調和を追求する。

🖼️ 循環と調和のイメージ



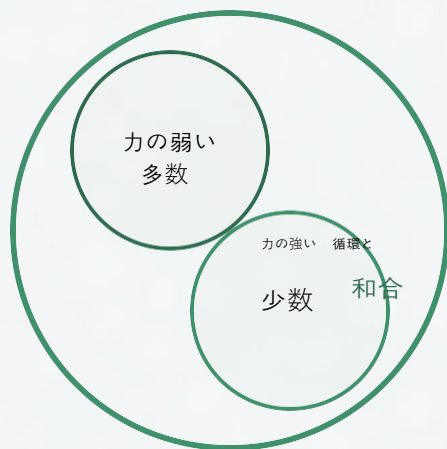
西欧の共同体主義 の問題点

 不均衡のイメージ



- 西欧の共同体主義は、循環性の欠如により経済的均衡を成し得ず、環境危機を加速させた。
- 共同体の卓越性を過度に強調し、公益の基盤となる個人の価値を無視するという構造的問題点が発生した。
- 経済環境の改善に寄与したが、循環論的観点の欠如により、自然環境との調和よりも物質的発展のみに偏った。
- 市場制度内の卓越性を否定し、政治的代案を口実とする共同体主義的アプローチは、かえって経済環境を疲弊させた。
- 共同体のみのためという名分で環境との関係性を看過することにより、人類は経済的豊かさの中でも生態的危機に直面することとなった。

道通真境：新たな代 案の提示



- 道通真境は、二つ以上の体系が互いに流行的に作用する循環を意味し、力の強い者と力の弱い者の和合が成された世界を志向する。
- 功利主義が力の強い少数の選択を優先するのとは異なり、道通真境は力の弱い多数者に対する配慮倫理を重視する。
- 既存の共同体主義とは異なり、流行的共同体主義は双方の要請を同時に満たし、自然環境との調和を追求する。
- 環境危機の克服のために循環性の原理を回復し、経済活動の主体たちが相互に配慮する構造を形成する。
- 道通真境は、人類共同体の持続可能性を担保する新たなパラダイムであり、環境危機克服の代案的思想体系を提示する。



事例分析



- **自発的な贈与と模範：上帝が財産を売って乞食たちに分け与える模範を示すことにより、一進会の会員たちが略奪を中止し、自らの財産で共同体のために行動するようになった**

「彼らをして今後、甲午(甲午)のような略奪の民弊をなくし、彼ら各自が自己の財産を使うようにさせよう。わたしがまず模範を作らねばならぬ」-『典經』教運1章15節

- **共同体関係の回復：申京鉉の事例を通じて、共同体内の不和を和解へと転換し、是非が位置ではなく行動にあることを示す**

「すべての事における是非はみなわたしにあるのであって、位置によってあるのではない。今より後は万事をよく考えて行おうべし。」-『典經』教法3章18節

- **言葉と行動の流行性：個人の言葉と行動が自らへと循環して立ち返る原理を説明**

「悪を將に除き去らんとすれば草に非ざるはなく、好を取り看来たれば総て是れ花なり(惡將除去無非草 好取看來總是花)。言葉は心の叫びであり、行いは心の跡である。他人をよく言えば徳となって...わが身に至るのである」-『典經』教法1章11節



結論および示唆点



- 大巡思想の流行的共同体主義は、西欧の共同体主義の限界を克服する代案的思想として、環境危機の解決に寄与しうる。
- 道通真境は、力の弱い多数と力の強い少数の和合を志向し、共同体の循環的構造を通じて環境問題を根本的に解決する方向を提示する。
- 西欧の共同体主義が招来した環境危機を解決するためには、循環的な財貨観と流行性に基づく経済観が必要である。
- 財貨の贈与と循環が強調される大巡思想は、現代の資本主義社会において、個人の利己心と生態系の破壊を超える倫理的基盤を提供する。
- 今後の課題としては、道通真境の現代的適用方策と、グローバルな環境危機に対応する共同体モデルの開発が必要であり、これを通じて持続可能な未来のための代案を提示しうるであろう。



大巡思想の循環的経済観

学術発表

● 貨幣の二重性：自由の宝庫でありまた軛(くびき) 循環の必

● 要性で大巡思想のアプローチ



● 著者：[発表者の氏名と所属]と循環経済学の代案 所属：[所属機関]

● 甌(シル)経済学：韓国的経済学の可能性
● 日付：[発表日]

目次

1

貨幣

2

現代経済学の限界と循環経済学の代案

3

大巡思想の循環的経済観の核心概念

4

儒仏道と西教の経済思想の比較

5

現代の経済問題の解決策

6

韓国経済の特殊性と循環論的
背景

甌(シル)経済学と人尊思想

結論および今後の課題

1 貨幣の二重性と循環の必要性

⚖ 貨幣の二重性

「貨幣は人間の自由の宝庫であり、また自由の軛(くびき)であって、循環以外には解けない難解な存在である。」

⚠ 循環中断の危機

循環が中断されると、経済動機の失踪、経済倫理の崩壊、環境危機などが招来される

🔄 大巡思想の循環観

大巡思想では、儒仏道を循環させて今日の経済問題を解決しようとする。経済と倫理の統合、人間存在の意味の回復へとつながる



2 現代経済学の限界と循環経済学の代案

新古典派経済学の限界

「現代は資本主義時代で、財物を最も尊重する時代というが、相対的に経済学は隠蔽させる時代である。」

需要と供給の曲線のみでは、貨幣循環の秘密と儒仏道との関連が隠蔽される

循環的経済学の代案

自由と共同体の間の循環を通じて、社会契約に基づく健全な自由を追求。経済と倫理の統合を通じて人間の経済動機を回復

現代の経済危機の解決

循環的観点から、環境危機、経済動機の失踪、倫理の崩壊、理念の混乱などを同時に解決

新古典派経済学

個人の自由の極大化

経済と倫理の分離

環境問題の外部化

理念的分裂の固着化



循環的経済学

自由と共同体の均衡

経済と倫理の統合

環境と経済の循環

儒仏道と西教の統合

3 大巡思想の循環的経済観の核心概念



経済動機：自由の追求

「人間の究極的な経済動機は自由にある。しかし自由は循環が前提されて初めて可能である。」

共同体を形成した後、再び自由への道を歩むという循環論的アプローチ



共同体の公利と社会契約

「自由は健全な社会契約に基づき、社会契約は共同体の公利に、共同体の公利は共同体の存在自体に基づく。」



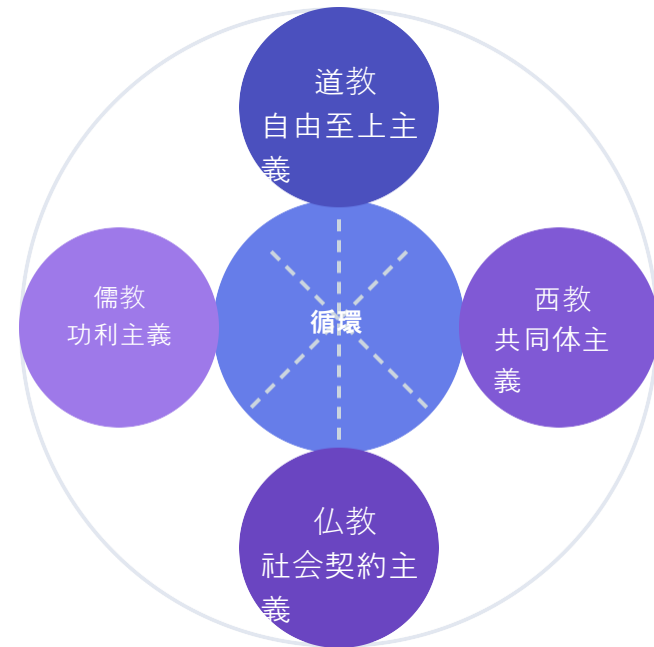
経済と倫理の統合

「聖雄を兼ね、君師位が一つの筋となるべきである」
礼義(禮義)と禄(祿)をともに重視し、経済と倫理の総合を追求



4 儒仏道と西教の経済思想の比較

思想	経済理念	核心的価値
道教(道教) 自由至上主義	無為自然 市場の自然な流れの尊重	自由と個人 陰陽合徳を通じた循環的自由の追求
仏教(佛教) 社会契約主義	縁起(縁起) 相互依存的な経済関係	分配と正義 神人調化に基づく回帰的分配
儒教(儒教) 功利主義	經世済民 社会全体の利益の重視	公益と秩序 解冤相生に基づく中和的功利
西教(西教) 共同体主義	共同善 共同体中心の経済活動	環境と持続性 流行的共同体主義の財貨観



5 現代の経済問題の解決策

! 現代経済の危機

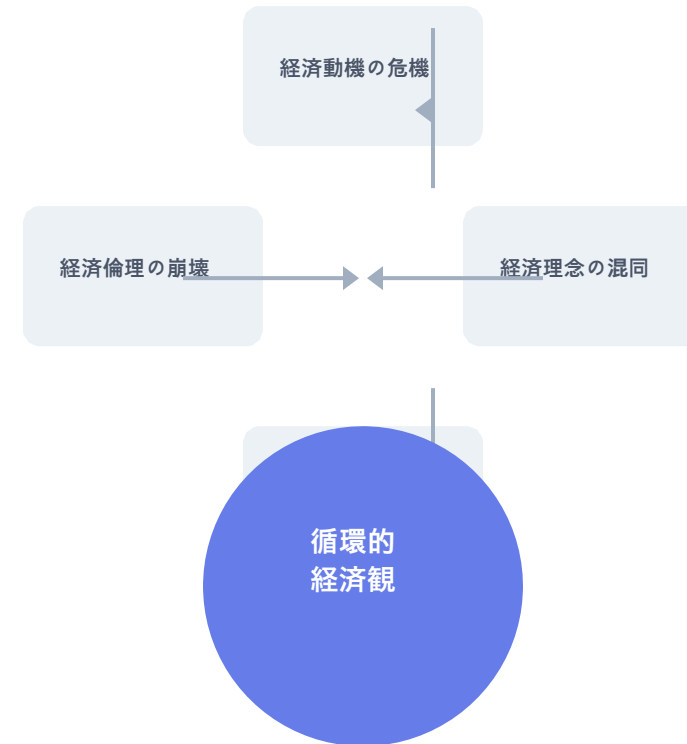
経済動機の失踪、経済倫理の崩壊、経済理念の混同、環境危機など複合的な問題が発生

🔄 循環的経済観による解法

大巡思想は、陰陽合徳、神人調化、解冤相生、流行的共同体主義を通じた解決策を提示

🔗 統合的アプローチ

経済動機：待対的自由至上主義の財富観 経済倫理：回帰的
社会契約主義の分配観 経済理念：中和的功利主義の労働観
環境問題：流行的共同体主義の財貨観



6 韓国経済の特殊性と循環論的背景



韓国経済の特異性

世界的な経済危機の中でも日本経済を追い越した韓国経済。18世紀まで世界2位圏の経済力を維持していた歴史的背景



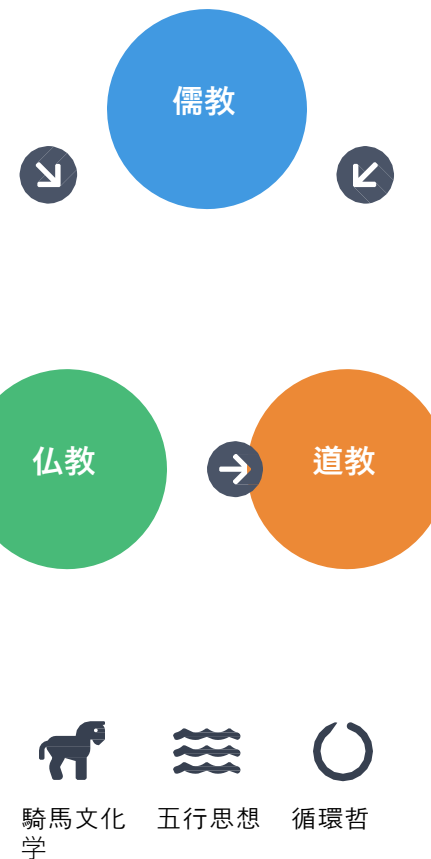
循環論的思想の基盤

儒仏道の三合の循環論を最大の特徴とする韓国思想。固有の騎馬文化と五行の国としての循環科学の伝統



家族中心の共同体循環

世界唯一の儒教文化圏として家族を経済の基本とする。人尊思想に従った家族と先霊神の重視、共同体循環の基礎



7 甗(シル)経済学と人尊思想

甗(シル)と釜の象徴

「甗は個々の米粒が餅を蒸すことにより一つの塊となる器であり、すべての分裂した族属と文明・思想を一つに集め、一つに帰一させることを象徴する」

釜の三本脚は天地人の体、甗の円は天地人の用として、陰陽関係を形成

人間中心の循環経済学

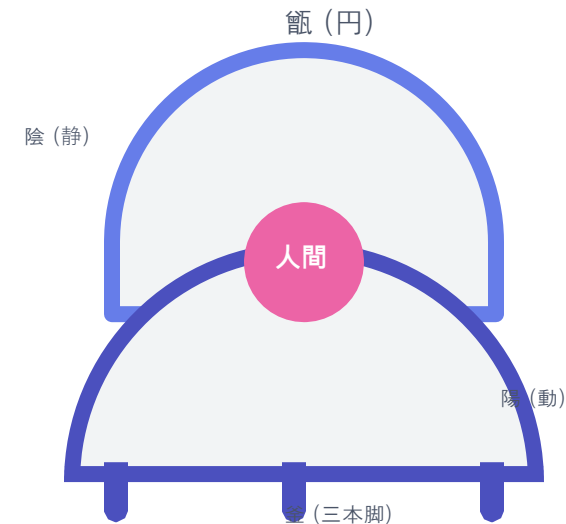
「大巡の人尊思想において、人間は循環の中心となって万物を甗のよう」に熟成

精神と肉体という陰陽で自己言及のフィードバックを行う、人間中心の経済観

韓国伝統の融合的特性

「韓国はビビンバ文化で、混ざることを嫌う日本文化とは異なり、混ぜることに味と趣を見出した。」

大巡真理会の医療、社会福祉、奨学事業などを通じた循環的経済観の実践





循環的経済観の意義

大巡思想の循環的経済観は、既存の科学の還元主義的方法論に対比される新たなアプローチである
経済と倫理、人間と自然の調和的な循環を通じて、現代の経済問題の解決可能性を提示



甌(シル)経済学の現代的適用

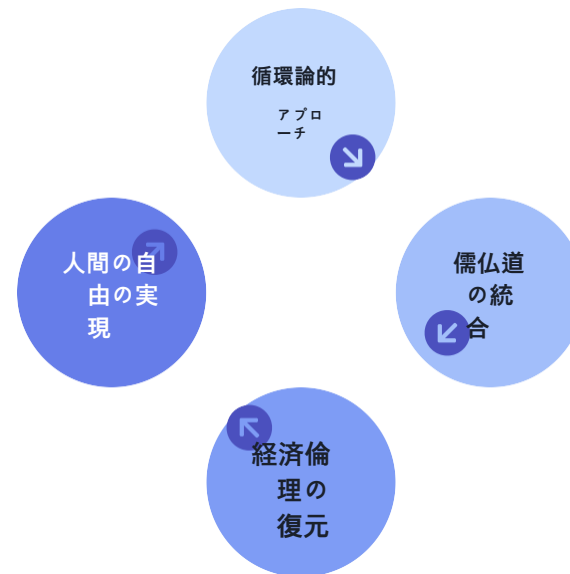
韓国的経済学として、個人の経済問題と理念分断の難題を解決可能。すべてが貨幣化された社会において、貨幣循環を通じた自由の達成



今後の研究課題

個人の経済状況の好転のための具体的な実践方策の研究。
循環的経済学の実用的適用および検証

大巡思想の循環的方法論を、様々な経済・科学分野に適用



「すべてが貨幣化された今日、貨幣が循環すれば、人間と万物の自由を達成することができる。」